

平成 27 年度

佐渡市教育委員会

佐渡学センター一年報

第 7 号

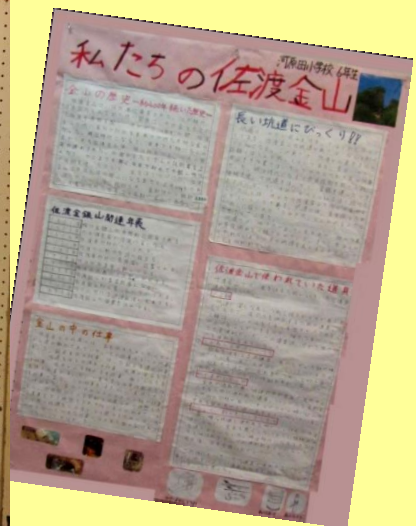
佐渡市教育委員会 社会教育課 佐渡学センター

この年報の著作権は佐渡市教育委員会に帰属します。ただし、画像などは、所有者や執筆者に著作権があるものがあります。著作権法上の「私的利用」や「引用」の範囲を超えて使用する場合には、佐渡学センターまでお問い合わせください。ただし、掲載資料の使用に際して発生した障害には、佐渡市教育委員会は一切の責任を負いません。

佐渡学センターの取り組み 紹介

平成 27 年度 “金の道” の総合学習（関連する 57 頁をご覧ください）

江戸時代、佐渡金山から産出された金や銀は人や馬、船によって江戸まで運ばれました。佐渡市では、この金銀輸送路を“金の道”と名付け、沿線の宿場町がある自治体間の交流を図り、「金の道サミット」を 11 月 7 日（土）に開催しました。この総合学習では、金の道沿線にある島内の小学校が金の道に関する郷土学習を行い、その成果を佐渡博物館において展示発表したものです。



シンポジウム「遺物・遺跡の語る 佐渡の古墳時代」（関連する 74 頁をご覧ください）

佐渡が“佐渡国”になる前の時代、対岸の越後や中央大和政権とはどんなかわりを持ったのかに迫るシンポジウムが新潟大学との共同で開催されました。佐渡に残る集落遺跡や古墳を巡る現地見学会と、研究者による講演、行政担当者による報告が行われ、活発な意見交換の場となりました。



現地見学会の様子（真野宮移築古墳石室にて）



橋本博文教授（新潟大学人文学部）による講演
「古墳時代佐渡の文化交流史」

佐渡学セミナー（関連する 78 頁をご覧ください）

新潟大学から 2 名の先生をお招きしました。

地理学を専門にされる堀准教授には、庄内沖地震（1833）と新潟地震（1964）の被害状況を比較し、被災の有無を分けた諸条件に迫る調査研究の中間報告としてお話しいただきました。

また、佐渡看護専門学校の講師もしておられる井山教授には、「笑いの科学／科学の笑い」と題し、お笑い番組や喜劇映画の 1 シーンなどを上映しながらのユニークな講演をしていただきました。



堀健彦准教授（新潟大学人文学部）による講演
「1964 年新潟地震による佐渡両津の津波被害について」

刊行にあたって

巻 頭

佐渡学センター所長 高藤一郎平

市立佐渡博物館 2 年目を迎えた平成 27 年度は、年度当初から不祥事が発覚し、事務所内はもちろんのこと、博物館を所管する行政組織もそれに振り回される不本意な滑り出しとなってしまいました。

何よりも日ごろから博物館活動を支援してくださっている皆さんに大きな迷惑をおかけし、不愉快な思いをさせてしまったことは、幾重にお詫びしてもし切れない苦しい思いが続く毎日でした。

巻頭言で触れる事柄ではないのではないかと何度か自問しましたが、今後の活動が健全に運ばれるための糧とするためにもあえて書き込みました。

まことに申し訳ありませんでした。

市内の博物館、資料館施設の合理的な運営はどの方向へ進むべきなのか。合併から 10 年経過してもその具体化は遅々として進まない検討課題を抱えていた中で佐渡博物館が佐渡市に移管され、市内各施設の中核館となる位置づけを明確にしています。

各市町村で運営され、各施設の所蔵とされている資料は、各館の所有物という感覚が拭い去れないまま保存されていました。基本的な視点は各市町村単位で評価されていたのがその姿であったと思います。

しかしながら、基本単位と認識していた市町村は、まぎれも無く一つの島「佐渡」の中に所在しています。

佐渡の資料であるという考え方を定着することが、今後の活動の基本になるものであらうと思います。

そんな当たり前のことが定着する活動を計画したいと思っています。

27 年度は文化庁の補助事業で市内の民俗資料活用の方向性について検討する機会を得ました。その事業の中で世界的な博物館である国立民族学博物館の須藤館長（佐渡市椎泊出身）から講演いただき、大小に関わらず博物館は 1.楽しめる、2.ふれあえる、3.文化をまもり、生みだす場。になるべきだということをお聞きしました。

佐渡というフィールドを基本に活動を進め、各地との交流が盛んになる博物館活動を展開していきたいと思っています。

今後とも、皆様のご支援をお願いいたします。

目 次

刊行にあたって

I.	佐渡学センター設置までの経緯	1
II.	管理運営の状況	4
III.	文化庁補助事業	19
IV.	佐渡学センター事業報告	
	1. 展示事業	30
	2. 収集保管事業	37
	3. 調査研究事業	38
	4. 普及教育事業	57
	5. 支援・助成事業	74
	6. 連携事業	74
	7. イベント（共催事業）	79
	8. 刊行物	79
V.	関係団体	84
VI.	日誌抄	85

I. 佐渡学センター設置までの経緯

沿 革

【平成 16 年度】

佐渡伝統文化研究所を設置することを佐渡市長が表明する。

【平成 17 年度】

佐渡伝統文化研究所準備室を佐渡市教育委員会生涯学習課に設置した。

準備室室長 木下 勉
情報指導員 池田 雄彦
準備室係長 北見 継仁
主 事 山口 忠明
主 事 渡邊 智美

佐渡市長の平成 17 年度『施政方針』で、「研究所の基本理念」として、「佐渡の歴史と文化を再認識し、有形無形の歴史・文化資産を保護継承し、子々孫々まで残していくことは現代に生きる私たちの責務であると考えます。そのため、島内の研究者や伝統技術・技能の伝承者を集め、貴重な資料の散逸を防ぎ、専門の研究機関を設置することで、各地に残る貴重な資産・資料把握、保存整理研究が行える『佐渡伝統文化研究所』（仮称）の設立を行い伝統文化の継承に努めます。」と表明する。

【平成 18 年度】

佐渡伝統文化研究所準備室を佐渡市教育委員会文化振興課内に設置した。

準備室室長 菊池 克己
情報指導員 池田 雄彦
準備室係長 北見 継仁
主 事 鹿取 渉

【平成 19 年度】

佐渡伝統文化研究所を佐渡市教育委員会世界遺産・文化振興課内に設置した。設置場所は、梅津

の佐渡市中央公民館から両津湊の佐渡市役所両津支所 3 階に移動する。

所 長 石瀬 佳弘
次 長 高藤 一郎平
情報指導員 池田 雄彦
係 長 北見 継仁
主 事 滝川 邦彦

設立趣旨を、「佐渡は、古くから島外の文化を受け入れながら島独自の文化を形成し、貴重な民俗芸能や伝統的な行事なども継承されている。また、多様な地形や植生・地質など、自然環境にも恵まれている。このような文化遺産や自然環境は島内外の人々にとって大きな魅力となっているが、十分な調査や保存が行われているとは言えない状況にあった。

このような貴重な文化遺産の価値を島民に十分理解してもらい、その調査と保存・活用を図るべく、佐渡伝統文化研究所準備室を設置してその任に当たって来た。本年度から本格的に活動を目指して正式な『佐渡伝統文化研究所』を設立した。今後は、貴重な資料の散逸を防ぎ、データを集積して広く情報を発信しながら島民の皆さんは勿論、佐渡を訪れる多くの方々に利用して頂けるように努めたいと考えている。」として掲げ、活動を開始した。

【平成 20 年度】

重点施策として、「佐渡伝統文化研究所の体制づくりの推進及び佐渡の歴史・文化・自然に関する調査・研究とデータベース化、デジタルアーカイブ化の構築」とした。

所 長 石瀬 佳弘
次 長 北見 継仁
情報指導員 池田 雄彦

主 事 滝川 邦彦
研究員補助 八木 千恵子

【平成 21 年度】

研究所の機能を拡充強化することによって、地域学の拠点化を図るために、本年度から「佐渡伝統文化研究所」の名称を「佐渡学センター」に改称し、組織体制として新たに文化・学芸係を置き、佐渡島内の博物館・資料館管理運営及び学芸業務も統合した。また事務所も両津郷土博物館内に設置した。

＜重点施策＞

○伝統芸能を始め、歴史・文化遺産の保存・継承、活用は、重要な課題であり、平成 21 年度は市民と協力して、基本方針となる文化振興ビジョン策定に取り組む。

○伝統と魅力ある地域文化の保存・継承を目的として、佐渡の歴史・文化・自然等に関する研究や情報発信、資料のデータベース化を行う。

○地形や地質など自然遺産が豊富な島である「佐渡」を、国内はもとより広く世界に紹介できるよう、大学等の関係機関との連携を図りながら、ジオパークとして世界認定を受けるための準備を進める。

所 長 石瀬 佳弘
次 長 北見 継仁
情報指導員 池田 雄彦
文化・学芸係長 野口 敏樹
主 事 山口 忠明
主 事 宇治 美徳
主 事 須藤 洋行
主 事 滝川 邦彦

【平成 22 年度】

＜重点施策＞

○佐渡の歴史・文化・自然等に関する調査・研究及び情報収集を行うとともに、その成果をデジタルアーカイブ化し、ホームページや報告書等の

刊行及びシンポジウム等の開催による情報発信を、博物館・資料館と協働しながら行う。

○伝統芸能活動支援として、能楽体験学習、後継者育成事業、特別活動支援等の補助事業を行う。

○ジオパーク認定を目指した取り組みを進める。

○新潟大学人文学部等との協働事業を推進する。

所 長 渡邊 剛忠
次 長 北見 継仁
情報指導員 池田 雄彦
文化・学芸係長 野口 敏樹
主 事 山口 忠明
主 事 須藤 洋行
主 事 滝川 邦彦

【平成 23 年度】

＜重点施策＞

○佐渡の歴史・文化・自然等に関する調査・研究及び情報収集を行うとともに、その成果をデジタルアーカイブ化し、ホームページや報告書等の刊行及びシンポジウム等の開催による情報発信を、博物館・資料館と協働しながら行う。

○伝統芸能活動支援として、能楽体験学習、後継者育成事業、特別活動支援等の補助事業を行う。

○新潟大学人文学部等との協働事業を推進する。

所 長 渡邊 剛忠
次 長 本間 俊一郎
情報指導員 池田 雄彦
文化・学芸係長 野口 敏樹
主 任 滝川 邦彦
主 任 須藤 洋行
主 事 山口 忠明
雇 員 本間 裕亨（研究員補助員）

【平成 24 年度】

＜重点施策＞

○佐渡の歴史・文化・自然等に関する調査・研究及び情報収集を行うとともに、その成果をデジタルアーカイブ化し、ホームページや報告書等の

刊行及びシンポジウム等の開催による情報発信を、博物館・資料館と協働しながら行う。

○伝統芸能活動支援として、能楽体験学習、後継者育成事業、特別活動支援等の補助事業を行う。

○新潟大学人文学部等との協働事業を推進する。

所 長 渡邊 剛忠

次 長 本間 俊一郎

学芸専門員 北見 継仁

情報指導員 池田 雄彦

文化・学芸係長 野口 敏樹

主 任 滝川 邦彦

主 任 須藤 洋行

主 事 山口 忠明

雇 員 本間 裕亨（研究員補助員）

【平成 25 年度】

＜重点施策＞

○佐渡の歴史・文化・自然等に関する調査・研究及び情報収集を行うとともに、その成果をデジタルアーカイブ化し、ホームページや報告書等の刊行及びシンポジウム等の開催による情報発信を、博物館・資料館と協働しながら行う。

○行政改革における施設の統廃合が急務であり、博物館・資料館の管理体制の見直しを図る。

○伝統芸能活動支援として、能楽体験学習、後継者育成事業、特別活動支援等の補助事業を行う。

○新潟大学人文学部との協働事業を推進する。

所 長 渡邊 剛忠

次 長 藤井 甚栄

学芸専門員 北見 継仁

情報指導員 池田 雄彦

主 任 滝川 邦彦

主 任 須藤 洋行

主 事 山口 忠明

雇 員 本間 裕亨（研究員補助員）

【平成 26 年度】

＜重点施策＞

○施設（博物館・資料館）における収蔵品の保存・活用や指定文化財等の保管管理の徹底と収蔵資料のデータベース化を推進する。

○行政改革における施設の統廃合を推し進め、博物館・資料館の今後の管理体制の見直し、効率的に運営を図る。

○佐渡博物館を佐渡市の総合的な博物館と位置づけ、三資産の普及啓発活動と連携しながら、学校教育での活用、市民にとって親しみやすい博物館づくりに努める。

所 長 渡邊 剛忠

次 長 藤井 甚栄

情報指導員 池田 雄彦

主 任 中川 扇美

主 任 滝川 邦彦

主 任 山口 忠明

主 事 中川 優子

主 事 小田 和也

雇 員 本間 裕亨（研究補助員）

雇 員 伊藤 文恵（佐渡博物館）

雇 員 本間 裕徳

（相川郷土博物館金泉収蔵庫）

Ⅱ．管理運営の状況

【平成 27 年度 佐渡学センター運営方針】

- 各施設（博物館・資料館）における資料の受入れ及び保存管理を適切に行うとともに、資料の統一台帳のデータベース化を推進する。
- 佐渡博物館を中心としたそれぞれの博物館・資料館の今後のあり方と資料の活用方法について再検討する。

【博物館・資料館(文化学芸係)運営方針】

＜重点施策＞

- 佐渡博物館を佐渡市の総合的な博物館と位置づけ、三資産の普及啓発活動と連携しながら、学校教育での活用と市民にとって親しみやすい博物館づくりを目指した佐渡博物館活用計画を策定する。

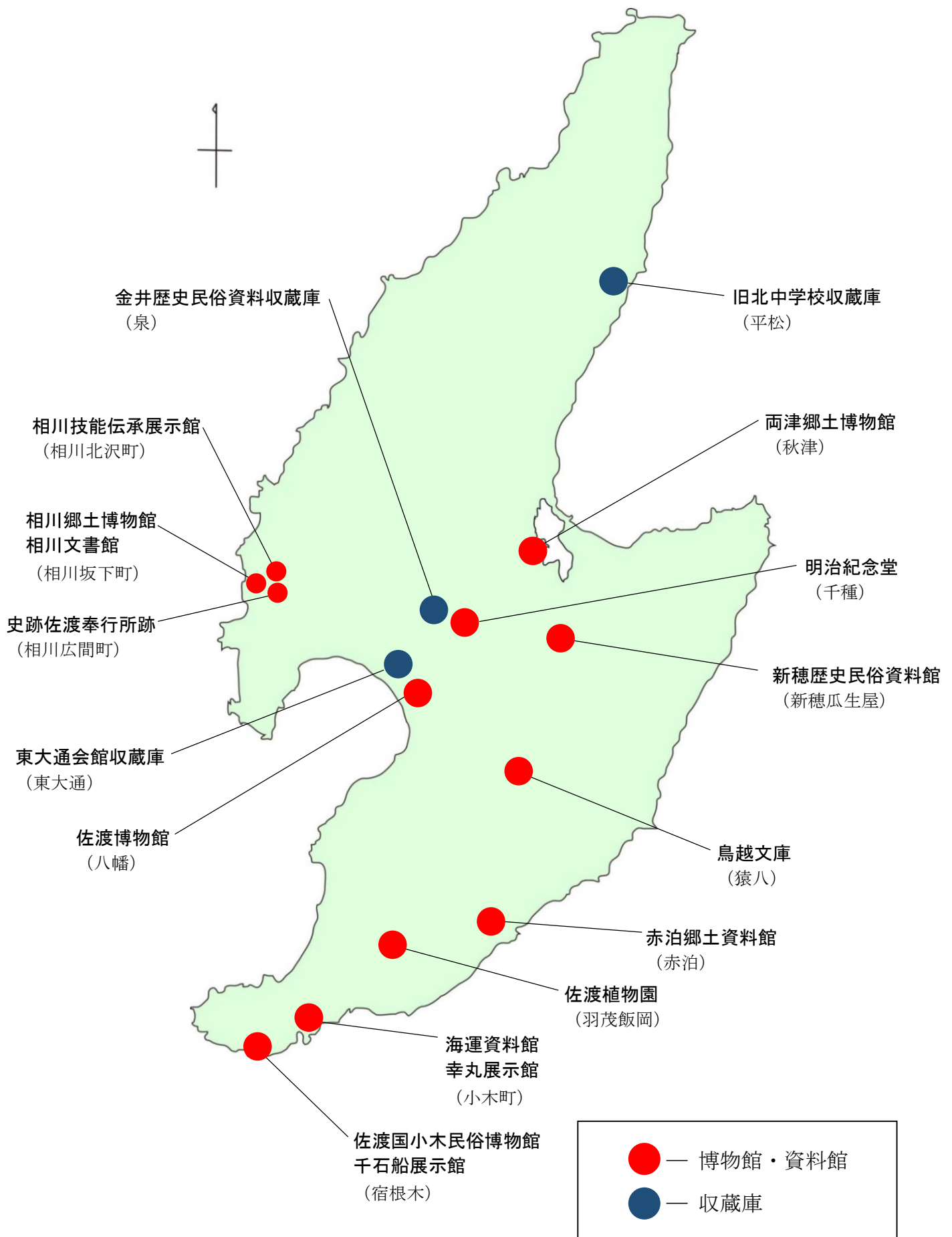
＜運営方針＞

- 佐渡金銀山に関連した歴史や文化をもつ小学校を対象に、郷土を学ぶ機会を提供し、郷土愛の醸成につなげる。
- 佐渡市小学校研究会社会科部が製作した教材により、博物館の展示内容が子どもたちに楽しみながら理解されるよう活用する。
- 伝統文化等保存支援事業（補助事業）
佐渡島内に伝承されている伝統芸能等の後継者・保持団体の活動に対し補助事業を実施、伝統文化の保存・伝承・活用を図る。
- 佐渡の歴史・文化・自然等に関するレファレンス業務の推進を図る。
- 博物館・資料館管理の徹底を図る。
- 博物館の企画展示の計画的な開催を目指す。
- 博物館への多様なニーズに対応し、学校教育や大学・世界遺産・ジオパーク・ジアスの政策と連携を図りながら資料展示の充実を図る。

【組織】

所長	高藤	一郎平	
次長	深野	まゆ子	
主任	中川	扇美	
主任	滝川	邦彦	
主事	中川	優子	
主事	小田	和也	
雇員	伊藤	文恵	（佐渡博物館）
雇員	中村	政春	（佐渡博物館）
雇員	荒貴	泰斗	（佐渡博物館）
雇員	宇田	美智子	（相川郷土博物館）
雇員	本間	裕徳	（相川郷土博物館）
雇員	小林	尚子	（相川郷土博物館）
雇員	佐々木	妙子	（佐渡国小木民俗博物館）
雇員	和泉	めぐみ	（佐渡国小木民俗博物館）
雇員	岩崎	千代美	（史跡佐渡奉行所跡）
雇員	山川	由紀江	（史跡佐渡奉行所跡）
雇員	中川	宏太	（史跡佐渡奉行所跡）
雇員	水上	祐子	（史跡佐渡奉行所跡）
雇員	河村	厚子	（史跡佐渡奉行所跡）
雇員	萩田	裕子	（史跡佐渡奉行所跡）
雇員	山本	加奈子	（相川技能伝承展示館）
雇員	佐々木	さゆり	（相川技能伝承展示館）
雇員	山本	悦子	（相川技能伝承展示館）
雇員	小杉	栄枝	（相川技能伝承展示館）
雇員	寺尾	フジ子	（相川技能伝承展示館）

佐渡市立博物館・資料館・収蔵庫など



施設の状況等

【佐渡博物館】

開館年度 昭和 32 年度



<施設概要>

所在地 佐渡市八幡 2041 番地

敷地面積 6647.9 m²

建物総面積 1632.05 m²

構造・階数 鉄筋コンクリート造 2 階建

展示室 856.16 m²

収蔵庫 107.79 m²

図書室 25.69 m²

会議室 33.77 m²

事務室 67.96 m²

その他 540.68 m²

駐車場 大型バス 3 台・普通車 20 台

<総事業費>

不明

備考 平成 25 年 11 月 30 日までは財団法人の運営。平成 26 年 4 月 1 日から佐渡市が運営している。

【両津郷土博物館】

事業名 社会教育施設等整備費補助金

建設年度 昭和 56 年度



<施設概要>

所在地 佐渡市秋津 1596 番地

敷地面積 49.590 m²

建築面積 1,373.59 m²

構造・階数 鉄筋コンクリート造 2 階建
地下 1 階

駐車場 約 50 台

<総事業費>

515,912 千円

備考 来館時は予約が必要。

【相川郷土博物館】

事業名 相川小学校 80 周年記念事業

開館年度 昭和 31 年度



<施設概要>

所在地 佐渡市相川坂下町 20 番地

敷地面積 (総面積) 3,150 m²

建築面積 (総面積) 1,055.16 m²
構造・階数 木造平屋建 (一部 2 階建)

御料局佐渡支庁跡 (2 階建) 172.24 m²
展示室 (1 階) 244.89 m²
特別展示室・準備室 84.60 m²
事務室・その他 117.19 m²
有田八郎記念館 116.76 m²
収蔵庫 198.00 m²
名誉町民資料館 55.48 m²

駐車場 相川技能伝承展示館と共用 約 20 台

<総事業費>

不明

備考 明治 22 年建築。相川小学校 80 周年記念事業として収集した歴史・鉱山・民俗資料を、鉱山縮小によって空いた鉱山事務所を利用して郷土博物館として昭和 31 年 7 月に開館した。

【相川文書館】

建設年度 昭和 51 年度 (移築)



<施設概要>

所在地 佐渡市相川坂下町 20 番地
(相川郷土博物館敷地内)

建築面積 66 m²

構造・階数 木造平屋建

駐車場 相川技能伝承展示館と共用 約 20 台

<総事業費>

移築費 4,000 千円

備考 大正 2 年に「相川銀行」の行舎として、羽田町に建てられた。その後第四銀行合併を経て、相川町に寄附され、昭和 51 年に相川文書館として現在の場所に移築された。

【相川技能伝承展示館】

事業名 地域バイタリティ育成事業全体計画

建設年度 昭和 60～61 年度



<施設概要>

所在地 佐渡市相川北沢町 2 番地

敷地面積 2,271 m²

建築面積 712.17 m²

構造・階数 鉄筋平屋建 (一部 2 階建)

陶芸実習室 109.31 m²

裂織り実習室 93.57 m²

資料展示室 109.31 m²

窯小屋・登り窯 49.68 m²

工房 102.69 m²

ホール 137.75 m²

事務室・その他 109.86 m²

駐車場 相川郷土博物館と共用 約 20 台

<総事業費>

81,532 千円

【史跡佐渡奉行所跡】

事業名 佐渡金山遺跡佐渡奉行所保存整備事業
建設年度 平成 7～18 年度



<施設概要>

所在地 佐渡市相川広間町 1 番地 1

敷地面積 18,542 m²

建築面積 1,541.6 m²

構造・階数 木造平屋建

御物見 34.7 m²

御役所 990.0 m²

御門番所 32.0 m²

御普請方役所 140.4 m²

勝場 344.5 m²

駐車場 大型バス 3 台、普通車 約 20 台

<総事業費>

2,387,984 千円

【佐渡国小木民俗博物館（旧館）】

開館年度 昭和 47 年度



<施設概要>

所在地 佐渡市宿根木 270 番地 2

敷地面積 （総面積）11,192 m²
（旧館）9868.96 m²

延床面積 2,930 m²

構造・階数 木造平屋建

駐車場 10 台

<総事業費>

19 万円

備考 大正 9 年に建てられた木造校舎をそのまま利用し、昭和 47 年 6 月に開館した博物館。

【佐渡国小木民俗博物館（新館）】

事業名 農村地域農業構造改善事業
（自然活用型）

建設年度 昭和 56～59 年度



<施設概要>

所在地 佐渡市宿根木 270 番地 2

建築面積 627.52 m²

構造・階数 鉄筋コンクリート平屋建

駐車場 旧館と共用 10 台

<総事業費>

87,194 千円

【千石船展示館】

事業名 山村振興等農林漁業特別対策事業
建設年度 平成 8～9 年度



＜施設概要＞

所在地 佐渡市宿根木 270 番地 2
建築面積 695.52 m²
構造・階数 木造平屋建

＜総事業費＞

135,366 千円

【海運資料館】

事業名 離島開発総合センター建設事業
建設年度 昭和 54～55 年度



＜施設概要＞

所在地 佐渡市小木町 1941 番地 1
(南佐渡離島開発総合センター内の 2 階)
敷地面積 1428 m²
建築面積 1616.13 m²

延床面積 500 m²
構造・階数 鉄筋コンクリート 3 階建
(一部中 4 階)
駐車場 10 台

＜総事業費＞

236,199 千円

備考 平成 22 年度から佐渡考古資料館の資料
も加えリニューアルオープンした。

【幸丸展示館】

事業名 日本宝くじ協会助成事業
町づくり特別対策事業
建設年度 昭和 59 年度



＜施設概要＞

所在地 佐渡市小木町 1941 番地 1
敷地面積 1837 m²
建築面積 303.65 m²
延床面積 206 m²
構造・階数 鉄筋造り 1 棟
駐車場 10 台

＜総事業費＞

52,000 千円

【佐渡植物園】

建設年度 昭和 23 年度



<施設概要>

所在地 佐渡市羽茂飯岡 550 番地 6

敷地面積 59,671 m²
(総面積 65,040 m²)

建築面積

管理棟 35 m²

作業棟 19.87 m²

温室 58.32 m²

延床面積 55 m²

構造・階数 鉄筋造り 1 棟

<総事業費>

不明

【新穂歴史民俗資料館】

建設年度 昭和 62 年度



<施設概要>

所在地 佐渡市新穂瓜生屋 492

敷地面積 2,348 m²

建築面積 922 m²

構造・階数 鉄筋コンクリート造り 2 階建

駐車場 41 台

<総事業費>

250,094 千円

【金井歴史民俗資料収蔵庫】

事業名 国宝重要文化財等保存施設整備費補助金 (国)

文化保存事業費補助金 (県)

建設年度 昭和 50 年度



<施設概要>

所在地 佐渡市泉甲 375 番地 1

敷地面積 約 2,000 m²

建築面積

収蔵庫 144 m²

展示館 136 m²

構造・階数 鉄筋コンクリート造り平屋建

<総事業費>

15,010 千円

【明治記念堂 (開導館)】

建設年度 明治 35 年度



駐車場 30 台

<総事業費>

727,885 千円（資料館のみでは不明）

<施設概要>

所在地 佐渡市千種丙 154 番地

敷地面積 1,055.2 m²

建築面積 72.24 m²

構造・階数 木造平屋建

<総事業費>

明治記念堂 不明

開導館 4,100 千円（昭和 50 年復元）

【赤泊郷土資料館】



<施設概要>

所在地 佐渡市赤泊 2458 番地

（赤泊総合文化会館内）

敷地面積 33,000 m²

建築面積 1,184 m²

延床面積 3,260 m²（うち志長官 約 650 m²）

構造・階数 鉄筋コンクリート 4 階建

（資料館は 1 階及び 2 階の一部）

平成27年度 入館者の状況

	佐渡博物館	両津郷土博物館	相川郷土博物館	相川技能伝承展示館	史跡佐渡奉行所跡	佐渡国小木民俗博物館	海運資料館	新穂歴史民俗資料館	金井歴史民俗資料収蔵庫	赤泊郷土資料館	(佐渡植物園)	総計
4月	463	0	96	152	1,129	860	42	221	0	24	240	2,987
5月	1,358	16	328	392	2,505	3,027	221	300	0	30	355	8,177
6月	1,277	29	2,483	2,895	4,513	3,324	130	264	0	51	300	14,966
7月	1,169	52	790	895	2,685	3,738	150	261	0	31	458	9,771
8月	1,551	7	346	492	3,101	4,310	352	491	0	57	310	10,707
9月	1,177	83	572	600	2,434	3,054	129	336	0	21	240	8,406
10月	908	16	135	132	1,932	1,934	73	897	0	29	360	6,056
11月	789	15	73	40	984	963	81	280	0	18	240	3,243
12月	241	0	8	14	81	107	9	0	0	2	62	462
1月	281	0	7	7	51	52	4	15	0	0	62	417
2月	147	43	6	33	64	85	12	37	0	3	58	430
3月	295	0	49	37	399	323	24	81	0	0	382	1,208
入館者 年度計	9,656	261	4,893	5,689	19,878	21,777	1,227	3,183	0	266	3,067	66,830

※総計には、佐渡植物園入場者を含まず。

平成 16年度	(20,225)	2,772	4,497	7,844	26,317	20,523	1,477	2,801	263	594		67,088
17年度	(20,031)	3,021	4,354	7,535	25,690	19,902	1,309	2,308	315	812		65,246
18年度	(16,248)	3,086	3,599	6,800	29,195	18,247	1,363	2,607	153	493		65,543
19年度	(14,417)	2,681	2,755	6,239	22,880	17,334	1,413	2,944	176	414		56,836
20年度	(13,470)	3,162	4,925	6,279	20,648	15,038	1,460	3,445	123	282		55,362
21年度	(12,621)	1,838	5,883	5,609	22,105	19,136	1,237	2,859	0	313	(4,360)	58,980
22年度	(10,566)	2,482	6,134	5,890	20,224	18,338	1,241	2,314	74	189	(3,650)	56,886
23年度	(10,072)	2,406	6,893	6,793	19,077	16,957	1,513	2,942	0	168	(2,830)	56,749
24年度	(10,660)	3,634	6,402	6,944	18,407	17,219	1,472	2,946	0	254	(2,860)	57,278
25年度	(8,492)	2,212	6,055	6,207	18,568	16,624	1,157	2,693	0	308	(3,230)	53,824
26年度	10,906	239	5,547	5,511	20,445	19,198	1,224	2,315	0	396	(2,840)	65,781
27年度	9,656	261	4,893	5,689	19,878	21,777	1,227	3,183	0	266	(3,067)	66,830

※総計には、佐渡植物園入場者を含まず。

※平成21年度以降は、入館者数に無料入館者を含む（佐渡博物館は26年度より含む）

視察・団体受入れ状況

【佐渡博物館】

(◆) は島内の保育園・小中学校

月日	団体名	人数
4月6日	新潟大学	4
17日	◆高千中学校（1・2年生）	17
	◆新穂中学校	33
	佐渡市教育委員会ほか	33
5月8日	◆両津吉井小学校（1～5年生）	62
	◆両津小学校（1・2年生）	47
	◆加茂小学校（4年生）	39
	◆沢根小学校（6年生）	12
14日	◆松ヶ崎小学校	22
26日	◆羽茂小学校（4年生）	15
28日	◆赤泊中学校（1年生）	18
29日	◆河崎小学校	28
6月1日	新潟県立歴史博物館	2
4日	文化庁職員	17
17日	砂山小学校	17
18日	三用小学校	6
25日	佐渡市教育委員会	3
7月1日	◆佐和田中学校	53
5日	入間市体育協会	22
10日	佐渡汽船観光（研修）	2
13日	元文化庁長官ら	2
16日	博物館協議会	13
18日	新潟国際芸術学院	6
19日	世界遺産推進課	8
8月2日	◆両津中学校	5
8日	ジオパーク体験イベント	28
21日	新潟文化行政課	1
24日	◆佐渡高校（1年生）	133
	◆伝統文化と環境福祉の専門学校	2
26日	韓国ソウル大学	3
31日	新潟県議視察団	21
9月1日	地域おこし協力隊	2
	世界遺産推進課文化財室	5
2日	◆畑野小学校（6年生）	36
10日	◆河原田小学校	25
18日	◆真野小学校	47
30日	◆前浜中学校	14
10月6日	博物館協議会部会	4
20日	近畿日本ツーリスト	1

	松本市議会	
	あてびの会	2
23日	◆両津小学校（6年生）	27
24日	ジオ市民講座	19
26日	グアム親善大使	1
27日	平塚市美術館	4
29日	NEXCO東日本	9
30日	博物館協議会部会	4
11月4日	◆行谷小学校	7
6日	世界遺産推進課	20
18日	博物館協議会	12
20日	演劇博物館	1
25日	ジオパーク講座	9
30日	県立歴史博物館	2
12月2日	長岡科学博物館	4
7日	地域振興局	3
19日	ジオ関係者	3
1月15日	◆八幡小学校	17
21日	世界遺産推進課	3
2月3日	◆両津小学校（3年生）	33
7日	◆金井小学校（5年生）	57
3月18日	文科省職員	2
	合計 1,054	

【両津郷土博物館】

月日	団体名	人数
6月8日	青木高砂会	17
7月8日	第二岩の平園 親子旅行	48
9月18日	◆両津吉井小学校	76
10月23日	小木公民館高齢者学級	16
11月18日	自治労佐渡市職員 退職者会	15
2月3日	◆両津小学校（3年生）	33
24日	◆河崎小学校（3年生）	8
3月3日	◆加茂小学校（3年生）	30
	合計 243	

【相川郷土博物館】

月日	団体名	人数
4月23日	◆南佐渡中学校	46
5月17日	佐渡ロングライド参加者	13

26 日	佐渡汽船観光（職員研修）	2
28 日	◆赤泊中学校（1 年生）	18
29 日	月潟小学校	14
6 月 2 日	黒川小学校	23
3 日	山潟小学校	67
4 日	燕東小学校／胎内小学校／瀬波小学校	88
5 日	神納小学校／保田小学校／赤塚小学校／三条大崎小学校	170
6 日	笹岡小学校	28
8 日	紫竹山小学校	39
9 日	嵐南小学校／水原小学校	60
10 日	東山の下小学校／和納小学校／西鱒田小学校／山倉小学校／荻川小学校	180
11 日	阿賀小学校／御免町／新津第一小学校／月岡小学校	72
12 日	岡方第二小学校／川東小学校	74
16 日	砂山小学校／亀田東小学校	37
17 日	鏡淵小学校／南万代小学校／関屋小学校／小合東小学校	145
18 日	安野小学校	35
	世界遺産推進課	9
19 日	丸山小学校	49
22 日	世界遺産推進課	7
23 日	巻北小学校	37
24 日	岩船小学校／巻南小学校	58
25 日	下塩小学校／青山小学校	74
26 日	曾野木小学校	56
7 月 1 日	内野小学校／猿橋小学校	72
2 日	万代長嶺小学校／大形小学校	134
3 日	竹尾小学校	47
8 日	東曾野木小学校	43
9 日	上所小学校／日和山小学校／五泉南小学校	146
10 日	満日小学校	9
16 日	村上小学校	11
29 日	西川小学校	15
8 月 21 日	吉田東吾記念博物館	13
24 日	◆佐渡高校（1 年生）	48
9 月 3 日	愛宕小学校	35
10 日	◆畑野小学校	37
	大通小学校	77
11 日	山の下小学校	42
17 日	大淵小学校	26

10 月 17 日	佐渡トキツデーウォーク	7
18 日	佐渡トキツデーウォーク	1
11 月 19 日	◆金泉小学校	7
20 日	新潟大学	1
11 月 26 日	◆相川小学校（探検クラブ）	10
12 月 2 日	地域おこし協力隊	1
1 月 8 日	にいがた文化の記憶館	2
2 月 23 日	相川ファミリーオ佐渡（研修）	4
3 月 15 日	武蔵野美術大学	3
20 日	世界遺産推進課	9
	合計 2, 201	

【史跡佐渡奉行所跡】

月日	団体名	人数
4 月 3 日	世界遺産推進課	9
9 日	新潟交通（研修）	14
17 日	◆新穂中学校	11
22 日	佐渡観光協会	24
23 日	◆南佐渡中学校	45
5 月 1 日	伊米ヶ崎小学校	17
	平林小学校	16
11 日	立教新座中学校	45
14 日	地域振興局	4
15 日	世界遺産推進課	5
28 日	◆赤泊中学校	18
	下田地区合同小学校	32
29 日	和泉小学校	29
	荒橋小学校	11
	潟東南小学校	17
6 月 2 日	中浦小学校	23
3 日	◆河原田小学校	20
	◆相川小学校（宵の舞 踊りの練習）	20
4 日	葛巻小学校	87
	前川小学校	30
	瀬波小学校	20
5 日	吉田地区連合小学校	24
	神納小学校	22
	金屋小学校	30
	西神納小学校	14
	三条大崎小学校	15
6 日	五十沢小学校	44
9 日	◆相川小学校（宵の舞参加）	29
	笹山小学校	11
	分水北小学校	27

10 日	山田小学校	85
	木崎小学校	58
	東山の下小学校	65
	聖龍市立山倉小学校	46
	牡丹山小学校	13
11 日	片貝小学校	48
	真砂小学校	71
	本田小学校	14
	越前小学校	18
	新津第一小学校	30
	中条小学校	34
12 日	岡方第一小学校	40
	月岡小学校	52
16 日	亀田東小学校	156
17 日	朝日みどり小学校	30
	上山小学校	70
	桃山小学校	141
	松浜小学校	24
	上関小学校	19
18 日	東青山小学校	109
	中通小学校	15
	中之島小学校	33
19 日	鳥屋野小学校	143
	刈羽小学校	22
	剣野小学校	74
	渋海小学校	19
	宮内小学校	88
	新通小学校	49
	升瀉小学校	26
20 日	新飯田小学校	14
	小合小学校	17
23 日	岡南地区小学校連合	44
	紫雲寺小学校	30
24 日	巻南小学校	24
	横越小学校	45
25 日	青山小学校	78
	保内小学校	79
	小林小学校	30
	早通南小学校	117
	赤石小学校	20
	妙高高原北小学校	22
	塩沢小学校	26
	亀田小学校	15
26 日	中島小学校	31

	藤塚小学校	30
29 日	◆相川中学校（ガイド練習）	22
	地域おこし協力隊	1
30 日	東小千谷小学校	60
7 月 1 日	柏崎小学校	82
	東小学校	45
	内野小学校	40
2 日	入広瀬小学校	13
3 日	世界遺産関係者	6
6 日	世界遺産関係者	2
8 日	大島小学校	17
9 日	五泉南小学校	33
	上所小学校	44
10 日	満日小学校	15
	◆相川中学校（ガイド練習）	22
15 日	栖吉小学校	10
16 日	共和小学校	71
	栖吉小学校	25
	十日町小学校	9
17 日	吉田小学校	136
	下川西小学校	23
	◆相川中学校（ガイド練習）	22
8 月 1 日	◆相川中学校（ガイド練習）	22
2 日	◆相川中学校（ガイド練習）	22
6 日	文化庁職員	1
26 日	市長ほか	6
31 日	赤浜小学校	16
9 月 1 日	世界遺産推進課	35
3 日	◆相川小学校	12
	黒条小学校	102
4 日	川口小学校	41
10 日	下条小学校	34
	両川小学校	8
11 日	巢本小学校	19
	世界遺産推進課	8
16 日	◆新穂小学校（6年生）	16
17 日	◆畑野小学校	68
10 月 1 日	世界遺産推進課	8
	北辰小学校	55
14 日	◆金泉小学校	19
23 日	◆両津小学校	27
30 日	NEXCO 東日本新潟支店「ドラぷら」	6
11 月 6 日	世界遺産推進課	18
12 月 11 日	◆羽茂小学校	20

	合計 4,188
--	----------

【相川技能伝承展示館】

月日	団体名	人数
4月23日	◆加茂小学校	53
5月1日	平林小学校	13
23日	伝統文化と環境福祉の専門学校	10
28日	千田小学校	20
	潟東南小学校	17
29日	月潟小学校	31
6月2日	黒川小学校	22
3日	山潟小学校	67
4日	燕東小学校	31
	胎内小学校	47
	瀬波小学校	10
5日	神納小学校	19
	保田小学校	60
	赤塚小学校	46
	三条大崎小学校	45
6日	笹岡小学校	28
8日	紫竹山小学校	55
9日	嵐南小学校	16
	水原小学校	44
10日	東山の下小学校	35
	和納小学校	40
	西鱈田小学校	16
	山倉小学校	46
	荻川小学校	35
11日	阿賀小学校	35
	御免町	50
	新津第一小学校	27
	月岡小学校	19
12日	岡方第二小学校	36
	川東小学校	38
16日	砂山小学校	14
	亀田東小学校	23
17日	鏡淵小学校	52
	南万代小学校	53
	関屋小学校	23
	小合東小学校	17
18日	安野小学校	35
19日	丸山小学校	49
20日	小合小学校	14
23日	巻北小学校	39

24日	岩船小学校	34
	巻南小学校	24
25日	下塩小学校	17
	青山小学校	57
26日	曽野木小学校	56
7月1日	内野小学校	38
	猿橋小学校	44
2日	万代長嶺小学校	48
	大形小学校	86
3日	竹尾小学校	47
8日	東曽野木小学校	43
9日	上所小学校	86
	日和山小学校	66
	五泉南小学校	31
10日	満日小学校	9
16日	村上小学校	11
29日	西川小学校	15
8月21日	鏡淵小学校	1
9月3日	愛宕小学校	35
10日	大通小学校	77
11日	山の下小学校	42
13日	佐渡汽船観光	20
17日	大淵小学校	29
23日	北都コミュニティ株式会社	15
29日	国府小学校	24
10月7日	駐新潟韓国総領事	3
	合計 2,288	

【佐渡国小木民俗博物館】

月日	団体名	人数
4月5日	新潟大学（調査）	3
9日	バスガイド（研修）	14
13日	きらきら塾	2
17日	◆高千中学校	18
	◆新穂中学校	12
28日	◆相川中学校	45
5月2日	鼓童関係者	2
8日	◆両津小学校	46
23日	田部井淳子ジオサイトツアー	24
27日	教育委員会	7
	クラブツーリズム	1
30日	入間市バスツアー	27
6月3日	燕東小学校	17
	さんぽく北小学校	17

4 日	瀬波小学校	26
	大鷲小学校	21
	新関小学校	17
5 日	小中川小学校	76
9 日	山田小学校	18
	水原小学校	15
10 日	西鱈田小学校	22
11 日	大野小学校	15
	安塚小学校	29
	新津第一小学校	47
14 日	副知事御一行	10
16 日	工学院大学	5
18 日	中通小学校	9
	関屋小学校	23
20 日	ジオパーク 市民講座	17
24 日	巻南小学校	26
	横越小学校	42
25 日	小林小学校	30
	亀田小学校	19
26 日	山辺里小学校	31
30 日	三本柳小学校	153
	柏崎小学校	85
7 月 1 日	裾花小学校	124
	内野小学校	24
	入広瀬小学校	10
7 日	黒石市議会（行政視察）	4
9 日	大島小学校	14
13 日	富山県上市町公民館連絡協議会	25
14 日	国土交通省職員	6
15 日	新潟大学附属新潟小学校	85
16 日	村上小学校	22
24 日	◆佐渡総合高校	68
27 日	◆佐渡総合高校	68
29 日	立愛宕小学校	3
8 月 3 日	笠木小学校	2
7 日	観光振興課	2
10 日	大通小学校	3
24 日	◆佐渡高校	83
25 日	◆真野小学校	2
29 日	学研パブリッシング	5
9 月 3 日	新潟小学校	84
18 日	佐渡特別支援学校	13
	◆真野小学校	8
22 日	佐渡観光協会	2

28 日	ブレーメン	2
10 月 6 日	地域振興課	5
11 日	J N T O フランスメディア	2
16 日	N H K プラネット	1
18 日	中島孝志の日本伝統文化研究所	1
24 日	観光振興課	7
11 月 20 日	港タクシー（研修）	2
21 日	ジオパーク ガイド養成講座	6
22 日	佐渡市職員	4
12 月 9 日	郵船トラベル株式会社	2
10 日	宿根木を愛する会	13
2 月 6 日	世界遺産関係者	1
8 日	鼓童関係者	4
10 日	◆羽茂小学校（3 年生）	2
3 月 16 日	文化庁職員	6
18 日	岩手県立盛岡第一高等学校	5
	福井県立藤島高等学校	5
24 日	親和会案内所	1
	昭和観光株式会社	1
		合計 1,698

【海運資料館】

月日	団体名	人数
5 月 8 日	小木ことぶき学級	5
21 日	新潟県立海洋高校	3
25 日	新潟県立海洋高校	3
28 日	新潟県立海洋高校	4
6 月 1 日	新潟県立海洋高校	4
8 月 28 日	早稲田実業学校科学部	20
9 月 18 日	新潟県立自然科学館	3
11 月 7 日	B & G 佐渡海洋クラブ	16
21 日	佐渡建築士会	2
		合計 60

【新穂歴史民俗資料館】

月日	団体名	人数
4 月 2 日	放送大学	8
7 日	佐渡養護学校	4
22 日	写彩の会	2
28 日	◆佐渡総合高校	2
30 日	◆佐渡総合高校（写真部）	12
5 月 1 日	◆新穂小学校（1 ～ 3 年生）	58
14 日	◆佐渡総合高校	1

24 日	山車の会 ふる里講座	7
29 日	◆新穂小学校（特別支援学級）	2
6 月 2 日	◆新穂小学校（さきおりクラブ）	6
5 日	文化庁職員、佐渡市役所職員	3
	新穂駐在所 巡査部長	1
6 日	離島振興の方	7
8 日	青木高砂会	17
9 日	東京農業大学	2
11 日	大野小学校	18
	月岡小学校	7
16 日	◆新穂小学校（さきおりクラブ）	6
18 日	三用小学校	5
25 日	J A 佐渡（赤泊）女性部	36
30 日	◆新穂小学校（さきおりクラブ）	5
7 月 19 日	世界遺産推進課	2
22 日	◆新穂小学校	1
8 月 2 日	◆両津中学校（総合学習）	4
9 月 8 日	◆新穂小学校	4
12 日	にいがたデジコン	1
16 日	佐渡市観光課	5
17 日	◆新穂小学校（特別支援学級）	2
18 日	◆真野小学校	51
10 月 7 日	◆新穂中学校（総合学習）	8
9 日	◆新穂小学校（さきおりクラブ）	5
14 日	◆新穂小学校	2
20 日	◆新穂小学校（さきおりクラブ）	5
21 日	◆新穂中学校（総合学習）	9
	佐渡市役所	3
22 日	佐渡市相川地区身体障害者福祉協議会	17
27 日	新穂中学校 校長	1
28 日	◆新穂中学校（総合学習）	8
11 月 4 日	◆新穂中学校（総合学習）	9
5 日	新穂愛宕の園	6
11 日	◆新穂中学校	10
18 日	◆新穂中学校（総合学習）	9
19 日	早稲田大学演劇博物館	1
24 日	◆新穂小学校（さきおりクラブ）	5
3 月 17 日	武蔵野美術大学	2
	合計 379	

	◆赤泊保育園	17
11 月 20 日	◆赤泊小学校	13
	合計 48	

【赤泊郷土資料館】

月日	団体名	人数
6 月 25 日	◆小木保育園	18

Ⅲ. 文化庁補助事業

文化庁「平成 27 年度 文化庁 地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業」を受けて補助事業を実施した。

【文化講演会】

「“ふれあい”と文化創生の場としての博物館」

講師 須藤健一（国立民族学博物館・館長）

日時 平成 27 年 12 月 5 日（土）

開演 午後 1 時 30 分

主催 佐渡国小木民俗博物館活性化実行委員会

会場 佐渡中央会館

内容 （次頁よりチラシ、講演記録を掲載）

【文化遺産総合活用活性化事業】

実行委員会形式で文化庁補助事業「文化遺産総合活用活性化事業」を実施し、佐渡に保存・継承されてきた鷺流狂言の記録作成及び佐渡の能舞台マップ作成に取り組んだ。事業費 6,772 千円

<成果物>

- ・ 佐渡鷺流狂言研究会の継承活動等
全編動画（DVD66 分）……………30 部
- ・ 上記（DVD 短縮版 21 分）……………100 部
- ・ インターネット公開用の動画映像……………5 部
- ・ 佐渡に残る能舞台探訪マップ……………1,000 部
（28 頁よりマップ資料を掲載）
- ・ 上記インターネット用マップデータ…1 部

～ 文化講演会 ～

“ふれあい”と 文化創生の場としての 博物館

平成27年
12月 5日 (土)

参加費
無料

博物館は、地域の文化資源と人とをつなぐ役割を担っています。
講演会では、国立民族学博物館・館長の須藤氏をお招きし、
住民参加型の地域文化振興に取り組む博物館の活動についてお話し頂きます。

時間

[開場] 午後1時
[開演] 午後1時30分

会場

佐渡中央会館
(1階集会室)

お問い合わせ

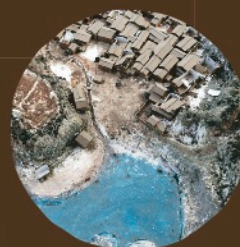
佐渡学センター
0259-52-2447

講師

須藤 健一 さん
(国立民族学博物館・館長)



新潟県佐渡市椎泊生まれ。埼玉大学教養学部卒業、1975年9月に東京都立大学大学院社会科学部研究科博士課程退学。文学博士。同年10月より国立民族学博物館助手、助教授を経て、1993年4月から神戸大学国際文化学部教授、同大学院国際文化学研究科教授、附属図書館長等を歴任。2009年4月から国立民族学博物館第5代館長。アジア・オセアニア地域を対象に社会人類学を専攻。主著書に『母系社会の構造』(紀伊國屋書店)、『オセアニアの人類学』(風響社)など。



主催：佐渡国小木民俗博物館活性化実行委員会



「平成27年度 文化庁 地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業」

文化講演会

「“ふれあい”と文化創生の場としての博物館」記録

須藤 健一（国立民族学博物館・館長）

非常に天気の悪い中、これだけ多くの人に集まっていただき感謝しています。

昭和 39 年に佐渡高校を卒業しました。今日は 6 時の船に乗ってやってきましたが、あの頃はこしじ丸とかおけさ丸とか 800 トンの船でしたよね？ 当時に比べると、ときわの乗り心地のいいこと。

今日は、私が勤めている「みんぱく」を例に博物館についてお話ししていきたいと思います。世界的な博物館であろうが、市立の博物館であろうか、やらなくてはいけない事、住民のみなさんへどんな役割があるかは、同じです。そこで、私が勤めている博物館（国レベルの博物館ではありますが）を引き合いに、佐渡の博物館をどうするのかと考える参考にしていだければと思います。

今日の話は少々長めかもしれませんが、「楽しめる博物館」「ふれあいの場としての博物館」「文化をまもり、生み出す場としての博物館」これら 3 つを中心にお話ししていきたいと思います。

みんぱくは、1977 年に出来た博物館です。ここで、「メタボ」という言葉が出てきますが、これは「増える」という意味です。どんどん増やしていける構造を持った博物館です。オープン当初は、これくらいのものでしたが、それからどんどんと付け足していくという形で大きくなりました。それと言うのも、1970 年代にブームがありまして、黒川紀章さんが設計したかなりすぐれた建物で、表彰された建物でもあります。2 万平米ほどの大きな建物です。万博の跡地にあります。そして、みんぱく開館時には佐渡にお世話になっています。開館時、展示品が 3 万点くらいしかありませんでした。そのうち小木の博物館から漁業全体が分かる漁具をお借りして展示しました。そのときに展示されたイソネギとタライです。非常に立派なもので 40 年以上たっていますが、ヒビがまったく入っていません。小木の素晴らしい船大工さんが作ったもので、この時高藤所長が尽力して下さりました。その他に磯漁関係の物やワカメを刈る道具など一式があります。

先程も言いましたが、全ての博物館の役割は同じです。したがって、みんぱくをみる事で「21 世紀の博物館はどのような使命と役割を担っているのだろうか？」ということを考えていきたいと思います。みんぱくは、文化人類学の国際的研究拠点・大学共同利用機関でもあります。世界 125 か国から色々なものを集めて収蔵しています。世界でも非常に珍しい研究機関です。人々の衣食住、祭り、宗教等すべてを見せる考え方で展示をしています。異文化を理解するためのものと映像があるので、異文化を理解してもらうための博物館となっています。博物館で世界一周できるようになっています。日本から太平洋を渡って、アメリカ、ヨーロッパ、アジアを経て日本に戻ってくるような展示形態をとっていて、過去約 40 年間にわたって、125 か国を 60 人の教員が回って収集してきた物や映像を見ることができるようになっています。14 の展示が有りますが、このようなものを展示しています。カナダのトーテムポール、ヨーロッパの展示はパンを並べています。ヨーロッパの大学の方や研究者が来て、びっくりされます。なぜならヨーロッパにはこのようにパンを展示しているところはありません。日本人らしいと言って褒めいただいています。このフランスパンも普通だったら 300 円位でも、模型を作ってもらうとなると 5 万円です。次に、インドのヒンドゥー教の神々はふつう怖い顔の神様が多いのですが、この神様は、みんぱくのキャラクターにしたいくらい可愛い。次にこれは何でしょうか？ これは佐渡ののろま人形です。78 年頃佐渡で収集した物です。こちらは、カザフスタンの展示、次にこちらは中国で、こちらはインドネシアの展示です。また、地域ごとではなく、このように世界の楽器を集めた展示もあります。

このように人々の生活を展示するのがみんぱくです。現地に行って、人々の生活に入って調査する中で収集したものです。これは、私の調査地であるミクロネシアです。ミクロネシアとは、グアムあたりのことを指します。ミクロネシアの

とある島で造ったカヌーです。このカヌーをどうやって作るのかを現地に入って調査しました。船上で10泊かかるほど離れた離島で、パンの木という柔らかい木を利用して造ります。パンの木は日本にはありません。3時間かけて斧で木を切り倒し、寸法に合わせて丸太を取り出し、そこからくり出します。15か月滞在して、このような調査を行いました。そして、みんなくにあるカヌーがどのようにして造られたかを説明します。船大工になるには4歳くらいから見込みのありそうな子を英才教育し、育てていきます。図面もなにもありません。船大工の頭の中にある知識と勘を頼りに造っていきます。船ができると慰霊をします。ここにかかっているのが船大工に対する謝礼です。現金は必要ありません。船大工の一族7~8人で2年ほどかけてカヌーを造りますと、陸で造っている間の陸の神様・悪霊・精霊たちを追い出さなくてはなりません。その慰霊をやっているときに使う布は女の人が作ったスカートにする布です。現在では1枚200ドルです。このように展示する展示物の細かい情報を集めてから展示します。私も一昼夜かけて航海術を勉強しましたが、真夜中に3時間ほど流されました。南洋北緯7度熱帯の島です。しかし、豪雨と風で佐渡のような体感となり、たちまち体温を奪われました。大変な経験でしたが、そのような経験をしながら、現地の人々と生活を体験することが文化人類学の調査方法です。このようにして収集しながら、来館者の皆さんに楽しんでもらおうと取り組んでいます。

2番目にユニバーサルデザインの項目に移ります。博物館は、バリアフリーというレベルどころではありません。いわゆる障害のある方も、五感を持って楽しめる博物館を作る事が世界規模の動きです。全ての博物館がそうあるべきです。色々な展示物を所蔵していますが、展示に際して、その土地の文化も一緒に紹介する。そして、ものと関連する人々の生活を紹介するように努力します。そのようにして、来館者に楽しんでもらえるように当たり前ですが、努力しなければならないと思います。それこそが博物館の役割だと思っています。例えば中国の展示です。中国には、56の民族がいます。そしてそれぞれが違った民族衣装を持っています。その民族衣装の数々を展示することで、それぞれの民族の文化、社会、生活などが分かるような展示をしています。その上、世界各地に出ていった華僑の人たちがどのように春節を祝ったり、故郷の文化をどのように生活の中に取り入れているのかを示す展示もしています。これは東南アジアです。東南アジアはかなり発展してきています。タイでは、朝から托鉢をするお坊さんがいる一方で、ホンダのカブに乗って通勤する人が混在する現代の風景を表現しています。これは、インドネシアのコメを保管する蔵です。ネズミが上がって来られない様になっていて、きれいな刺繍が施されています。このように、伝統とモダンな生活様式を両方展示するようにしています。それから沖縄です。日本の博物館で、沖縄の事を取り扱っているのはみんなくしかありません。こちらはりんけんさんという方です。戦後の沖縄で活躍されました。戦後の沖縄の人々の生活ではなく、竹富島の伝統的な民家です。これを作ったのは、TEMという宮本常一さんの教え子の会社で、宿根木の保存計画にも携わっている人たちが作りました。1つ8000万円です。日本がまだお金を持っていた時代に作りました。今は不可能です。触れる展示にも力を入れています。これはフィリピンのタクシーのジプニーです。これは乗ってみる事ができます。遠くから見るのではなく、乗って見て中を見てみる。触って、モノと通じる・対話することを提案しています。バリには、ガメランという音楽があります。これもたたいていみて、ガメラン奏者になれるようになっています。タイのお寺も展示しています。日本のお寺にもお参りしないような子供たちがよく拝んでいます。みんなくでは、現地の文化に入っていける面白さを提供しています。これがデコイです。朱鷺を放鳥した際に、朱鷺がちゃんと餌場に戻ってこれる様に彫刻を作りました。内山はるおさんの作品で実際に新穂に埋めたんですよね？朱鷺関係者はいませんか？このようなものがあると、目の不自由な人でも、朱鷺という生き物がどんな生き物なのかを触って確かめることができます。次のこれは、中に入ってるものが見えない様に隠し箱を置いて、手を入れ、中に何が入っているのか探る体験型のコーナーとなっています。これは、健常者も視覚障がい者もみんなであてっこすることができます。自慢ではありません。このような機能が博物館に求められているという事です。映像のブースもあって、自分の好きな映像を選んで15分ほどの映像を見る事ができます。例えば、先程の朱鷺のカービングの様子を見たければ、それを選んでカービングの工程をみる事ができます。展示されているものと、それらの作られる工程を映像

でリンクさせることができます。私たちはそれを、ビデオテークと言っています。約 700 のビデオ作品があります。お金もかかるので全ての博物館での実施はなかなか難しいと思います。次は、展示と関連性のある芸能などのパフォーマンス集団をよんでパフォーマンスをしてもらう事も行っています。世界各地・日本各地からたくさんの芸能集団に公演頂いています。最近では、10 月にモンゴル展示の天井を改築中ですが、それに関連して、第一線級の方々に来ていただき、無形文化財の踊りを披露して頂きました。また、佐渡の春日鬼組と、ブルキナファソのジェンベに太鼓のパフォーマンスをしていただきました。世界各国の演者がみんぱくで出会い、三時間ほどリハーサルし、去年公演して頂きました。400 人入る講堂に超満員の大盛況でした。アフリカの芸能集団と日本の芸能集団と一緒に日本でコラボすることは初めてです。仲介にフランスに住む日本人の方に入ってもらって実現しました。アフリカの太鼓に合わせて、佐渡の春日鬼組の鬼が舞うユニークなステージでした。これは、アフリカの展示オープンに際して、行われた催しです。それから沖縄の展示がオープンした際は、りんけんバンドに公演して頂きました。200 万かかりました。出演料だけで。韓国の展示オープンの際には、パンソリという芸能を披露して頂きました。このようにものの展示だけでなく、色々な文化的背景が分かるような試みを実施しています。文化を取り込むことによって、多くの人に外国の国々についての見聞を広めてもらおうと取り組んでいます。

次に、フランスに飛びます。エッフェル塔の近くにケ・ブランリーという船の形をした博物館があります。ヨーロッパでは、美しいものだけを照明効果を利用して展示する傾向にあります。私たちみんぱくとはずいぶんと性格が違います。私たちは全体を展示しますが、ここはいいものだけを展示します。パプアニューギニアの成人男性が被る仮面です。一度かぶると焼いてしまいます。こちらは、バヌアツの村間の通信の為の太鼓です。ここでは、芸術作品として仮面などを展示し、その背景にある文化的背景などは一切展示しません。このような展示方法では何もわかりませんし、私たちは納得できません。私たちも同じものを持っています。現地の人たちが食べている物や生活様式の紹介と共に展示しています。六本木の国立新美術館へ行ってきました。みんぱくは 70 年代のメタボな博物館ですが、新美はどんな美術館でしょうか？前面ガラス張りで大変モダンな建物です。自分たちの所蔵品は一切持たず、貸し場業で成り立っています。館長が、同じ分野の文化人類学専門の館長だったので行って来ました。

みんぱくでは、一点豪華主義的展示はしません。集めた仮面を全部展示しました。全部を一気に展示し、来館者の皆さんにじっくり見てもらいます。どれが美しいのか、こちらが決めて展示しません。お客様に「どれが美しいですか？隣の仮面と比べてどうですか？」と問いかける展示をしています。仮面とは人間と神が一体化するためのもので、その中で慰霊に使う仮面の中でも似てるもの・違うものがあることに気づいてもらえる展示を心がけています。パリの美術館の展示の様に学芸員が美しいと思った物だけを展示することはしません。これはみんなに話をするときの仮面です。祖先の力を借りて、聞き手に賛同してもらうために被る仮面です。これは、死んだ人を思い出すための墓標です。マングローブの木で作っています。仕返しの記憶の為に立っています。背景を抜きにすると、ただの美しい美術品ですよね？私たちはそのような展示はしません。こちらは、アボリジニーの墓標です。

こちらは、日本のなまはげのような行事の際に使われる仮面です。一年に一度、女子供がきちんと言いつけを守って生活したかを確認し、してなければおしりぺんぺんだよという風にやってきます。これは新美で展示した際の様子です、新美は非常にモダンな造りで、天井は高く白い壁です。みんぱくは、黒い壁ですが。これは、メコン川で使われていた桶です。これは、タイの農村でもみ殻を取り除く籠です、これが、フランスのモダンアーティストの作品にそっくりだと言われているので、展示しています。このメコン川の桶は、漁具のコレクターでもある秋篠宮様が、寄贈されたものです。

新美のキュレーターがみんぱくの収蔵庫にやってきて、35 万点程選びました。その中で、これは面白いと言われたのがこれです。竹の編み加減が非常に優れているので是非持って行きたいと言われました。そして、秋篠宮様に漁具ではなく、美術品として展示される旨を伝えました。展示されたからは、一緒に観に行きましたが、秋篠宮様は佳子様と一緒にいら

して、収集した際のエピソードを話していらっしゃいました。

同じ仮面でも展示方法によって、ケ・ブランリーとは違う展示方法をとっています。

これはヨーロッパの著名な天才画家たちの作品です。ピカソの「帽子をかぶる女の顔」という作品です。天才画家のピカソやモディリアーニが創作するアイデアが枯渇してしまい、アフリカの普通の人が作った仮面などを利用して作品制作をしました。ピカソが作ったものは芸術で、アフリカの一般の人が作ったものはただの器物でしかありません。このような事が現実起こっています。どうして天才と言われる作品は、オークションにかけられ、收藏競争がはじめられ、美術館に展示される。元となったものを作った人々とはくにもはやされることもない。ヨーロッパで作られた作品を收藏するヨーロッパの美術館で研究がなされる。ヨーロッパで作られてモノは芸術品となり、非ヨーロッパで作られたものは美術品とみなされないということが今でも続いています。だから、アフリカのトライブアートは、決してモダンアートとは言われません。このような違いが今でも存在します。みんなくでは、ヨーロッパのアートであろうが、アフリカの仮面であろうが、見た人に自由に感じて欲しいと思っています。美術館に置いている物だけをアートとするようなヨーロッパ中心の展示の仕方はおかしいと思います。それを示すために東京の展示に貸し出しました。

外国からの持ち込みの企画展をすることもあります。世界で一番大きな島の国グリーンランドの企画展を開催しました。グリーンランドは、デンマークの植民地で、日本とデンマークの関係記念での企画展の提案がありました。グリーンランドの文化作品を持っているのは、高円宮久子様です。みんなくにもたくさんあったんですが、大きいものをお借りしました。これはティピラクという物で、シャーマンなどの魔術から守るためのものです。常設展プラスあるテーマに沿った企画展を行っています。

最近、東京芸大でも企画展をしました。モザンビークの地中に埋まっている銃と、鍬などの道具を交換し、それで集めた銃を細かくして、動物の形の作品を作った巡回展で。新潟に来ました。モザンビークの芸術家たちがそのようなアート活動を行っています。今まで銃の輸出国だったのに、平和を輸出する国になっていくというモザンビークの事を知ることができます。このように、みんなくで展示したものをその他の博物館でも展示するという巡回展も行っております。是非佐渡博物館さんも使ってください。35万点ありますから何でもできます。海外から貸してほしいという依頼もたくさんあります。日本が統治していた時代のものを韓国や台湾に貸し出したこともあります。台湾に貸し出した際、「よくこんなもの持ってたね」と言われました。当時の人々にとってはあまりにも身近な日用品であったため、それを保存しておくなんて思っても見なかったそうです。また、韓国のウルサンにも貸し出しました。ウルサンとはヒュンダイ自動車の町です。その際、高校生がやってきて「僕たちのおじいさんやおばあさんが使っていたものをもっておいでしてくれて有難う」と言われました。文字ではなく物を通して歴史を知ることはずごく大事です。

次は、ふれあいの場としての博物館です。博物館とは、多くの人に来てもらい、そこで人と人が語り合い、話し合う場であるべきだと思います。ところがみんなくは、冷たいところなんです。学芸員はいません。来館者は、年間20万人。だから、説明してくれる人いません。研究者しかいません。しかしながら、ガイドの財団と契約はしています。しかし、彼女は案内してはいけないと言われています。専門的な知識をもっていないからです。説明してくれる人もいない博物館なんて、博物館の機能を果たしていません。そこで、ボランティアを活用することにしました。また教員も、60人おりますが、一人につき年に一回はウィークエンドサロンを開催することになっています。MMPという制度を作っています。

Minpaku Museum Partnership(MMP)150名が登録しています。ほとんどが定年退職されたキャリアの方ばかりです。それぞれにしっかりと勉強されて、中学生が来たときなどに館内の説明をしてもらっています。これは韓国の展示室ですね。また、太鼓の体験指導をしてもらったりしています。彼らは自ら勉強したり、先生から教わったりして活躍されています。このように、ボランティアの力を借りて博物館運営をしています。ボランティアスタッフの部屋もあります。点字教育もしています。万博公園の中にあります、陸の孤島。駅から歩いて20分。待ってても誰も来ないので、町にでることにしま

した。あべのハルカスで月に二回講演しています。また、梅田のカフェで語りの夕べを作り、みんなで話します。みんながどんなことをやっておるのかをアピールしに出かけています。黙っていても誰もきません。住民との交流の機会もあります。近隣の八市三町村の博物館・資料館の人々がみんなに集まりお祭りをすることがあります。そのようにして、みんなを地元の人たちに使ってもらい、教員との交流も深める為に、花笠音頭を踊ったりしています。そのようにして、開かれたみんなに親しみを感じて貰える様なイベントを開催しています。

最後に、文化をまもり、生み出す場としての博物館についてお話しします。私たちはみんなに 35 万点を持っています。これは国家財産として登録されています。しかし、私たちは国家財産だと思いません。調査研究に出向き、そこで貸してもらって、保管していると考えています。物を保護して管理する考え方であり、所有する所蔵する考え方をやめようという考え方です。民俗資料 35 万点、映像資料 6 万点、文献図書資料 66 万点あります。民俗資料のうち、20 万点は購入、15 万点は寄贈です。宿根木からはちゃんと購入しましたよ。8 月 9 月で 2 万 1 千点の物を集めていました。そのうち宿根木の物が 88 点。毎年集めていると 1 年間で 1 万点程を新たに収蔵していかなければなりません。5 年前に一度パンクしてしまい、新たに収蔵庫を作りました。それを整理して収蔵庫に置けないので、集めた順に収蔵庫に並べていきます。このように非常に乱雑に並べていますが、データはちゃんとコンピューターで整理しているので、すぐに引き出すことができます。また、アイヌの収蔵品 5000 点あります。アイヌの人々は、人間と自然、人間が作り出したものは一つのものであるという宗教観をもっています。この 5000 点をカムイノミしないとみんなの物たちが反乱を起こすという話であったので、毎年みんなへ来てやっていただいています。その後アイヌの踊りを披露してくれます。アイヌの料理もごちそうして頂いて、カムイノミの一日を終えます。実物の家も建ててあります。また、物を集めるだけではなく、収集物についての情報を収集する事も大切な役割です。そうしなければ、物である意味がありません。「どれが海外持出禁止なのか？」「偽物はあるのか？」等、専門家を招いて情報を集めます。物の情報を現地から仕入れないといけないので大仕事です。また、東日本大震災の際も被災地へ出向き、資料の救出をしました。まず、岩手や宮城の資料館が流されたので、現地の大学生と一緒に洗浄する作業をしました。そして、廃校となった小学校に置く作業を一年間しました。うちのスタッフは 8 名くらいが参加しました。その中で、祭りに使う神輿や神社を守っていた狛犬の様なものが壊れていたもので、これらの修復も行いました。岩手県の方がわざわざお礼を言いにみんなまできて下さり、神楽を奉納してくれました。釜石の松壽院神楽もみんなに披露して頂きました。復興作業を通して、芸能を披露してもらおう事で、芸能というものが道路などが出来る前から、人と人の心をつなげる大切な財産なので、そのような取り組みも大事にしています。修復があると一か月ほど帰れません。修復が終わると、被災物をみんなに展示しました。これは大船渡市の笹崎町です。これは 2 年後の写真です。ここには、シカの角を付けて鹿踊り（ししおどり）がありますが、それらの衣装が全部流されました。奈良の鹿の角を集めて送ってくれという要望を受けました。角は角でも四つ又になったものをとのことでした。長野の猟友会の方が協力して下さり、60 体送ることができました。保存会の会長さんが早速 2011 年 10 月頃から、獅子頭を修復し始め、女性たちが衣装を修復し、翌年の 5 月に完成しました。10 セットが出来上がりました。そして、まずお礼にということでみんなに鹿踊りを披露して下さりました。鹿踊りは 4 年に一度行われ、家々を巡り位牌を祀る神事です。しかし、震災があったので 2011 年には執り行うことができなかった。各村々で修復し、お礼も終わったので、大船渡市は魚市場で、25 の集落からすべての踊りを集めてフェスティバルを開催しました。みんなは、日本や世界の為にいろんなことをやっています。世界の開発途上の国々のキュレーターを集めて研修する取り組みを行っています。1994 年から始まって、JICA や日本政府の協力を得て、4 か月間日本の博物館の収蔵、保管、修復、データ管理、映像撮影などの研修を関西の博物館で行っています。これまでに 213 名の修了生がいますが、本国で図書館長になったり、多方面で活躍されています。今でも、私たちが現地に出向き、フォローアップする取り組みもしています。修了式はこんな風景です。修了書を渡し、オランダのオルガンの前で記念撮影しました。

また、新しいものを作る取り組みについて紹介します。熟覧といいます。例えば、アイヌの人たちが来て、収蔵品の工芸品をみて、そこからアイデアを得て、新たなものを作り出す手助けもしています。一点 200 万円するそうです。これはしゃけの皮で作る衣服です。みんなくにあるものを利用して、新たな何かを生み出す、ヒントを与える取り組みをしています。台湾の方もいらっしゃいました。大正末期～昭和初期のものをみんなくでみて、現地で織機を新たに作り、伝統的な衣服を復元しています。彼らは、このようにして制作した物を「重製」と言います。複製やコピーではありません。祖先が作った伝統の上に、自分たちが新しいものを作り、重ねていくと考えています。まねでもない、自分のオリジナリティも加味した表現です。博物館にあるものを元に、新しい文化や工芸品、創造物をつくることも博物館の大切な役割の一つです。

私が強調したいのは、出来る出来ないは別として、多くの人が何かを求めて集まり、話をし、何かが生まれる場所にしたいと思います。収蔵品を整理したりする際は、ここにお集まりの皆さまの様な人生経験豊かな方々に見てもらい、生きた情報を貰い、データ化する様にしてほしいと思います。ボランティアの協力は欠かせません。友の会を作るかどうかは、難しい問題ですが、色々な人に参加してもらうことは、博物館にとって大きな助けとなります。次に、「自らの歴史と文化に誇りをもつ」こと。こんな話を佐渡を出て何十年も経つ私が言うのも何ですが、素晴らしい取り組みが行われているので紹介します。東京の大学生を集めて研修をしています。3 日～4 日かけて夜を徹して叩き込まれ、高千で披露しました。まずは、座学で鬼太鼓を習い、それぞれの村々で実際に習い、高千の芸能祭で披露します。学生たちは、村の人々との交流を深め、相模女子大の文化祭で披露します。高千青年団は、特産品を売りに行ったりしています。のろまん形とバリの大衆民芸の顔がすごくよく似ています。自分たちの芸能が、大衆を喜ばせる機能を持っていて、それは世界に通じるものだという事です。そう考えると、より歴史や文化に誇りを持てると思います。以上で私の話は、終わります。ありがとうございました。

＜質疑応答＞

質問者

みんなくへは、これまでに何度もおじゃまさせていただいています。お話の中で、ビデオテークはすごく高価だと聞きましたが、佐渡の場合は船が出ないことが起こります。そのような場合、佐渡汽船ターミナルにビデオテークのようなものがあると非常に効果的ではないかと思います。開館したばかりのみんなくでは、整理券をもらったり、並ばないと見れないような状況でした。色々な映像が見られるので、非常にいいと思うのですが、かなり高価だと聞いてびっくりしました。そのような施設をもう少し安くできないものかと思いますが？

須藤館長

この設備は、はじめてみんなくのパナソニックが開発した物です。今はこんな事なくていいんです。映像はみんなくにいっぱいあります。将来的にはリンクしてどこからでも見られるようにしようと考えています。ただ、映像内の一般の方に、許可をとっていないものもあるので、まだできませんが、将来的には一般家庭でも見られるようにしていきたいです。

質問者

図書館が収集する資料と博物館が収集する資料の違いを教えてください。また、友の会の組織が難しいとおっしゃられましたが、どうして難しいのでしょうか？

須藤館長

図書館の場合は、本ですね。

質問者

例えば、図書館でも DVD とか郷土資料関係の映像資料もありますよね。

須藤館長

図書館がどのようなものを収集するかは図書館によって違うと思いますが、主に文字の資料だと思います。映像資料を集めている図書館も沢山ありますが、図書館では DVD を制作しませんよね？博物館が DVD を作り、図書館に寄贈する。博物館は実物を集める機関であるということです。また、友の会が難しいといった理由は、会費を頂いて、それをもって会報を出したり、するような明確な目的を持った組織を作らなければならないので難しいと思います。会費を 2 万円ほどもらわないとやっていけません。

19豊田諏訪神社能舞台

【真野地区】
佐渡市豊田436

現在の能舞台は元々は、大正11(1922)年に建てられた舞殿で、能を含む各種芸能用の多目的舞台として使用されていました。その間取りが昭和59(1984)年に能舞台として改修され、今に至っています。演能記述は多くないものの、江戸期の記録があり、西三川派の活動拠点の一つだったことも特徴です。正面入母屋造、背面切妻造の檼瓦葺で、3間×2.5間の本舞台と12間の後座からなり、後座の間に鏡の間、鏡板に松の絵、天井に簾穴を備えています。

28小布勢神社能舞台

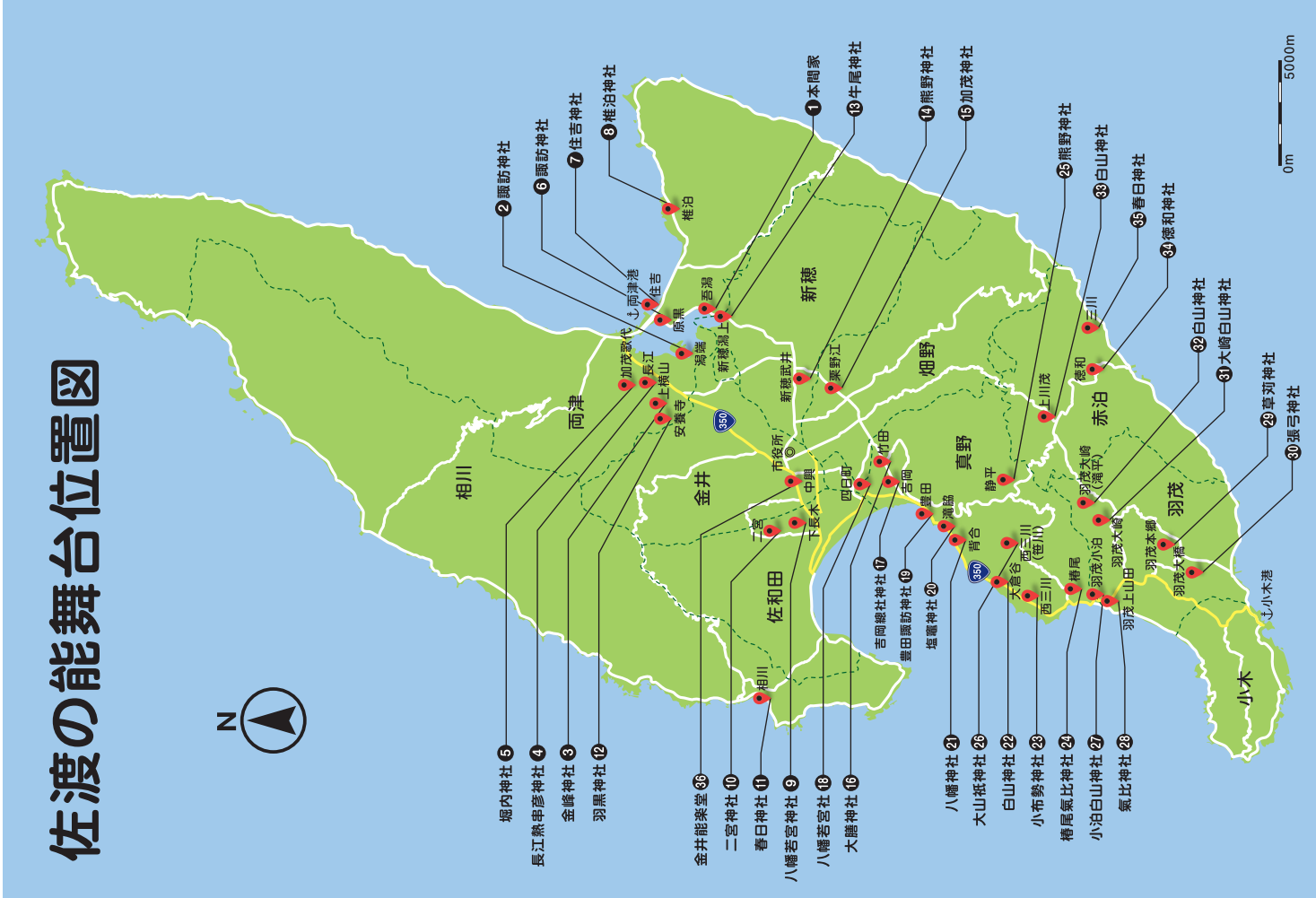
【真野地区】
佐渡市西三川1074

一段高い位置にある社殿に向かい左側に位置する能舞台は、社殿に正面を向けるよう斜めに配置されています。檼瓦葺切妻造の舞台は3間×3間の本舞台と1.3間の後座からなり、本舞台、後座共に床板は総張りです。座敷が茅葺か瓦葺になつたのは昭和30(1956)年代、裏道路がない、地蔵付勾欄が同側にいた吹き抜きの欄干りは、佐渡唯一のものなのです。水田の畝沿いは、後座唯一の石段が境内に建っています。

27小泊白山神社能舞台

【羽茂地区】
佐渡市羽茂小泊1494

精米から石堀工などで来々、その経済力を背景に能が盛んであったという羽茂小泊にある、明治期以前の建造と推測される能舞台です。桐皮葺(旧茅葺)の寄棟造りの舞台は、万3間の舞台と1.3間の後座からなり、并殿を楽間としても使用していました。地蔵座を下屋として出ても使用していました。かれ、天井には簾穴も開け、もつとも小泊、津街にクジで区画を振り分け、もつとも古い箇所は昭和35(1960)年頃まで功労者の指定席として確保されたといえます。



20塩竈神社能舞台

【真野地区】
佐渡市塩竈363-3

能舞台は一段高い社殿に向かつて左側に配置されています。舞台は檼瓦葺切妻造で、本舞台は2.5間×2間、後座は1間、床板は共に総張りです。横掛りは遠能派に伝授していたふうで、現在はありません。地域に多数の能楽愛好者がいたこともあり、演能が盛んに行われていたようです。また、祭礼の演能以外にも素人演芸などに用いられたといえます。

24椿尾氣比神社能舞台

【真野地区】
佐渡市椿尾540

茅葺寄棟造で3間×2.9間の本舞台と1.3間の後座からなっています。平成に入り横掛りが新設されましたが、かつては演能の際に舞台と并殿を横掛りでつなぎ、并殿を鏡の間に使用していました。さらに神社の記録によると、本舞台は明治35(1902)年に神社并殿を改築する際に古い并殿を能舞台として移築・転用したもので、以前は并殿を兼用した能舞台だったといえます。当地は西三川派との関わりが深く、社殿を意圖した舞台空間がみられます。

23氣比神社能舞台

【羽茂地区】
佐渡市羽茂上山田1133

国道に面し、社殿に向かつて左側に檼瓦葺の能舞台が配置されています。2.8間×2.3間の本舞台と1.3間程の後座からなり、横式横掛りは瓦葺です。上屋として出された地蔵座は向く下屋の裏部屋まで伸び、松が垣かたの縁板の横が切戸口になっています。裏部屋向縁板の横より低くかつている裏道路とは、幕で仕切り演能した記録があります。裏の動線がしっかりと計画された機能的で風格ある能舞台です。

31大崎白山神社能舞台

【羽茂地区】
佐渡市羽茂大崎1650

茅葺寄棟造で、3間×2.5間の本舞台と1.5間の後座からなり、床板は共に総張りになっています。鏡板には松と竹が描かれ、横縁天井には簾穴が設けられています。舞台北側には寄殿の横掛りが鏡の間につながっています。座敷は徳井、鏡の間にカラークォーターです。建築年代は明治初期以前と推測されています。参道から舞台に向け緩やかな下り勾配になっているため、舞台は床高は低くてもともとも高い1.1mです。

33白山神社能舞台

【赤井地区】
佐渡市上川茂490

明治16(1883)年建造とされ、本来は茅葺でした。その小屋組の上に入母屋をのせ、背面に切妻造の公民館を増築し、現在の横瓦葺入母屋造の能舞台に改修されました。舞台は社殿に向かい右側、参道に正面を向けた配置となっています。2.6間×2間の本舞台と1間の後座からなり、横縁天井には簾穴があります。宙柱も地蔵座もなく、現状では横掛りも取りつきませんが、かつては飯設されたといわれています。

35春日神社能舞台

【赤井地区】
佐渡市三川44-1

三川の海沿いにある春日神社の能舞台は、山田及び勝浦地区の有志が協議し、明治25(1892)年に建造したものです。本来は茅葺寄棟造でしたが、平成になって銅板葺の座敷に置き替えられました。舞台は3間×2.8間の本舞台と1.2間の後座からなり、横掛りや鏡の間はないものの、演能の際に飯設したとされ、材料も保存されています。建造にかかる費用はすべて地元の家好家有志により寄付されたものと伝わっています。

21八幡神社能舞台

【真野地区】
佐渡市青倉388-2

かつては茅葺寄棟造だった、檼瓦葺切妻造の能舞台です。2.5間×2.5間の本舞台と1間の後座からなり、床板は共に総張りです。横式横掛りがある構造は、一見して能舞台ですが、本殿の前に建つ并殿の役目も担っています。これは横式横掛りが并殿を能舞台にするに好都合であることを示し、能舞台と并殿の寸法の共通性を示しています。現在は舞台正面が総張りであり、舞台としては使用できません。

25能野神社能舞台

【真野地区】
佐渡市静平308

能舞台は社殿に向かい右側に寄り添うように建ち、まさに神の懷で舞う、并殿兼用の能舞台といった造りになっています。以前は茅葺の寄棟造で、現在は檼瓦葺の入母屋造に改修され、狐格子には高麗魚の妻飾りがあります。2.5間×1.9間の本舞台と1間程の後座からなり、床板は共に総張りです。裏部屋には炬があり、社殿とつながっている、鏡板はないため幕で仕切ったと推測されます。横掛りは一級下がった框から飯設されたと思われます。

29草苅神社能舞台

【羽茂地区】
佐渡市羽茂本郷1698

高さのある茅葺が目撃できる能舞台は、3間×2.3間の本舞台と1.1間の後座からなり、正面入母屋には高麗魚があり、背面は総張りになっています。舞臺しが構っていないかた、近年後方の手が加わり、横式横掛りや鏡板、簾穴のついた天井張りや設けられた地蔵座、その際に地蔵座も通常位置に設置され、裏道路や鏡の間に増設されています。又、3(1863)年にはすでに演能の記録があり、現在も毎年6月の祭礼で新能が上演されています。

32白山神社能舞台

【羽茂地区】
佐渡市羽茂浅平2246

カラークォーター、切妻造の能舞台は、3間×2.2間の本舞台と1.1間の後座からなり、横掛りもカラークォーター、松と竹の絵はありますが、切戸口も地蔵座もなく、鏡の間の取付けは木自然です。舞台裏が崖で、横掛りは後座の唯一正面の方へ、無理な角度に設置されています。当初の姿は不明ですが、山村の小さな境内に無理をして能舞台を建てたことは、能界に対する熱心さを裏付けるものであり、簡素でありながらも変異豊かな建物といえます。

34徳和神社能舞台

【康泊地区】
佐渡市徳和4259-2

徳和まつりで知られる徳和神社にある能舞台です。以前は茅葺であった建物は、昭和47(1972)年にカラークォーター、切妻造に改修されました。3間×2.3間の本舞台と1.2間の後座からなり、床板は共に総張りです。地蔵座はなく、切戸口にしては大きな引き戸が後座の背面にあります。横掛りはありませんが取り付けた跡があります。舞台は参道の右、正面を社殿に向けた配置になっています。

36金井能楽堂

【金井地区】
佐渡市中興里471

永享6(1434)年、時の將軍・足利義満によって佐渡に配流された能の大成者・世阿弥、その世阿弥の配所であった金井地区に建つ、総構造りの能楽堂です。完成したのは昭和62(1987)年。三方を観客席に囲まれた6m四方の舞台と、左手に伸びる約10mの横掛り、老松を揺いた背景の建板も見事な、世阿弥ゆかりの地に相応しい能楽堂です。地区の発展のため豊かな資金を寄付された、郷土部ご夫妻の旧邸館に建造されています。

22白山神社能舞台

【真野地区】
佐渡市大倉合690-1

急な狭い階段を登ったところに境内があり、能舞台は社殿に向かつて右側、参道に正面を向けた配置になっています。屋根は以前は茅葺でしたが、現在は横瓦葺切妻造となっています。舞台は2.5間×2間の本舞台と1間の後座からなり、床板は共に総張りです。通常の位置にあった地蔵座は現在撤去されていて、シテ柱の奥木の柵穴から、横掛りがあったことがわかります。正面裏側の扉扉に「明治4年」の墨書があり、この頃から建設年と推測されます。

26大山祇神社能舞台

【真野地区】
佐渡市西三川302

横瓦葺切妻造で高麗魚がつき、横掛りも瓦葺です。舞台は3間×2間の本舞台と1間の後座からなり、床板は共に総張りです。横式横掛りで、裏部屋は下屋として出されています。裏道路との仕切りには、柱に通し貫だけが通り、鏡板の部分には欄干と敷居があるのを戸をたてて、横掛りの仕切りは鏡板の部分からそれぞれに当たられたと考えられます。地蔵座はなく、舞台正面寄り以外は板壁で塞がれています。

30張弓神社能舞台

【羽茂地区】
佐渡市羽茂大橋149

横瓦葺で正面入母屋に高麗魚と地蔵座があり、背面は寄棟造になったこの能舞台は、大正3(1914)年に建造されたものです。3間×3間の本舞台と1.2間の後座からなり、床板は総と横に区別分けられています。天井は横縁天井で簾穴が空いています。横掛りは常設ですが、裏部屋はなく、演能の際には飯設したと推測されます。切戸口はなく、端部は物見窓のついた鏡の間となつています。また地蔵座は後座寄りの所にあり、板壁で囲まれています。

佐渡の能、歴史と現在

さぎ りゅう

佐田御郷神社能舞台での狂言「藤山ぼり」の一場面。佐渡能楽研究会による。背景は、佐渡の能舞台の内部の様子を写したものである。

佐渡に残る鷹流狂言

かつて狂言の流派には、大鷹流・和泉流・鷹流の3つの流派がありました。その中で明治中期に滅びたとされている鷹流狂言が、研究者により佐渡で発見されたのは昭和54(1979)年。結成された研究会を中心に、後継者の養成が進められる佐渡鷹流狂言は、古式に則っていることが大きな特徴です。

IV. 佐渡学センター事業報告

1. 展示事業

【佐渡博物館】

＜常設展示＞

事業趣旨

昭和 32 年 9 月 1 日に佐渡の郷土資料を収蔵・展示する総合博物館として開館。島内の学術団体、研究者の協力・支援のもと、調査研究・収集保管・展示公開等の事業を展開してきた。

平成 5 年には増改築を行い、2 階土田麦僊素描展示室（現 2 階企画展示室）と 1 階企画展示室（現 1 階佐渡金銀山展示室）を新設した。

平成 25 年 11 月 30 日に運営主体の財団法人が解散し、一時休館。

平成 26 年 4 月 1 日に佐渡市立博物館として、ジアス（GIAHS：世界農業遺産）・世界遺産暫定リストに登録された佐渡金銀山・日本ジオパークに認定された佐渡ジオパークの三つの遺産の発信をすると共に、佐渡の自然・歴史・文化の調査研究・公開・発信を進め、佐渡学を学べる総合博物館として、再出発した。（土地は八幡館の所有。建物は新潟交通株式会社の所有。寄贈資料・購入資料として財団法人が所有していた資料は佐渡市の所有となった。）

所蔵資料は約 7,000 件あり、そのうち土田麦僊素描資料は約 500 点である。

展示構成

常設展示は、2 階自然・考古・歴史・民俗展示室で行っており、佐渡ジオパークのコンセプトである「金とトキでたどる 3 億年の旅とひとの暮らし」の題で佐渡全体の自然・歴史・文化をまとめて紹介している。

同じく 2 階の美術・工芸展示室は企画展示場となっている。無名異焼・蠟型鑄金などの伝統工芸

作品や佐渡出身の美術作家の作品などの展示を行っている。

1 階では佐渡金銀山展示室を設け、絵図面・採掘精錬道具・出土品・絵葉書等を用いて佐渡金銀山遺跡の紹介・案内・歴史解説を行っている。1 階ホールには、「佐渡と人物」・佐渡市が推進する三つの遺産のパネル、クジラの化石等がある。

中庭はロックガーデン（佐渡産出の岩石 50 種）となっていて、赤松林の中を散策できる。中庭の両脇に、佐渡の民家と土蔵（いずれも移築、安全確保のため建物内立入り禁止）・古墳時代の竪穴住居と高床式倉庫（いずれも復元、安全確保のため建物内立入り禁止）がある。定期観光や、案内を希望する入館者に対応するため、簡易的なガイドマニュアルを作成し、職員が即座に対応できるようにした。

常設展示の保守点検・補修

中庭にあるロックガーデンの案内パネルを更新した。併せて、岩石の配置がわかる園内マップを作成し、看板にして中庭の入口に設置した。

中庭に移築し展示していた古民家の老朽化が激しいため、平成 27 年度から修復工事を行う。27 年度は茅葺屋根の葺き替えを実施した。

佐渡の自然・歴史・文化を紹介する博物館・子ども達の学びに活用できる博物館・佐渡が次世代に伝えたい 3 資産（佐渡金銀山・佐渡ジオパーク・世界農業遺産「トキと共生する佐渡の里山」）を紹介する施設として、館内外及び周辺的美観や見学環境を維持管理するため、保守点検・補修を行っている。

資料展示替え

佐渡市立佐渡博物館として再出発するのに合わせて、2 階で行っていた佐渡金銀山展示を 1 階に移動し、2 階で新たに美術・工芸関係の展示スペースとして、土田麦僊、人間国宝 3 名の作品など美術・工芸を中心に展示した。

<企画展示>

「佐渡の美術・工芸」

会期 平成 27 年 4 月 20 日（月）

～平成 28 年 4 月 10 日（日）

主催 佐渡博物館

内容 主に佐渡出身の重要無形文化財保持者（人間国宝）3 人の作品及び佐渡出身または佐渡ゆかりの美術工芸作家の作品を展示した。会場には作者の略歴を記した配布資料を置いて、作品展示だけでなく作家の紹介もできるように配慮した。

「蘇る黄金の輝き～佐渡小判里帰り展」

会期 平成 27 年 11 月 6 日（金）～8 日（日）

主催 佐渡市世界遺産推進課

内容 『金の道サミット in 佐渡』の開催時期にあわせ慶長佐渡小判、享保佐渡一分金ほかを展示した。入館者数 196 人。

「新潟県立歴史博物館移動展覧会

原田泰治が描く 日本の原風景」

会期 平成 27 年 12 月 2 日（水）

～平成 28 年 4 月 10 日（日）

主催 新潟県立歴史博物館・佐渡博物館

内容 新潟県中越大震災後、「いつでも復興に使えるように」と、長野県諏訪市から新潟県に原田泰治氏の作品のピエゾグラフ※（高精細複製画）が寄贈され、今回、その作品 12 点（佐渡宿根木の風景画を含む）を展示した。入館者数 847 人。

【両津郷土博物館】

<常設展示>

平成 26 年 4 月 1 日より休館。事前申し込みにより開館し、館内案内、資料閲覧を実施した。

事業趣旨

昭和 53 年に制定された「加茂湖総合開発計画」により、湖に半島となって突き出た樹崎一帯が「レクリエーション保存地区」として位置づけられた。そのなかで、市民の憩いの場、また生涯学習の一拠点として、昭和 57 年に開館した博物館。メインテーマは「島のくらしと文化」としており、漁撈用具などの民俗資料を中心に 3 万点以上の資料が収蔵されている。

展示構成

常設展示は、それぞれ「海」、「くらしと木」、「祭」をテーマとした、第 1～第 3 展示室で構成されている。民俗資料を中心に歴史資料がそれを補完する形での展示を行っている。

常設展示の保守点検・補修

生涯学習施設、また市民の憩いの場として、館内外及び周辺的美観を維持管理するため、保守点検・補修を行っている。

【相川郷土博物館】

<常設展示>

事業趣旨

御料局佐渡支庁跡に三菱佐渡鉱山の所長室及び本部事務室として建築され、鉱山の大幅縮小に伴い、鉱山資料と共に三菱より相川町へ譲渡され、昭和 31 年に開館した博物館。資料展示は主に鉱山資料を中心に約 800 点を展示している。鉱山以外の資料として、「佐渡海府の紡織用具と製品」（国指定重要有形民俗文化財）がある。

展示構成

相川地区は金銀山と共に生きてきた地域であり、鉱山に関係した資料を展示し、そのほか考古資料や遊女関連資料、終戦時に外務大臣を務めた有田八郎氏の資料を展示したコーナーがある。

体験コーナーとして水上輪を設置し、実際に回して鉱山労働の厳しさと、当時の技術を体感できる。

順路案内

建物本体が博物館として建築されたものでないため、スムーズに展示物の見学ができるようになっていない。そのため巡回するようにすることができないため、案内看板を設置し、受付でも説明するようにしている。

常設展示の保守点検・補修

敷地内や建物の一部が国指定史跡となっていることから、史跡保存のため周辺の美観等の維持を中心に行っている。また、建物が古いため、建物の補修や来館者の安全に対して保守点検を随時実施し、平成 27 年度は周辺の草刈りと軽微な建物補修、消防用設備等総合点検を実施した。

展示資料替え

佐渡博物館 1 階の佐渡金銀山展示室に展示物・収蔵物を出展しているため、代替え品として鉱山機械の木型等を展示している。

【相川文書館】

<常設展示>

事業趣旨

昭和 45 年から始まった町史編纂事業であるが、博物館が非常に手狭なため、昭和 48 年に旧第四銀行相川支店（大正 2 年建築）を改築する際に旧相川町へ建物を譲渡してもらい、昭和 50 年に完全移

築し、町史編纂の作業とその資料の公開を目的として開館した。

展示構成

基本的に展示物はなく、町史編纂時の貴重資料が保管管理されている。平成 27 年度は、それらの貴重資料の目録を作成した。

常設展示の保守点検・補修

相川郷土博物館と一体のものとして、保守管理に含めている。

【相川技能伝承展示館】

<常設展示>

事業趣旨

地域バイタリティー育成事業を活用して、地域の歴史や伝統技術の学習機会を拡大するため、一般・児童・生徒・学生を対象とした陶芸実習や裂き織り体験の受入れを主目的に昭和 61 年に開館した。

展示構成

展示室では島内の窯元・裂き織り愛好者の作品を集めて展示している。また、体験学習のメニューにはないが、文弥人形も展示している。裂き織りについては、裂き織り実習室が自由に出入りでき、見学できるようになっている。

常設展示の保守点検・補修

体験設備として作業する建物であることから、機器の整備や安全管理を常に行い、特に窯での陶芸作品焼成等があるため、火災に対する注意喚起を徹底しており、毎年消防用設備等総合点検を実施している。

展示資料替え

展示している陶芸作品は寄託品で、窯元から変

更の依頼があった場合に作品を変更している。

また、裂き織り作品販売コーナーに隣接して、商品サンプル的な陶芸作品を展示するスペースを設けて、出品している。

【史跡佐渡奉行所跡】

<常設展示>

事業趣旨

平成 6 年に佐渡金山遺跡（佐渡奉行所跡）が国の史跡として指定されたことを受け、平成 13 年に「御役所」建物を江戸期の技術で復元公開し、平成 16 年には金銀山のガイダンス施設となる「勝場」の公開を開始した。

展示構成

基本的に当時の技術で復元した建物を来館者に体感してもらう形であり、御役所内を説明員が案内している。ガイダンス施設である勝場では、発掘調査で出土した遺物や、絵巻物（レプリカ）などの資料を展示し、当時の選鉱作業の設備を復元し、実際に鉱山臼を回す体験を行っている。施設の活用を図るため、地域イベントである「佐渡國相川ひなまつり・お茶会」「宵乃舞」「鉱山祭り」の会場として開放している。

順路案内

建物本体が当時の復元として建築されたため、建物内に矢印などの巡回案内を設置し、説明員がつくようにしている。

常設展示の保守点検・補修

当時の建物を復元したため、建物内での火気は厳禁であり、照明も最低限度の設置としている。機器の整備や安全管理を常に行い、特に火災に対する注意喚起を徹底しており、毎年消防用設備等総合点検を実施している。

<企画展示>

「佐渡國相川ひなまつり」

会期 平成 28 年 3 月 1 日（火）～3 月 21 日（月）

主催 佐渡國相川ひなまつり実行委員会

後援 佐渡市

会場 史跡佐渡奉行所跡 御役所

内容 御役所の大広間に雛人形（相川郷土博物館所蔵）を飾り、来館者に鑑賞していただいた。入館者数 270 人。

【佐渡国小木民俗博物館】

<常設展示>

事業趣旨

大正 9 年に建てられた木造校舎をそのまま利用して、昭和 47 年 6 月に開館した博物館。館内には主に民俗資料を展示。その数 30,000 点余り。うち「南佐渡の漁撈用具 1,293 点」「船大工道具 1,034 点」は国の重要有形民俗文化財に指定されている。千石船展示館には、安政 5 年（1858）に宿根木で建造された「幸栄丸」を当時の板図（設計図）をもとにし、実物大で復元した「白山丸」が展示されている。

展示構成

旧館には、「衣」「信仰」「陶器」をテーマにした展示室のほか、昔の生活道具を展示している大型展示室がある。新館には南佐渡の漁撈具や農具などを展示。そして、千石船展示室には、全長 23.75m の白山丸を展示しており、船内の見学もできる。

順路案内

旧館と展示館は通路がつながっているが新館が離れている。そのため新館を観覧せずに退館してしまう入館者も見られたので、観覧順路図を作成し受付にて配布した。また、外国から訪れた入館者も多いため、裏面には英語表記で順路を示した。

常設展示の保守点検・補修

市民の文化的・学術的活動の支援につなげるため館内と周辺的美観等を維持し、また、来館者の安全の確保を目的に常設展示室の保守点検・軽微補修、照明機器の補修・補充等を行っている。

27年度は、4～9月までに博物館周辺の草刈り、樹木の剪定を行った。消防用設備等総合点検は2回行い、照明器具については定期的に館員が点検し迅速な処理を行っている。

＜企画展示＞

「白山丸まつり」

会期 平成27年7月25日～7月26日

主催 白山丸友の会

共催 佐渡市教育委員会

内容 文化財の公開及び普及啓発を目的とし、日本で最初に完全復元された千石船「白山丸」を年一度屋外展示、帆上げし公開することにより島内の観光施設への誘客を図る。来場者900人。

【海運資料館】

＜常設展示＞

事業趣旨

この資料館では、郷土共通の課題「海運」と、住民のくらしとの係わり合いを資料展示している。また、発掘調査によって明らかとなった長者ヶ平遺跡を中心に考古資料を展示している。かつて海を介して運ばれた縄文土器や黒曜石などの資料をとおして海上交易が盛んであった太古の海運を紹介している。

展示構成

文化、芸能と人との係り、小木港が大きな役割を果たした金銀輸送のみち、船絵馬、旧小木町が日本一の生産地であった船ダンス、和船に使用された用具、西回り航路による流れ、近代の汽船時

代コーナー等をわかりやすく展示。

また、考古資料は国指定史跡である長者ヶ平遺跡の出土遺物を中心に展示している。

【幸丸展示館】

＜常設展示＞

事業趣旨

近世までの日本海は、表日本であった。経済発展を支えた海上交通は、小木港から対岸である越後へも往来を繰り返した。小木一寺泊間を結んだ現存する佐渡海峡最後の木造和船である「幸丸」を港湾区域内に展示することにより、かつての小木港の歴史を偲ぶと共に小木一寺泊との歴史や人と物との交流の足跡を物語るシンボルとして保存している。

展示構成

18m×24mの吹き抜けの展示館内には、船主であった長谷川正作氏の計画により、航海中にいかなる船も優先した「右舷開き」と呼ばれる帆形を再現して展示を行っている。また、展示館前庭には、案内解説看板や天然記念物および名勝「佐渡小木海岸」の岩石（枕状溶岩、柱状節理）、かつて湾内に使用されていた尾道産の御影石などを配し、無料入館できる身近な文化施設として利用されている。

※現在は、傷みのため帆を下ろしている。

【佐渡植物園】

＜常設展示＞

事業趣旨

佐渡島の植物分布の特異性、多様性の縮図として、佐渡島内に自生している植物を収集、植栽、展示して研究の資料として提供する。

青少年の生涯学習の場としての植物園を提供する。文化的、学術的資料を提供し、植物に親しむ

場を提供する。

展示構成

北緯 38 度線上に位置する佐渡島は、潮流の影響によって寒暖の差が少なく自生種が極めて多い。日本列島の縮図的な植物分布となっている。13 のゾーンに区分けした園内には、自生種の代表的な植物を植栽展示しており自然散策道や遊歩道を歩くと四季を通じて趣が感じられる。

昭和 47 年佐渡植物園 20 周年記念として、明治神宮から分けて頂いた花菖蒲は 6 月下旬～7 月上旬が見頃である。

園内の整備点検

市民の文化的・学術的活動を支援につなげるため園内と周辺的美観等を維持し、また、来館者の安全の確保を目的に園内の整備点検を行っている。

<企画展示>

「春の山野草展」

会期 平成 27 年 5 月 10 日～5 月 11 日

主催 佐渡植物園・佐渡植物園友の会

会場 羽茂地区公民館ホール

内容 出展者 12 人、展示 235 鉢、来場者 107 人

「ウチョウラン展」

会期 平成 27 年 7 月 4 日～7 月 5 日

主催 佐渡植物園・佐渡植物園友の会

会場 羽茂地区公民館ホール

内容 出展者 12 人、展示 228 鉢、来場者 148 人

「大文字草展」

会期 平成 27 年 10 月 24 日～10 月 25 日

主催 佐渡植物園・佐渡植物園友の会

会場 羽茂地区公民館ホール

内容 出展者 13 人、展示 248 鉢、来場者 112 人

「雪割草展」

会期 平成 28 年 3 月 19 日～3 月 20 日

主催 佐渡植物園・佐渡植物園友の会

会場 羽茂地区公民館ホール

内容 出展者 9 人、展示 256 鉢、来場者 134 人

【新穂歴史民俗資料館】

<常設展示>

事業趣旨

当初は、大野川ダム建設事務所であった建物を利用して、昭和 55 年に開館した。トキをはじめとして、旧新穂村に関する資料を中心に考古・農具などが収集されていた。これらの資料をさらに有効利用するため、昭和 62 年に現在の資料館が建設された。1 階において芸術・伝統芸能、2 階において考古と民俗資料の展示を行っている。また、1 階では裂き織りや勾玉作りの体験を随時受け付けている。

展示構成

1 階では、新穂出身の日本画の大家土田麦僊の作品や鬼太鼓、国指定文化財の文弥人形、県指定文化財の説経人形・のろまん人形に関する資料が展示されている。2 階においては、国指定重要文化財の新穂玉作遺跡や蔵王遺跡の資料、また各種農具や生活用具といった民俗資料が展示されている。

常設展示の保守点検・補修

平成 21 年度までは佐渡市が受付・保守管理をしていた。平成 22～25 年度は新穂さきおりサークルに、平成 26 年度は佐渡シルバー人材センターに受付業務を委託した。平成 27 年度からは地元有志の団体「新穂の歴史と民俗を考える会（通称：新穂資料館友の会）」（主な構成員：新穂ふる里講座・新穂銀山友の会・新穂山車保存会・新穂さきおりサークル）に受付・企画展開催を含めた管理運営業務を委託した。施設保守・点検については、保守点検業者に委託したり、市職員が新穂資料館友

の会の協力を得て実施した。

<企画展示>

「ふるさと遺産 新穂銀山絵図特別展」

会期 平成 27 年 3 月 24 日 (火) ～4 月 19 日 (日)

主催 新穂銀山友の会

共催 新穂の歴史と民俗を考える会

内容 新穂の歴史と民俗を考える会が資料館の管理を受託して初めてとなる企画展。江戸時代の新穂銀山を知ることができる絵図資料のデジタル画像を展示・紹介した。入館者数 180 人。

「新穂の春」写真展

会期 平成 27 年 4 月 28 (火) ～5 月 24 日 (日)

主催 新穂の歴史と民俗を考える会

共催 写彩の会

・特別出品：佐渡総合高校写真部

「新穂山王祭り 山車」「高野喜久雄 故郷への思い」展

会期 平成 27 年 7 月 14 日 (火) ～8 月 23 日 (日)

主催 新穂山車保存会 新穂ふる里講座合同

共催 新穂の歴史と民俗を考える会

内容 日吉神社の祭礼 (4 月) に曳かれる山車に注目した企画。新穂山車保存会の活動も紹介した。高野喜久雄氏は詩人・作詞家・数学者として世界的に認められた業績を持つ。それらの業績を紹介し、親族・友人の方々からお借りした肉筆の信書も展示した。入館者数 507 人。

・高野喜久雄展示品説明会 7 月 24 日 (金)

大屋昌彦「デジタルアート」作品展

会期 平成 27 年 8 月 25 日 (火) ～9 月 27 日 (日)

主催 新穂の歴史と民俗を考える会

内容 新穂地区在住の大屋昌彦氏が制作したデジタルフォトの作品展。デジタルフォトとい

う分野の紹介も兼ねている。大屋氏の作品は、佐渡に深いこだわりを持って制作されているのが特徴。写真と絵画の二つを自在に融合させた作品の世界を楽しんだ。入館者数 397 人。

・作品解説会 9 月 6 日 (日) ・9 月 20 日 (日)

「裂き織り」作品展

会期 平成 27 年 10 月 11 日 (日) ～11 月 11 日 (水)

主催 新穂さっこりサークル

共催 新穂の歴史と民俗を考える会

内容 10 月 11 日の「トキタ映え市」に合わせて開催。主に島内在住の裂き織り愛好者が作品を出品した。さらに新穂中学校の生徒が総合学習の場として資料館内で制作した作品も展示した。作品数 152 点、入館者数 680 人。

・柳平則子氏 (元相川郷土博物館館長)

講演会開催 10 月 24 日 (土)

【金井歴史民俗資料収蔵庫】

<常設展示>

事業趣旨

広く佐渡国中平野における農耕文化資料の保存を目的として、昭和 50 年に竣工した。その後、郷倉が旧両津市大字上横山 (現在の佐渡市上横山) から移築されている。民俗資料約 2,000 点、考古資料約 4,000 点を収蔵している。平成 23 年度から資料館としての開館は行っていない。

【明治記念堂 (開導館)】

<常設展示>

事業趣旨

明治 27 年から 28 年にかけて行われた日清戦争で、佐渡出身の兵士 40 余名が戦死した。その英霊を慰めるため明治 29 年に、金井地区得勝寺の住職

である本莊了寛が一念発起し、島内外から義損金を集め、敷地を購入し堂宇を建立し「明治記念堂」と名付けた。

その後、付属施設として博物資料を展示するための「開導館」を建てた。相川の鉱山学校から譲り受けた資料や、日清・日露戦争等の資料、島内外の資料を陳列した。明治 35 年に、明治記念堂と開導館の落成式が開催された。

現在、資料館としての開館は行っておらず、今後文化財として活用する予定。

2. 収集保管事業

寄贈

- ・古文書、画類 一括
6 月
- ・近世陶器黄釉鉢、近世陶器灰釉徳利
(いずれも海揚がり)
7 月
- ・磨製石器、石鉢、鉄製用途不明品、石製用途不明品 (いずれも海揚がり)
7 月
- ・山崎氏資料 一括
9 月
- ・宝生流謡本、標註日本外史、四書傍註孟子下
一括
12 月
- ・扁額「研精不倦」
1 月
- ・土田麦僊関係書簡類 一括
(寄贈への切り替え)
3 月
- ・沢根佐野屋 雛人形、土人形 12 件
3 月

寄託

- ・新穂大野清水寺 二十八部衆木像 一式
3 月

作成

- ・トキ剥製 1 件
3 月

3. 調査研究事業

佐渡博物館及び相川郷土博物館が収蔵する資料を用いて、2 件の調査研究が行われた。次頁よりその報告を紹介する。

- ・ 佐渡市立佐渡博物館蝶類収蔵標本目録
柴田直之（佐渡市栗野江）
（次頁より資料を掲載）

- ・ 相川郷土博物館・文書館 所蔵資料目録
（53 頁より資料を掲載）

資料紹介 佐渡市立佐渡博物館蝶類収蔵標本目録

柴田直之

この報告書は、『越佐昆虫同好会報 No.113 号』に掲載されたものを越佐昆虫同好会の許可のうえ再掲しました。

第 113 号
2015 年 12 月

ISSN 0289-4289

越 佐 昆 虫 同 好 会 報

Transactions of Essa Entomological Society

No. 113 December 31, 2015

目 次

新会長あいさつ	1
板沢 英郎：アオハダトンボの探索記（2015年）	2
造見 行雄：新潟県下初のスナアカネの記録	5
造見 行雄：飛来種、オナガアカネ♀（赤化型）の採集報告	7
造見 行雄：小千谷市でのアオハダトンボの新産地	8
造見 行雄：長岡市柳尾地域でのリスアカネの新産地	8
藤江幸平・清水 壮：新潟県産コマユバチ科目録	9
中原 功志：佐渡でノミバツを採集	23
榎並 晃：村上市でエルタテハを採集	24
清水 壮・渡辺恭平：新潟県・山形県のヤセバチ上科目録	25
鈴木 夢叶：ムネアカハラビロカマキリを長岡市で発見	31
鈴木 夢叶：寄生菌に侵されたアブラゼミを多数確認	34
佐藤 良次：新潟県におけるキバネモリトンボの記録についての検証	35
榎並 晃：ウラギンシジミ越冬個体を村上市で採集・飼育	40
草刈 広一：飯豊山地におけるトワダカワゲラ属の分布について	41
草刈 広一：飯豊山地におけるベニヒカゲの生態的知見	45
榎並 晃：アカボシゴマダラを麒麟山で採集	50
榎並 晃：フチグロトゲエダシヤクの記録	51
加藤 直人：西川で確認したアオハダトンボ	52
土屋 泉：オゼイトンボの記録（2015）上越市・妙高市	53
馬場 孝：刈羽村でハグロトンボの死骸を採集	56
萩野 誠作：統・ギフチョウの移植及び野外観察から得た知見について	57
馬場 孝：佐渡市と粟島浦村でアオマツムシを確認	66
馬場 孝：新潟市東区の公園におけるハラビロカマキリの卵の分布	67
馬場 孝：新潟市西区の公園におけるハラビロカマキリの卵の分布	71
馬場 孝：新潟県の 8 市町村でハラビロカマキリの卵の分布を確認	78
馬場 孝：新潟市中央区におけるマツハリカメムシの追加記録	79

越 佐 昆 虫 同 好 会

馬場 孝：加茂市加茂山公園でオオアメンボを確認	79
榎並 晃：機屋が採ったコシロシタバの記録	80
大前 寛：新潟県産トンボ類の採集記録（2002年～2006年）	81
瀬谷幸次郎：フクイアバチの採集記録	102
中原 功志：佐渡でのツユムシ採集記録	102
柴田 直之：佐渡市立佐渡博物館蝶類収蔵標本目録	103
佐藤 良次：臥牛山（村上市）の昆虫	116
榎並 晃・赤川宏一郎：弥彦山系でのウラゴダラシジミの記録（放蝶?! それとも…?!）	135
榎並 晃：低位置の休眠芽にも産卵したヒサマツミドリシジミ	140
清水 壮：長岡市からのアカマダラハナムグリの初記録	141
佐藤 良次：越佐昆虫同好会（々）普及とその関連誌に記録された村上市・岩船郡の甲虫（3）	142
馬場 孝：新潟市中央区北部でアジイトンボを採集	165
二橋 亮：新潟市北区松浜でアオモンイトンボを確認	166
板沢 英郎：三条市で久々のヒラタアオコガネ	167
榎並 晃：採集談話会でのチョウの記録	167
馬場 孝：新潟市中央区関屋浜の汀線付近にいたオオカマキリ	168
文献紹介	169
榎並 晃：2015 年「採集談話会in妙高」の記録	170

佐渡市立佐渡博物館蝶類収蔵標本目録

柴 田 直 之

(952-0202) 佐渡市栗野江1417-4 アイビスせんだう203号

1. はじめに

筆者は2013年頃から佐渡島の蝶類相を調べているが、その一環として佐渡博物館指導員（2015年3月時点）の池田雄彦氏に佐渡市立佐渡博物館（以下佐渡博物館）に収蔵されている蝶類の標本を一通り閲覧したいと相談を持ちかけた。

当初は1日でとりあえず一通り標本を見て気になる種のみラベルを書き写していく程度に考えていたが、しばらく館内の会議室を借り切っていいから蝶類に限って佐渡博物館の収蔵標本目録を作ってみないかと逆に提案を受ける形になった。

そんな経緯で2015年3月、目録作成のための実作業としてはのべ2日ほど博物館に通い、蝶類の収蔵標本を一通り閲覧させていただいた。

2. 佐渡博物館に収蔵されている昆虫標本の概要（2015年3月時点）

佐渡博物館に収蔵されている昆虫標本は、基本的にそのほとんどが佐渡島内で採集されたものであるが、一部佐渡島以外の本土で採集されたものも入っていた。また、ラベルが無かったりラベルの記述が不十分だったりするものも多数入っており、標本の並びからおおよそ佐渡島内で採集されたと推測できるものの厳密には判別不可能なものもかなり見受けられた。

以上のように確実に島内・島外のどちらで得られたものを分けることが出来てはいないが、蝶類以外についても昆虫・クモ類については今後研究する方の参考になるかと思い、おおむねの分類群ごとの収蔵標本の個体数を島内・島外別に数えてきたので以下に記しておく。ただし、蝶類以外はたとえば小型の種が不規則に配列されていたりすると数え間違えている可能性も十分にあると思う。あくまでだいたいこのくらいといった参考程度に考えてほしい。

- ・トンボ類：182頭（うち佐渡島産178頭・佐渡島外産4頭）
- ・甲虫類：1700頭（うち佐渡島産1634頭・佐渡島外産66頭）
- ・ハエ・アブ類：214頭（全て佐渡島産）
- ・蝶類：561頭（うち佐渡島産556頭・佐渡島外産5頭）
- ・蛾類：236頭（全て佐渡島産）
- ・ハチ類：448頭（全て佐渡島産）
- ・その他昆虫類（抜け殻等を含む）：261頭（うち佐渡島産259頭・佐渡島外産2頭）
- ・クモ類：27頭（全て佐渡島産）

3. 興味深い標本について

蝶類の収蔵標本の中でいくつか興味深いものが入っていたので以下に特記しておく。

- ・コチャバネセセリ（佐渡島初記録）

今回閲覧した蝶類の収蔵標本の中で最も興味深いものは佐渡島内で過去に記録が無いコチャバネセセリが1頭入っていたことである（図1, 2）。ラベルには「コチャバネ」と書いてあ

Trans. Essa ent. Soc. Niigata, (113): 103-115. December 31, 2015



図1. 佐渡島産のコチャバネセセリ (表)



図2. 佐渡島産のコチャバネセセリ (裏)

るもののかかなり飛び古した個体でコチャバネセセリ独特の翅裏の黒筋がほとんど見えかかっており、一見チャバネセセリ類の誤同定とも思えなくもない個体であった。かなり損傷の激しい個体のため筆者には同定の自信がなく、当初は「セセリ類の一種 (同定不可)」と処理しようかとも考えたが、かすかに残っている前翅後方の目立たない性票などの特徴から筆者にもほぼコチャバネセセリで間違いないだろうということが推測できた。もしこの標本がコチャバネセセリであればかなり貴重な記録になるため、博物館から標本をお借りして埼玉の碓井徹氏経由で牧林功氏に見てもらった。牧林氏からの回答を要約すると、前翅白斑の並び、触覚先端の形状、下唇髭の形状、後翅の翅脈の形状などの特徴から判断し、コチャバネセセリのオスで間違いないとお墨付きを頂いた。

コチャバネセセリは先に書いた通り佐渡島内からは今まで記録が無く、筆者自身も島内で全く見たことがないが、筆者の経験上当種が土着していて世代を繰り返しているのに数年間島内をくまなく回って蝶の生息調査をしても見かけないし、過去の記録も全く無いということは考えにくいことから、この1頭については本土から飛来した迷蝶、あるいは迷蝶由来で一時的に発生したものとするのが妥当であろう。そうすると本来コチャバネセセリはイチモンジセセリやチャバネセセリのように移動性が強い種ではないが、本土との距離＝最短で約30kmの越佐海峡を越えて飛んできたということになる。

・ヒメキマダラセセリ (過去の文献による初記録より古い標本の存在)

過去の文献による佐渡島産ヒメキマダラセセリの初記録は1990年および1992年に採集されたものであるが(榊原, 1992)、収蔵標本中から1968年に島内で採集された標本が見つかった。この標本には「キマダラ」と書かれたラベルがついており、誤同定されている。

・ウラギンスジヒョウモン (佐渡島産標本の存在) (図3)

佐渡島産ウラギンスジヒョウモンの記録は過去にもいくつかあるが、最近全国的に個体数が減少している蝶で(白水, 2006)、佐渡島での記録も1969年が最後であり(鈴木, 1970)、筆者自身も気にかけて探しているが佐渡島内では見たことがない。また、この蝶は現在でも佐渡島に生息している近似種オオウラギンスジヒョウモンとよく似ており、過

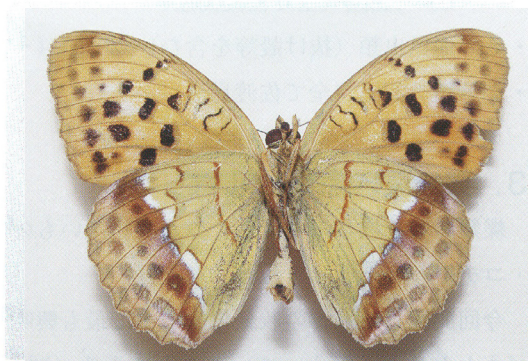


図3. 佐渡島産のウラギンスジヒョウモン (裏)

去の記録が正しく識別されているかどうかにも気になる所であるが、今回披見した収蔵標本の中に7頭入っているのを確認した。なお、この標本中最も新しい個体は1971年であり、先に述べた過去の文献による最後の記録より2年遅い記録である。

・オオチャパネセセリ (佐渡島産標本の存在)

ウラギンスジヒョウモンと同様に最近全国的に個体数が減少している蝶である (白水, 2006)。現時点で最も新しい記録は2001年であり (金子, 2003) 比較的最近まで採集されているが、筆者自身いくら探しても島内で当種を見つけることが出来ず、2001年の記録が島内最後の記録になる可能性も捨てきれないと筆者は考えている。

4. 佐渡博物館蝶類収蔵標本目録 (2015年3月時点)

佐渡博物館の蝶類収蔵標本のほとんどは佐渡島内で採集されたものであり、佐渡島外で採集されているものが目録中に部分的に混在していると間違いのもとになりかねないため、掲載順序については、まず佐渡島内産のものを分類群ごとにまとめ、最後に佐渡島外産のものを一括して掲載した。なお、ラベルに採集地名の記述がないものは厳密には佐渡島外で採集された可能性がないとは言い切れないが、おおむね佐渡島外産の標本については別の箱にまとめられていたりしており推測により判断ができる保管状態であるため、ラベルが無くてもほぼ佐渡島で採集されたと考えられる標本については佐渡島産として扱った。

目録は、採集地、個体数および性別、採集年月日、採集者、特記事項 (ない場合は省略) の順に表記した。

採集地については、現在の行政区分と異なる表記の場合や現在一般に使われている表記と異なる漢字が使われている場合があるが、今回の目録についてはラベルに書かれた表記をそのまま記した (例: 目録中何度も出てくる「乙羽池」は現在一般に「乙和池」と表記される)。

性別について、色彩や斑紋、翅形などで一見して判別しにくい種については、前脚や尾端をルーペなどで披見すれば比較的判別しやすい種であっても、貴重な標本を破損しないように等の理由により今回は判別を見送った。

採集年月日について、和暦で書かれたものについてもすべて西暦で表記した。

特記事項で「複数頭に対しラベルが1枚」のように表記してあるものについては、標本箱の中に並べられた標本複数頭に対して1枚のラベルが添付されているものである。この場合、おおむね1カ所で複数頭が同時に採集されたものと推測できるが、ごく一部について春型の中に時期的に不自然な夏型が混じっているものがあつたりするため、このような表記の標本についてはすべての個体についての採集データが正しいという保証はない。(複数頭のうちの少なくとも1頭はラベル通りと判断するしかない)

少数ながら誤同定ラベルの付いた種もあったが (例えばカラスアゲハと記されたミヤマカラスアゲハ)、訂正ラベルを作る準備をしていなかったこともありラベルはそのままにしてある。

収蔵標本のうちスミナガシの1頭については過去の文献で記録されたものと同一個体であることが確認できた。この文献に関連したコメントをスミナガシの項目に記した。

アゲハチョウ科 Papilionidae

1. ウスバアゲハ *Parnassius citrinaris* Motschulsky, 1866

採集地不明: 2♂, 26.v.1958, 伊里一則, 2頭に対しラベルが1枚。

2. アオスジアゲハ *Graphium sarpedon* (Linnaeus, 1758)
 新穂村北方: 1 ♂, 3.vii.1962, 河原伊勢治.
 窪田: 3 ♂ 1 ♀, 9.viii.1966, 松木; 4 ♂ 1 ♀, 13.viii.1966, 松木; 2 ♂, 27.vii.1968, 松木.
 西三川: 1 ♂, 23.v.1973, 松木; 1 ♂, 15.ix.1975, 松木.
 宿根木: 1 ♂, 2.viii.??? (採集年不明), 松木.
3. アゲハ *Papilio xuthus* Linnaeus, 1767
 採集地不明: 2 ♀, 10.vii.1958, 伊里正行, 2頭に対しラベルが1枚.
 辰巳: 1 ♀, 30.v.1966, 松木; 1 ♂, 2.viii.1966, 松木; 1 ♀, 8.ix.1966, 松木.
4. キアゲハ *Papilio machaon* Linnaeus, 1758
 新穂村: 1 ♀, ?? .viii.1962 (採集日不明), 計良勝範.
 辰巳: 1 ♀, 16.vi.1966, 松木.
 つつじヶ原: 1 ♂, 31.v.1970, 松木.
 金北山: 1 ♀, 15.ix.1971, 松木.
 丹平: 1 ♂, 28.viii.1974, 松木.
5. クロアゲハ *Papilio protenor* Cramer, 1775
 採集地不明: 1 ♂, 21.viii.1958, 佐渡農業高校.
 辰巳: 1 ♀, 6.vi.1966, 計良勝範.
6. オナガアゲハ *Papilio macilentus* Janson, 1877
 新穂村天神股: 1 ♂, 24.vii.1962計良勝範.
7. カラスアゲハ *Papilio dehaanii* C.& R.Felder, 1864
 両津市梅津: 1 ♂, 12.viii.1956, 伊里正行.
 採集地不明: 1 ♀, 12.v.1958, 伊里正行.
 新穂村天神股: 1 ♂, 24.vii.1962, 計良勝範.
 新穂村新穂ダム: 1 ♂, 3.viii.1963, 計良勝範.
 上新穂: 2 ♂, 20.viii.1966, 採集者不明; 1 ♂, 20.viii.1968, 採集者不明.
 大須: 2 ♂, 3.ix.1966, 採集者不明.
 黒滝: 1 ♂, 31.viii.1968, 採集者不明.
 丸つぶり: 1 ♀, 15.vi.1969, 採集者不明.
 白雲台: 1 ♀, 31.v.1970, 採集者不明; 1 ♂, 3.vi.1972, 松木.
 乙羽池下: 1 ♀, 7.vi.1971, 松木.
 西三川: 1 ♀, 10.vi.1971, 松木; 1 ♂, 7.viii.1973, 採集者不明.
 ラベルなし: 1 ♂.
8. ミヤマカラスアゲハ *Papilio maackii* Menetries, 1858
 採集地不明: 1 ♂, 16.viii.1959, 佐渡農業高校.
 鬼の休み場: 3 ♂, 23.vi.1968, 採集者不明.
 黒滝: 1 ♂, 3.viii.1968, 採集者不明; 1 ♂, 31.viii.1968, 採集者不明.
 妙見南: 1 ♂, 16.vii.1972, 松木.
 赤玉線米山口: 1 ♂, 14.vii.1974, 採集者不明.

シロチョウ科 Pieridae

9. ツマキチョウ *Anthocharis scolymus* Butler, 1866

佐和田町中原：1♂1♀, 5.v.1956, 伊里正行, 2頭に対しラベルが1枚.

10. モンシロチョウ *Pieris rapae* (Linnaeus, 1758)
採集地不明：1♂1♀, 20.vi.1958, 佐渡農業高校, 2頭に対しラベルが1枚.
新穂村天神股：1♀, 2.vii.1962, 計良勝範.
11. ヤマトスジグロシロチョウ *Pieris nesis* (Fruhstorfer, 1909)
実質ラベルなしとほぼ同じ (どの個体がどのラベルに該当するか分からず)：1♀, スジグロシロチョウとして整理されている4頭の中に1頭混じっていた.
12. スジグロシロチョウ *Pieris melete* (Menetries, 1857)
新穂村大字大野清水寺越：1♀, 12.ix.1962, 計良勝範.
実質ラベルなしとほぼ同じ (どの個体がどのラベルに該当するか分からず)：1♂2♀.
13. キタキチョウ *Eurema mandarina* (de l'Orza, 1869)
採集地不明：4♂, 5.vi.1958, 佐渡農業高校, 4頭に対しラベルが1枚.
14. スジボソヤマキチョウ *Gonepteryx aspasia* Menetries, 1858
真野町合沢：1♂, 15.vii.1962, 河原伊勢治.
畑野町長谷：1♂, 23.vi.1963, 計良勝範.
新穂村新穂ダム：1♂, 3.viii.1963, 計良勝範.
小木町小木：1♀, 9.viii.1963, 計良勝範.
乙羽池：1♂1♀, 8.ix.1963, 河原.
採集地不明：4♂, 採集年月日不明, 河原伊勢治.
ラベルなし：6♂.
15. モンキチョウ *Colias erate* (Esper, 1805)
* 佐和田町大佐渡乙羽池付近山頂：1♀, 採集年月日不明, 計良勝範.

シジミチョウ科 Lycaenidae

16. ウラギンシジミ *Curetis acuta* Moore, 1877
新穂村溜池：1♂, 15.ix.1959, 池野一男.
新穂村新穂ダム：2♂1♀, 15.ix.1959, 池野一男, 3頭に対しラベルが1枚.
新穂ダム：1♂1♀, 23.viii.1962, 河原伊勢治；2♂, 20.viii.1966, 松木；1♂, 採集年月日不明, 河原.
黒滝：1♀, 14.vii.1968, 松木.
両尾：1♂, 26.ix.1971, 松木.
西三川：3♂, 15.ix.1975, 松木.
ラベルなし：13♂.
17. アカシジミ *Japonica lutea* (Hewitson, 1865)
白雲台：2exs., 16.vii.1972, 松木.
経塚山：1ex., 30.vi.1974, 松木.
18. ミズイロオナガシジミ *Antigius attilia* (Bremer, 1861)
東野：2exs., 26.vi.1971, 松木.
19. オオミドリシジミ *Favonius orientalis* (Murray, 1875)
真野山：1♂, 9.vii.1970, 松木.
20. コツバメ *Callophrys ferrea* (Butler, 1866)

辰巳：1 ♂, 25.iv.1967, 松木.

渋手：1 ♂, 2.v.1968, 松木；1 ♀, 12.v.1968, 松木.

岩根沢：1 ♂, 3.v.1968, 松木.

白雲台：1 ♂ 1 ♀, 23.v.1970, 松木；4 ♂, 5.vi.1977, 松木.

丸つぶり：2 ♂, 2.v.1974, 松木.

21. トラフシジミ *Rapala arata* (Bremer, 1861)

佐和田町中原：1 ♂ 1 ♀, 5.v.1955, 伊里正行, 2頭に対しラベルが1枚.

三貫目沢：1 ♀, 3.v.1967, 松木.

小岩：1 ♂ 1 ♀, 21.v.1967, 松木.

辰巳：1 ♀, 24.vii.1967, 松木；1 ♀, 8.v.1969, 松木.

岩根沢：1 ♂, 3.v.1968, 松木.

渋手：3 ♀, 12.v.1968, 松木.

西三川：1 ♀, 19.v.1970, 松木；1 ♀, 7.v.1972, 松木；1 ♀, 19.v.1974, 松木.

妙見山：1 ♂, 16.vii.1970, 松木；1 ♀, 27.viii.1973, 松木.

平：1 ♀, 29.v.1971, 松木.

青野：1 ♂, 11.v.1974, 松木.

22. ベニシジミ *Lycaena phlaeas* (Linnaeus, 1761)

畑野町栗の江：1 ♀, 19.ix.1962, 計良.

佐和田町八幡：1 ♂ 1 ♀, 15.v.1963, 計良勝範, 2頭に対しラベルが1枚.

辰巳：1 ♀, 24.vii.1967, 松木；1 ♂ 2 ♀, 29.v.1970, 松木, 1 ♂, 27.iv.1973, 松木.

窪田：1 ♂ 1 ♀, 23.iv.1968, 松木；2 ♂, 9.v.1968, 松木；1 ♂, 23.iv.1972, 松木；1 ♀, 3.vii.1977, 松木.

スカイライン：1 ♂, 10.viii.1969, 松木.

白雲台：1 ♀, 23.v.1971, 松木；1 ♂, 5.vi.1977, 松木.

西三川：1 ♂ 2 ♀, 23.v.1973, 松木；1 ♂ 2 ♀, 19.v.1974, 松木；2 ♂, 18.ix.1977, 松木.

丸つぶり：1 ♀, 1.vi.1975, 松木.

23. ヤマトシジミ *Zizeeria maha* (Kollar, 1844)

畑野町栗の江加茂林：1 ♂, 19.iv.1962, 採集者不明.

佐和田町八幡：1 ♂ 1 ♀, 10.vii.1962, 計良勝範, 2頭に対しラベルが1枚.

窪田：1 ♂, 9.v.1968, 松木.

岩野：1 ♀, 27.viii.1972, 松木.

西三川：1 ♂ 1 ♀, 23.v.1973, 松木.

稲鯨：1 ♀, 2.viii.1975, 松木.

金井：1 ♀, 採集年月日不明, 渡辺慎吾.

24. ツバメシジミ *Everes argiades* (Pallas, 1771)

八幡辰巳, 1 ♂, 17.vii.1962, 計良.

佐和田町八幡, 1 ♂ 1 ♀, 21.vii.1962, 計良勝範, 2頭に対しラベルが1枚.

佐和田町八幡辰巳, 1 ♂, 15.v.1963, 計良.

辰巳：1 ♂, 19.v.1967, 松木.

三貫目沢：1 ♀, 6.vi.1967, 松木.

西三川：1 ♂ 1 ♀, 1.vi.1972, 松木；1 ♂ 3 ♀, 23.v.1973, 松木, 1 ♂, 15.ix.1975, 松木.

妙見山：1 ♂, 27.vii.1973, 松木.

窪田：1 ♂ 1 ♀, 3.vii.1977, 松木.

25. ルリシジミ *Celastrina argiolus* (Linnaeus, 1758)

両津市大川：3 ♂ 1 ♀, 2.viii.1962, 計良勝範, 4頭に対しラベルが1枚.

真野町竹田川：2 ♂, 17.vi.1963, 計良.

天神股：2 ♂, 27.viii.1963, 採集者不明.

辰巳：1 ♂, 3.vii.1967, 松木；1 ♂ 1 ♀, 26.iv.1968, 松木；1 ♂, 3.vii.1970, 採集者不明；1 ♀, 27.iv.1973, 松木；1 ♂, 17.iv.1974, 松木；1 ♀, 22.viii.1974, 松木.

窪田：1 ♀, 9.v.1968, 採集者不明；1 ♀, 23.iv.1972, 松木；1 ♀, 3.vii.1977, 松木.

黒滝：1 ♀, 31.viii.1968, 採集者不明.

小泊中山：1 ♂, 2.vii.1970, 採集者不明.

小河内：1 ♂, 13.iv.1972, 松木.

岩野：2 ♂, 27.viii.1972, 松木.

山田：1 ♂ 1 ♀, 28.iv.1974, 松木.

丸つぶり：2 ♂, 2.v.1974, 松木.

青野：1 ♂ 1 ♀, 11.v.1974, 松木.

丹平：1 ♀, 28.viii.1974, 松木.

八幡辰巳：1 ♀, 採集年月日不明, 計良.

タテハチョウ科 *Nymphalidae*

26. サカハチチョウ *Araschnia burejana* Bremer, 1861

相川町青野峠：1 ♀, 8.ix.1963, 計良勝範.

乙羽池：2 ♀, 8.ix.1963, 河原.

窪田：1 ♀, 30.viii.1966, 松木.

馬首：1 ♂, 27.v.1967, 松木.

岩野：1 ♂, 17.v.1968, 松木.

平：1 ♀, 29.v.1971, 松木.

山田：1 ♂ 1 ♀, 29.v.1971, 松木.

27. ヒメアカタテハ *Vanessa cardui* (Linnaeus, 1758)

佐和田町中原：2exs., 19.ix.1955, 伊里正行, 2頭に対しラベルが1枚.

乙羽池：1ex., 8.ix.1963, 河原.

辰巳：1ex., 21.ix.1966, 松木；1ex., 21.x.1966, 松木；1ex., 30.x.1966, 松木；1ex., 23.vii.1967, 松木；3exs., 31.vii.1967, 松木.

妙見山：2exs., 6.viii.1967, 松木.

黒滝：1ex., 31.viii.1968, 松木.

新穂村山王：1ex., 採集年月日不明, 計良勝範.

28. アカタテハ *Vanessa indica* (Herbst, 1794)

新穂村天神股：3exs., 4.vii.1962, 河原伊勢治, 3頭に対しラベルが1枚.

辰巳：1ex., 26.viii.1966, 松木；1ex., 31.vii.1967, 松木；1ex., 1.viii.1967, 松木.

- 三貫目沢 : lex., 3.v.1967, 松木.
 妙見山 : lex., 6.viii.1967, 松木.
 黒滝 : lex., 31.viii.1968, 松木 ; lex., 20.vii.1969, 松木.
 東野 : lex., 7.vi.1971, 松木.
 採集地不明 : lex., 採集年月日不明, 伊里正行.
29. キタテハ *Polygonia c-aureum* (Linnaeus, 1758)
 佐和田町中原 : lex., 19.ix.1955, 伊里正行.
 見立 : lex., 1.vii.1962, 河原.
30. ヒオドシチョウ *Nymphalis xanthomelas* (Esper, 1781)
 新穂村田野沢 : 2exs., 15.vii.1961, 河原伊勢治, 2頭に対しラベルが1枚.
 白雲台 : lex., 10.x.1971, 松木.
 丹平 : lex., 28.viii.1974, 松木.
31. クジャクチョウ *Inachis io* (Linnaeus, 1758)
 栗野江 : lex., 4.vii.1986, 本間重右エ門.
32. ルリタテハ *Kaniska canace* (Linnaeus, 1763)
 採集地不明 : 2exs., 15.x.1958, 伊里正行.
 窪田 : 2exs., 3.ix.1966, 松木.
 辰巳 : lex., 29.iii.1972, 松木.
 小河内 : lex., 13.iv.1972, 松木.
 白ヶ滝 : 2exs., 20.vii.1972, 松木.
 丹平 : lex., 28.viii.1974, 松木.
33. ウラギンスジヒョウモン *Argyronome laodice* (Pallas, 1771)
 新穂ダム : 2♂, 4.vii.1961, 河原伊勢治.
 橘 : 1♀, 16.ix.1968, 松木.
 佐渡 : 3♂, 採集年月日不明, 佐渡農業高校.
 ラベルなし : 1♂.
34. オオウラギンスジヒョウモン *Argyronome ruslana* (Motschulsky, 1866)
 両津市北鵜島 : 2♂, 1.viii.1962, 河原伊勢治, 2頭に対しラベルが1枚.
 新穂村白ヶ滝 : 4♂, 27.viii.1962, 河原伊勢治, 4頭に対しラベルが1枚.
 新穂ダム : 1♂, 20.viii.1966, 松木.
 北小浦 : 2♂, 2.viii.1968, 松木.
 橘 : 1♀, 16.ix.1968, 松木.
 丸つぶり : 1♂, 16.vii.1969, 松木.
 経塚山 : 1♀, 15.viii.1969, 松木.
 金北山 : 1♀, 15.viii.1971, 松木 ; 1♂ 1♀, 15.ix.1971, 松木.
 妙見山 : 4♂, 6.viii.???? (採集年不明), 松木.
 採集地不明 : 1♂, 採集年月日不明, 河原伊勢治.
 ラベルなし : 1♂ 4♀.
35. クモガタヒョウモン *Nephargynnis anadyomene* (C.& R.Felder, 1862)
 真野町合沢 : 4♂ 4♀, 3.ix.1961, 河原伊勢治, 8頭に対しラベルが1枚.

新穂村天神股：1 ♂, 24.vii.1962, 計良勝範.

佐和田町八幡字辰巳：1 ♂, 19.vii.1963, 計良勝範.

乙羽池：1 ♂, 8.ix.1963, 河原.

馬首：1 ♂, 27.v.1967, 松木.

丸つぶり：1 ♂, 15.vi.1969, 松木.

天神股：1 ♀, 27.viii.1969, 松木.

平：1 ♂, 29.v.1971, 松木.

西三川：5 ♂, 10.vi.1971, 松木.

小岩：1 ♂, 19.vi.1971, 松木.

猿八：1 ♂, 30.vi.1974, 松木.

丹平：1 ♀, 28.viii.1974, 松木.

36. メスグロヒヨウモン *Damora sagana* (Doubleday, 1847)

新穂村長畝：1 ♂ 3 ♀, 13.viii.1961, 河原伊勢治, 4 頭に対しラベルが1 枚.

乙羽池：1 ♂, 8.ix.1963, 河原.

窪田：1 ♂ 2 ♀, 30.viii.1966, 松木.

経塚山：1 ♀, 15.viii.1969, 松木.

ラベルなし：3 ♀.

37. ミドリヒヨウモン *Argynnis paphia* (Linnaeus, 1758)

新穂村長畝：4 ♂ 4 ♀, 27.viii.1961, 河原伊勢治, 8 頭に対しラベルが1 枚.

窪田：1 ♀, 10.viii.1966, 松木；1 ♂, 30.viii.1966, 松木.

黒滝：4 ♂ 2 ♀, 31.vi.1968, 松木；1 ♀, 20.vii.1969, 松木.

丸つぶり：2 ♂, 16.vii.1969, 松木.

経塚山：1 ♂ 1 ♀, 15.viii.1969, 松木.

天神股：1 ♂, 27.viii.1969, 松木.

白ヶ滝：1 ♀, 20.vii.1972, 松木.

丹平：1 ♂, 28.viii.1974, 松木.

採集地不明：1 ♂, 採集年月日不明, 河原伊勢治.

ラベルなし：3 ♂ 2 ♀.

38. ウラギンヒヨウモン *Fabriciana adippe* ([Denis & Schiffermuller], 1775)

新穂田野沢：1 ♂, 3.vii.1962, 河原伊勢治.

新穂ダム：2 ♂, 20.viii.1966, 松木.

丸つぶり：1 ♂ 1 ♀, 16.vii.1969, 松木.

東野：1 ♂, 7.vi.1971, 松木.

採集地不明：4 ♂ 2 ♀, 採集年月日不明, 河原伊勢治.

ラベルなし：2 ♂.

39. スミナガシ *Dichorragia nesimachus* (Doyere, 1840)

佐和田町真光寺：1 ♂, 5.viii.1985, 芳田久志.

※この標本の記録は文献で報告されており(菊池, 1986), 標本には「佐渡島初記録」と記された紙が添付されているが, 実際には1967年に二ツ亀付近で採集された記録(宮田ほか, 1967)が佐渡島初記録である.

40. コミスジ *Neptis sappho* (Pallas, 1771)
 佐和田町八幡辰巳：1 ♂, 12.vii.1962, 計良.
 新穂村大野清水寺越：2 ♂, 12.ix.1962, 計良.
 新穂村清水寺越：1 ♀, 12.ix.1962, 採集者不明.
 加茂林：1 ♂, 19.ix.1962, 計良.
 両津市吾潟牛尾神社付近：1 ♂, 26.ix.1962, 計良.
 金井町泉：1 ♂, 19.v.1963, 計良.
 新穂村新穂ダム：2 ♂, 3.viii.1963, 計良.
 小木町小木：1 ♂ 1 ♀, 9.viii.1963, 計良.
 佐和田町二宮山田：3 ♂, 8.ix.1963, 計良.
 窪田：1 ♂, 30.viii.1966, 採集者不明；1 ♂, 9.ix.1968, 採集者不明.
 渋手：1 ♂, 12.v.1968, 採集者不明.
 西三川：1 ♂, 19.v.1974, 松木；1 ♂, 15.ix.1975, 松木.
 山田：1 ♂, 29.vii.1977, 松木.
 採集地不明：1 ♂, 26.vii.???? (採集年不明), 採集者不明；2 ♂, 28.vii.???? (採集年不明), 採集者不明.
 金井：1 ♂, 採集年月日不明, 渡辺慎吾.
 採集地不明：4 ♂ 1 ♀, 採集年月日不明, 河原伊勢治.
 ラベルなし：4 ♂ 1 ♀.
41. イチモンジチョウ *Ladoga camilla* (Linnaeus, 1764)
 新穂村瓜生屋：2 exs., 10.viii.1955, 佐渡農業高校, 2 頭に対しラベルが 1 枚.
 上新穂：1 ex., 20.viii.1966, 採集者不明.
 黒滝：1 ex., 31.viii.1968, 採集者不明.
 つつじヶ原：1 ex., 16.vii.1969, 採集者不明.
 妙見山：1 ex., 16.vii.1970, 松木.
 金北山：1 ex., 25.ix.1971, 松木.
 丹平：3 exs., 28.viii.1974, 松木.
 採集地不明：1 ex., 2.viii.???? (採集年不明), 採集者不明.
 ラベルなし：1 ex..
42. ゴマダラチョウ *Hestina japonica* (C.&R.Felder, 1862)
 採集地不明：1 ♂ 1 ♀, 21.vi.1958, 伊里正行, 2 頭に対しラベルが 1 枚.
 ラベルなし：2 ♂.
43. コムラサキ *Apatura metis* Freyer, 1829
 羽茂町本郷：1 ♂, 15.vii.1957, 長尾辰夫.
 採集地不明：1 ♂, 16.vii.1957, 伊里正行.
 新穂村北方：1 ♀, 8.vii.1962, 河原伊勢治.
 ラベルなし：1 ♂ 1 ♀.
44. ヒメウラナミジャノメ *Ypthima argus* Butler, 1866
 新穂村田之沢：1 ex., 27.viii.1962, 河原伊勢治.
 両津市大川：1 ex., 2.viii.1962, 計良勝範.

- 辰巳：lex., 21.vii.1966, 採集者不明；2exs., 1.vi.???? (採集年不明), 採集者不明。
 加茂林：lex., 3.viii.1971, 採集者不明。
 西三川：2exs., 23.v.1973, 松木。
 経塚山：lex., 30.vi.1974, 松木。
 丹平：lex., 28.viii.1974, 松木。
 丸つぶり：lex., 1.vi.1975, 松木。
 稲鯨：2exs., 2.viii.1975, 採集者不明。
 採集地不明：2exs., 3.vii.???? (採集年不明), 採集者不明；lex., 10.vii.???? (採集年不明),
 採集者不明；lex., 21.vii.???? (採集年不明), 採集者不明。
 クボタ：lex., 30.viii.???? (採集年不明), 採集者不明。
 ラベルなし：6 exs..
45. ヒメジャノメ *Mycalesis gotama* Moore, 1858
 新穂村北方：lex., 8.viii.1962, 河原伊勢治。
 相川町：2exs., 22.viii.1962, 計良勝範, 2頭に対しラベルが1枚。
 辰巳：lex., 9.vii.1966, 採集者不明。
 稲鯨：lex., 2.viii.1975, 松木。
 妙見：lex., 6.viii.???? (採集年不明), 採集者不明。
 ラベルなし：4 exs..
46. ジャノメチョウ *Minois dryas* (Scopoli, 1763)
 新穂村新穂ダム：2♂, 3.viii.1962, 河原伊勢治, 2頭に対しラベルが1枚。
 新穂村田之沢：1♀, 27.viii.1962, 河原伊勢治。
 佐和田町八幡字辰巳：1♂, 19.vii.1963, 計良勝範。
 辰巳：1♂, 24.vii.1966, 採集者不明。
 稲鯨：1♀, 2.viii.1975, 松木。
 窪田：1♂, 3.vii.1977, 松木。
 採集地不明：1♀, 23.vii.???? (採集年不明), 採集者不明；2♂, 24.vii.???? (採集年不明),
 採集者不明。
 ラベルなし：1♀。
47. ヤマキマダラヒカゲ *Neope niphonica* Butler, 1881
 妙見山：2exs., 27.vii.1973, 松木。
48. アサギマダラ *Parantica sita* (Kollar, 1844)
 新穂村生椿：1♂, 15.ix.1959, 佐渡農業高校。
- セセリチョウ科 Hesperidae
49. アオバセセリ *Chasmodon benjaminii* (Guerin-Meneville, 1843)
 佐和田町窪田：1♀, 4.viii.1963, 河原伊勢治。
 乙羽池：1♂, 8.ix.1966, 松木。
 洪手：1♂, 2.v.1968, 松木。
50. ダイミョウセセリ *Daimio tethys* (Menetries, 1857)
 両津市下久知：2exs., 2.vi.1963, 計良勝範, 2頭に対しラベルが1枚。
 大須：lex., 4.ix.1966, 松木。

- 小岩 : lex., 21.v.1967, 松木.
 窪田 : lex., 26.vii.1968, 松木.
 北小浦 : 2exs., 2.viii.1968, 松木.
 真野 : lex., 29.vi.1971, 松木.
 鷺崎 : lex., 2.viii.1974, 松木.
 白雲台 : lex., 5.vi.1977, 松木.
 山田 : lex., 29.vii.1977, 松木.
51. ミヤマセセリ *Erynnis montana* (Bremer, 1861)
 佐和田町中原 : 1 ♂, 8.ix.1955, 伊里正行.
 馬首 : 1 ♀, 27.v.1967, 松木.
 三貫目沢 : 1 ♂, 3.v.1967, 松木.
 渋手 : 1 ♀, 12.v.1968, 松木.
 ドンデン山 : 1 ♂, 14.vi.1970, 松木.
 窪田 : 2 ♂, 23.iv.1972, 松木.
 白雲台 : 1 ♂, 5.vi.1977, 松木.
 岩野 : 1 ♂ 1 ♀, 17.v.???? (採集年不明), 松木.
52. コチャバネセセリ *Thoressa varia* (Murray, 1875)
 つつじヶ原 : 16.vii.1969, 松木.
53. ヒメキマダラセセリ *Ochlodes ochraceus* (Bremer, 1861)
 黒滝 : 1 ♂, 14.vii.1968, 松木, キマダラと書いてあり誤同定されている.
54. キマダラセセリ *Potanthus flavus* (Murray, 1875)
 佐和田町中原 : 2 ♂, 20.vi.1955, 伊里正行, 2頭に対しラベルが1枚.
 つつじヶ原 : 1 ♀, 16.vii.1969, 松木.
 黒滝 : 2 ♂, 20.vii.1969, 松木.
 窪田 : 1 ♂, 3.vii.1977, 松木.
55. オオチャバネセセリ *Polytremis pellucida* (Murray, 1875)
 新穂村新穂ダム : 2exs., 15.ix.1959, 佐渡農業高校, 2頭に対しラベルが1枚.
 辰巳 : lex., 21.vii.1966, 松木 ; lex., 4.xi.1966, 松木 ; lex., 30.viii.1968, 松木 ; lex., 4.ix.1968, 松木 ; lex., 15.vii.1969, 松木.
 稲鯨 : lex., 15.ix.1971, 松木 ; 3 exs., 2.viii.1975, 松木.
 両尾 : lex., 26.ix.1971, 松木.
 丹平 : lex., 28.viii.1974, 松木.
 八幡辰巳 : lex., 採集年月日不明, 計良.
56. ミヤマチャバネセセリ *Pelopidas jansonis* (Butler, 1878)
 辰巳 : 1 ♂, 24.vii.1967, 松木 ; 1 ♀, 30.viii.1968, 松木.
57. イチモンジセセリ *Parnara guttata* (Bremer & Grey, 1852)
 八幡辰巳 : lex., 17.vii.1962, 計良.
 辰巳 : 4 exs., 24.vii.1967, 松木.
 橘 : lex., 16.ix.1968, 松木.
 新穂ダム : lex., 27.viii.1969, 松木.

小泊：lex., 5.ix.1969, 松木.

金北山：4 exs., 15.ix.1971, 松木.

両尾：lex., 26.ix.1971, 松木；lex., 1.viii.1972, 松木.

ラベルなし：lex..

佐渡島外産

1. ムモンアカシジミ *Shirozua jonasi* (Janson, 1877)

守門山：2 ♀, 18.viii.1974, 松木.

2. ウラクロシジミ *Iratsume orsedice* (Butler, 1882)

守門山：1 ♀, 18.viii.1974, 松木.

3. キタテハ *Polygonia c-aureum* (Linnaeus, 1758)

奥只見銀山湖：lex., 27.vi.1970, 採集者不明.

4. クジャクチョウ *Inachis io* (Linnaeus, 1758)

群馬県三国峠：lex., 28.ix.1966, 採集者不明.

5. 謝辞

今回の目録を作るにあたって、いろいろとお世話になった佐渡博物館指導員（2015年3月時点）の池田雄彦氏を始めとする佐渡博物館の職員の皆様、コチャバネセセリの同定でお世話になった牧林功氏および碓井徹氏に厚く御礼を申し上げます。

6. 参考文献

金子岳夫 (2003), 佐渡島の蝶類, 越佐昆虫同好会報 (88) : 1-14.

菊池雅之 (1986), 佐渡島のチョウとトンボ二題, 越佐昆虫同好会報 (63) : 46.

宮田 健・田村 功・沢 俊一 (1967), 夏期佐渡採集旅行の記, 小さな生命 (4) : 54-58.

榊原 薫 (1992), 佐渡のチョウ, 蝶研フィールド7 (11) : 6-14.

白水 隆 (2006), 日本産蝶類標準図鑑, 学習研究社.

鈴木千春 (1970), 金北山西麓の蝶類, 千葉県敬愛短大生物研究会会報 (2) : 51-53.

相川郷土博物館・文書館所蔵資料目録

目録作成作業従事者

八木千恵子（佐渡市世界遺産推進課前職員）
本間則久（故人、新潟古文書保存・調査会前世話役）
菅瀬亮司（新潟郷土史研究会副会長）
牛米 努（税務大学校租税史料室研究調査員）
栗原祐斗（福島県立博物館学芸員）
中村義隆（佐渡市文化財保護審議委員会委員）

本目録について

この目録は、相川郷土博物館収蔵資料のうち、『佐渡相川の歴史』編纂過程で収集、整理された、「町史編纂資料」の配架目録である。『佐渡相川の歴史』（以下、『町史』とする）は、昭和45年から編纂が開始され、10冊の資料集と『通史編（近現代）』（平成7年）が刊行されている。

町史編纂事業により収集された旧相川町内外の資料は、所蔵者別にB5判ファイルにコピーが整理され、それぞれ資料番号を付した資料目録が作成されている。資料のファイルはスチール製の本棚に配架され、その総延長は約63メートルに及ぶ、膨大なものである。

長期にわたって、こうした収納のための資料整理作業が館職員の手によって行われた努力に敬意を表するものである。

本目録記載の資料は、近世期から明治・大正・昭和の近現代に及び、佐渡金・銀山、佐渡奉行、佐渡郡役所等の関係資料や、旧相川町のみならず、昭和の大合併により新たな相川町を構成することとなった、二見村と金泉村（昭和29年）、高千村と外海府村（昭和31年）の旧役場文書や、新町域に所在する地域史料など、きわめて広範囲に及んでいる。さらに、新潟県立文書館収蔵資料のなかから相川町関係資料をも採録している。これらの資料には、江戸幕府直轄下の佐渡金山経営、あるいは鉱山都市相川の実像、明治初年の官営鉱業を中心とした日本産業革命期の資料などが含まれている。

この度、本目録に収載された2,000点にも及ぶ多くの資料の活用により、佐渡の歴史像が見直されることも期待されよう。

なお、本目録作成にあたり、高藤一郎平館長以下、館職員の方々から多くの御支援をいただいたことに感謝いたします。

今後、さらに館収蔵資料が整理され、目録が作成されることにより、一般公開が可能な状況にまで資料整備がなされ、資料公開に向けての検討が行われることを期待したい。

現在、新潟県及び佐渡市が中心となって、「佐渡金銀山世界遺産登録推進県民会議」が結成され、その共同代表として県知事、佐渡市長をはじめとする10人の方々の指導の下、世界遺産登録を目指して県内外で活動が展開されている。本資料目録が、ささやかではあるが、そうした活動をすすめるための、金山を中心とした新たな佐渡伝統文化の魅力発見に、少しでも資することができることを願うものである。

平成28年3月30日

中村義隆

この配架資料目録は、町史編纂資料の配架の現状を記録し、資料の検索を容易にする目的で作成されたものである。当初は所蔵者ごとの資料番号順に配架されていたと考えられるが、その後の移動や利用等で配架が崩れ、資料のコピー以外の参考資料も一緒に配架されているのが現状である。なお、本目録は所蔵者別の目録と併せて利用されたい。

凡例

- 1、書棚の列ごとにA～Eのアルファベットを付した。
- 2、その列の書棚1本ごとに1～6までの数字を付した。
- 3、1つの書棚の段ごとに、上の段から①～⑤までの番号を付した。
(例) A列の1番の書棚の1段目は、A-1-①となる。
- 4、資料ファイルについては、ファイルの最初の資料の年号、タイトル、作成を記すに留めた。資料番号は、ファイルに綴じられている資料の番号である。例えば、A-1-①の5番目のファイルには、佐渡郡役所の資料5-9までが綴られているが、年号、タイトル、作成は、そのファイルの最初の資料(資料番号5)のデータである。6～9までの資料については、所蔵者別の資料目録を見る必要がある。
- 5、資料はコピーが原則であるが、印刷物の場合は原本が綴られているものもあるので、備考に「原本」と記した。
- 6、町史編纂資料とは別にされていた、論文の抜刷やコピーなどの参考資料も配架されているが、これも目録に搭載した。
- 7、A-5-①に配架されている「新潟新聞」等については、D-6の棚に記事のカード目録がある。

列	棚	段	年 号	タ イ ト ル	作 成	資料番号	所 蔵	備 考
A	1	①	明治2年	諸貸附金内取帳	出納局	1	佐渡郡役所	
A	1	①	明治3年10月	別産米穀納収帳	会計局	2	佐渡郡役所	
A	1	①	明治3年～	別兼御囲貸渡一件	出納局	3	佐渡郡役所	
A	1	①	明治3年～	別兼御囲米貸渡一件	出納局	4	佐渡郡役所	
A	1	①	明治6～8年	太政官布告		5-9	佐渡郡役所	
A	1	①	明治7～9年	御救助金仕出 式番	出納課	10	佐渡郡役所	
A	1	①	明治7年	管外掛合達書留	相川県	11-12	佐渡郡役所	
A	1	①	明治8年	管外諸懸合留	相川県	13-18	佐渡郡役所	
A	1	①	明治9年～	諸願書並御指令案綴	相川支庁第6課	19-21	佐渡郡役所	
A	1	①	明治10～16年	囲米穀石代取立元帳	相川支庁第6課	22-30	佐渡郡役所	
A	1	①	明治16～19年	中山新道開鑿関係書類綴		31	佐渡郡役所	
A	1	②	明治16年	中山嶺新道開鑿一件		32-33	佐渡郡役所	
A	1	②	[明治17年]	新道開鑿道敷遺地内取簿 (雄太郎相川町ヨリ川根町三達スル)	佐渡三郡役所	34	佐渡郡役所	
A	1	②	明治17年	明治17年6月3日開札 沢根村地内字坂下外1ヶ所田地公売入札		35	佐渡郡役所	
A	1	②	明治17年	明治17年4月5日 中山新道開鑿入札開票		36	佐渡郡役所	
A	1	②	明治17～19年	大堀割受負白川紋蔵花借金指令留	中山道開鑿事務処	37	佐渡郡役所	
A	1	②	明治17～20年	諸綴込	中山道開鑿事務所	38-39	佐渡郡役所	
A	1	②	明治17～20年	中山新道一件	七木係	40	佐渡郡役所	
A	1	②	明治18年	物品代価支払簿	中山道開鑿事務処	41	佐渡郡役所	
A	1	②	明治18～20年	中山新道負債償却二関スル会議		42-43	佐渡郡役所	
A	1	②	明治19年3月	新道開鑿出来形精算帳 (相川町ヨリ沢根町江達スル県道三等字中山峠)	雄太郎相川町外9ヶ村	44	佐渡郡役所	
A	1	②	明治19年3月	相川町ヨリ沢根町江達スル新道開鑿道敷遺地一筆限内取		45	佐渡郡役所	
A	1	②	明治29～32年	賃金二関スル書類 (旧実物産会社)		46	佐渡郡役所	
A	1	②	明治29～30年	元相川町御下賜金書類	佐渡郡役所	47-49	佐渡郡役所	
A	1	②	明治37～38年	新潟新聞付録 (県下諸物価)		50	佐渡郡役所	
A	1	②	明治37年～大正8年	佐渡郡報綴	佐渡郡役所	51-54	佐渡郡役所	
A	1	②	明治44年～大正4年	佐渡郡鉄旅客及輸出入貨物其他調査材料	佐渡郡	55	佐渡郡役所	
A	1	②	大正3年	郡勢一斑原稿綴 自第巻回至第参回	佐渡郡役所	56	佐渡郡役所	
A	1	③	大正3年	郡勢一斑原稿綴 自第巻回至第参回	佐渡郡役所	57-59	佐渡郡役所	
A	1	③	大正5～12年	町村是調査二関スル綴	佐渡郡役所	60-62	佐渡郡役所	
A	1	③	明治4～40年	清酒、濁酒など醸造御定税則改正、その他		63-70	佐渡郡役所	
A	1	③	明治30年	郡制施行二関スル書類綴	佐渡郡役所	71-75	佐渡郡役所	
A	1	③	明治38年	町村基本財産台帳	佐渡郡役所	76-77	佐渡郡役所	
A	1	③	明治30年～大正8年	佐渡郡会議員名簿 附参事会員名簿		78-85	佐渡郡役所	
A	1	③	明治45年～大正3年	明治天皇・皇太后陛下御不例并御崩御二関スル書類		86-88	佐渡郡役所	
A	1	③	大正5年	立太子礼二関スル綴	佐渡郡役所	89	佐渡郡役所	
A	1	③	明治27年度	酒造免許税台帳	相川税務署	1-2	相川税務署	
A	1	③	明治32年度改	酒造免許台帳	相川税務署	3	相川税務署	
A	1	③	明治34年～大正12年	酒精及酒精含有飲料製造免許台帳	相川税務署	4	相川税務署	
A	1	③	明治35年～大正13年	骨牌販売免許台帳	相川税務署	5	相川税務署	
A	1	③	明治38年	酒造免許台帳	相川税務署	6	相川税務署	
A	1	③	明治41年～大正12年	酒母・麴・麹製造免許台帳	相川税務署	7	相川税務署	
A	1	③	大正元年	酒造免許台帳	相川税務署	8	相川税務署	

以降の資料(全2,847点、59頁分)については、別刷りに収録。
佐渡博物館にて、別刷りの頒布を行っております。

4. 普及教育事業

【小学校との連携事業】

・平成 27 年度 “金の道” の総合学習

金の道の沿線上にある島内 7 つの小学校が、金の道に関連した様々な郷土学習を通じて世界文化遺産を目指す佐渡の宝を学ぶ機会とする。

参加校 相川小学校、沢根小学校、河原田小学校、八幡小学校、真野小学校、羽茂小学校、小木小学校

取組み 総合学習の授業で金の道の調べ学習を行う。参加校のうち 4 校では校外学習も実施する。

<校外学習の事例>

① 小木小学校

実施日 7 月 17 日（金）

児童数 14 人

内容 相川金山やその周辺の旧街道を散策し、相川街道の佐渡の終着点である小木までの街道をたどることにより、地元の郷土の歴史や文化を学ぶ機会とした。

行程 小木小学校→相川ゴールデン佐渡→史跡佐渡奉行所跡→小木小学校

② 八幡小学校

実施日 9 月 2 日（水）

児童数 15 人

学習内容 9 月 8 日の現地研修に先立って、金の道に関連した史跡・寺院等について、パワーポイントにより対象児童に説明し、地元の郷土の歴史や文化を学ぶ機会とした。

実施日 9 月 8 日（火）

児童数 15 人

学習内容 相川金山やその周辺の旧街道を散策す

る体験をととして、地元の郷土の歴史や文化を学ぶ機会とした。

行程 八幡小学校→相川ゴールデン佐渡→金山茶屋→佐渡奉行所・・・途中徒歩・・・相川支所→八幡小学校

③ 沢根小学校

実施日 10 月 9 日（金）

児童数 45 人

学習内容 金の道サミットでの学習成果発表を視野に、総合的な学習の時間と連携させて、鶴子銀山にまつわる各種史跡を見学し、意欲を喚起するとともに、金の道を学ぶ道筋となった。

行程 沢根小学校→田中集落センター→鶴子銀山公園→中山→田上→沢根小学校

④ 相川小学校

実施日 11 月 7 日（土）

児童数 23 人

学習内容 『金の道サミット in 佐渡』へ 6 年生全生徒が出演し学習成果を発表した。

『劇：ぼくらが伝える黄金伝説』

児童が当時のお奉行や鉱山夫に扮しながら、会場が一体となってクイズ形式で楽しく歴史を学ぶ構成となっており、手作りのクイズを作るために熱心に歴史を学んだ成果が観客に伝わる内容であった。観客からの笑いや拍手喝采は児童の充実感・達成感につながった。

- ・佐渡博物館ホール展『小学生が調べた金の道』
各小学校の児童が総合学習で学んだ成果を大洋紙にまとめ、佐渡博物館で展示した。

会期 平成 28 年 1 月 4 日（月）
～平成 28 年 3 月 31 日（木）
（次頁より展示作品を掲載）

【出前授業・講演等】

- ・青木高砂会 巡検案内
6 月 8 日（月）
- ・両津地区公民館第八分館 講演会
11 月 1 日（日）
講演・講話内容
「内海府を中心とした遺跡について」
「定置網について」
「両津郷土博物館収蔵品から内海府関係の資料紹介」
- ・平成 27 年度 新潟県民具学会研究会
1 月 27 日（水）
報告「佐渡市の現状と課題」
- ・新穂小学校 3 年生 社会科
2 月 10 日（水）
講話「清水寺」

【職場体験】

- ・佐渡市立南佐渡中学校 2 年生
期間 10 月 1 日（木）～2 日（金）
生徒数 4 人
内容 佐渡博物館において課題解決型の職場体験
「小学生も見て分かる、小木宿根木の地誌
についての解説ツールをつくる」を実施。

- ・佐渡市立佐和田中学校 1 年生

実施日 11 月 12 日（木）
生徒数 3 人
内容 佐渡博物館職員へのインタビュー、展示資料移動の補助 ほか

【学芸員実習】

下記 2 件の実習はいずれも佐渡博物館において行われた。

- ・金沢学院大学

学生数 1 人
期間 8 月 17 日（月）～8 月 23 日（日）

- ・帝京科学大学

学生数 1 人
期間 8 月 17 日（月）～8 月 29 日（土）

佐渡博物館木・ル展

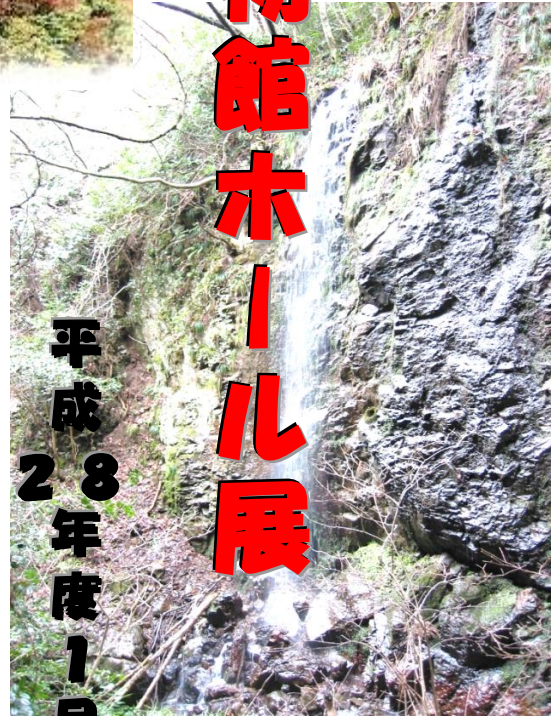
平成28年度1月4日～3月31日



虎丸山（西三川砂金山）



慶長小判



大滝間歩（鶴子銀山）



金の道

発表校

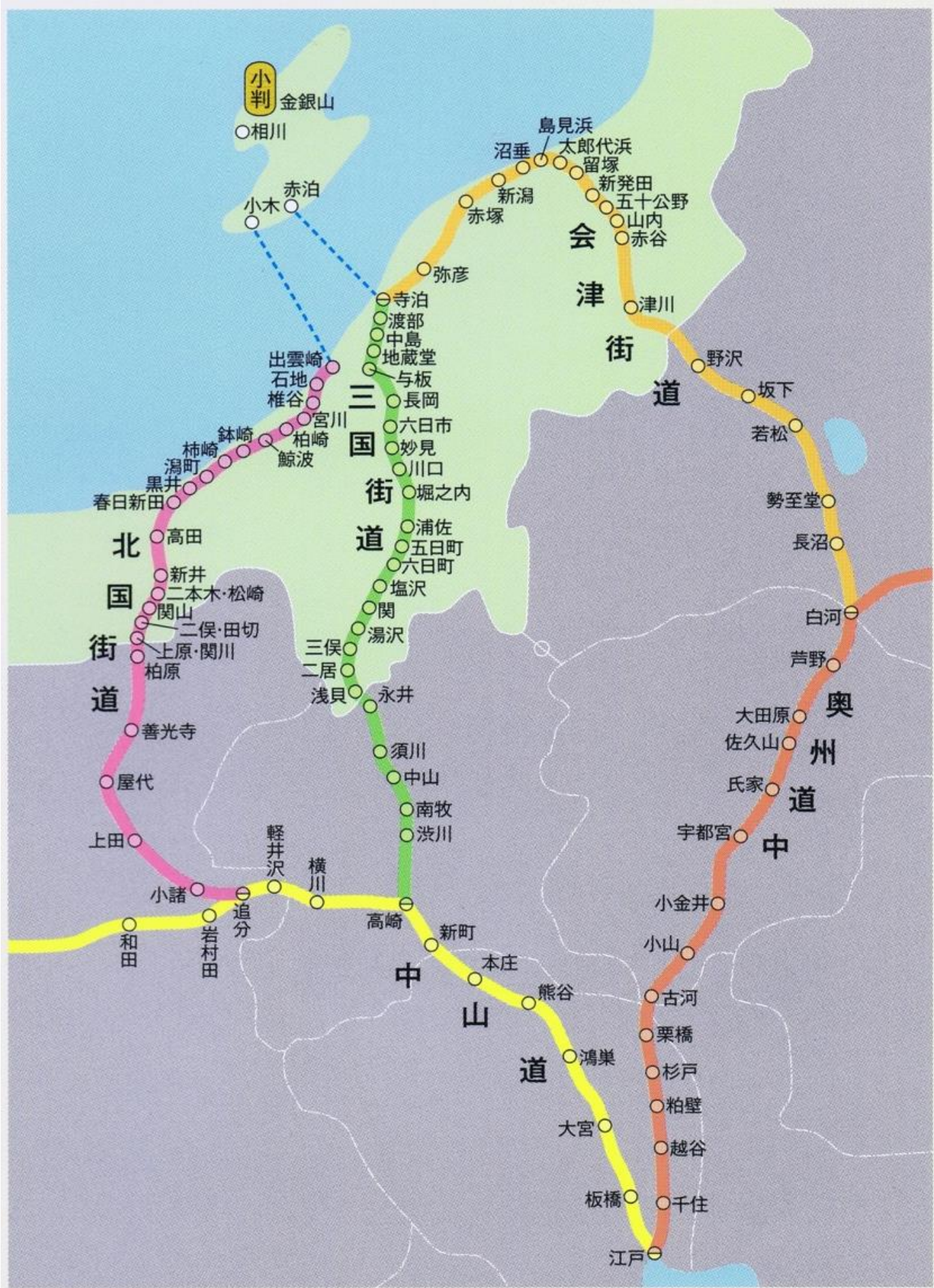
相川小学校
沢根小学校
河原田小学校
八幡小学校
真野小学校
羽茂小学校
小木小学校

平成27年度

「金の道の総合学習」

発表資料集

佐渡三道（概略図）



佐渡の“金の道”



ばくらが伝える黄金伝説

平成27年度 佐渡市立相川小学校 6年生

総合的な学習の時間に、ばくたちのふるさと相川の佐渡金銀山について学習をしました。

①相川町名探検

まず、相川の町名を散策しました。相川には、面白い町名がたくさんありました。



＜分かったこと＞

- 相川の町名は、佐渡金山と密接に関係していました。

②金山見学

相川の町が、佐渡金銀山と結びついていることを知ったばくたちは、次に、金山を見学しました。



＜分かったこと＞

- たくさんの方が働いていたことや、使われていた道具が分かりました。

③金山関連施設見学

その次に、金山の関連施設を調べました。



＜分かったこと＞

- 佐渡奉行所には、「勝場」という鉱石から金を採る作業場がありました。
- 京町通りにも、たくさん関連施設がありました。

④金山でガイド体験

最後に、調べたことをまとめ、ガイド体験をさせていただきました。



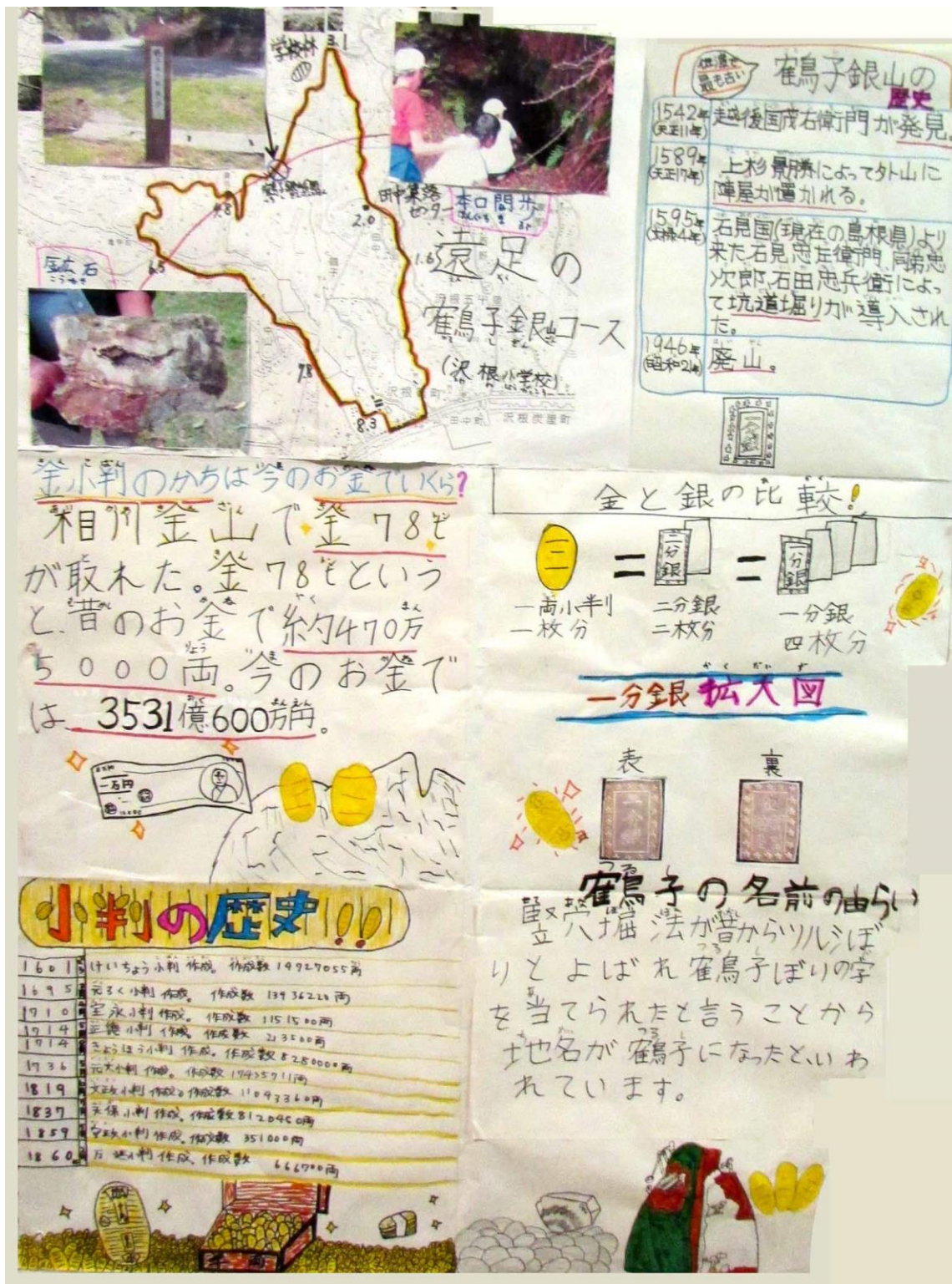
＜感想＞

- 多くの観光客の方に、金山のよさを知ってもらえてうれしかったです。

＜まとめ＞

- 自分たちが住んでいる相川の素晴らしさや佐渡金銀山のすごさを知ることができました。
- 世界遺産になるように、自分たちができることを中学生になってもしていきたいです。
- 11月7日に開催された「金の道サトウ」で発表し、佐渡金銀山のすばらしさを伝えました。





小判の金のわりあい
 慶長小判

・金 86.28%
 ・銀 12.20%
 ・雑 0.52%
 重さ 17.73g



金 銀 鉛 石

鉛山がどうやって見えたのか
 雀鳥子 鉛山 での
 鉛山 技術 が、
 川 金 銀 山 を 発見
 する きっかけに
 なりました。

多くは 200℃
 ~ 250℃ 位の
 熱 水 から 銀 など
 が 沈殿 してとれる

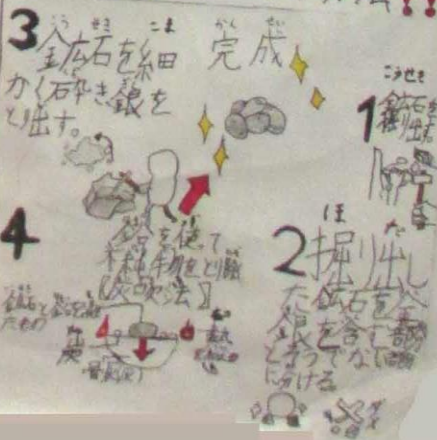


- ① 3つ 掘り 山の表面
 に出ている 金 や 銀 含む
 鉛 脈 を 土 石 ごと 掘り
 出す 方法!!
- ② ひおい 掘り 地表
 に出ている 鉛 脈 を 追いか
 けながら 不規則に 掘り 進ん
 でいく 方法!!
- ③ 木 黄相 じょうどう 掘り 鉛 脈 が どの
 にあるかを調べて トンネル を 掘って
 地中の 鉛 脈 を めざす 方法!!

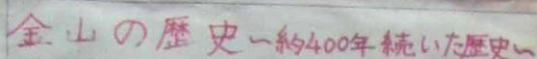
金 銀 の ほり 方



鉛 石 から 金 になるまで



河原田小学校 6年生



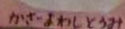
2330

坑道では 地下水が湧いてくるために 排水作業が昼夜休む間も続けられていた。また 岩は元々くずれやすいように木で坑道を支える山は、このまゝ行かれたら、

6	0	1	年	相川	金銀	外本	格	的	間	榮	され	る。
1	6	0	3	年	久保	長安	佐度	代官	に	座		
6	0	4	年	佐	幸行	所	つ	く	に			
8	2		年	佐	小	製	造	外	主			
1	7	5	8	年	佐	所	勝	に	置	す	れ	る。
8	6	9	年	佐	秋	に	重	外	設			
1	8	7	7	年	西	坂	の	立	に	成	す	る。
8	8	9	年	佐	洋	道	の	天	定			
8	9	6	年	佐	産	が	皇	財	と			
7	4	0	年	相川	北	津	薨	に	下			
8	8	9	年	佐	北	津	邊	に	座			
				佐	北	津	邊	を	休			

[illegible]

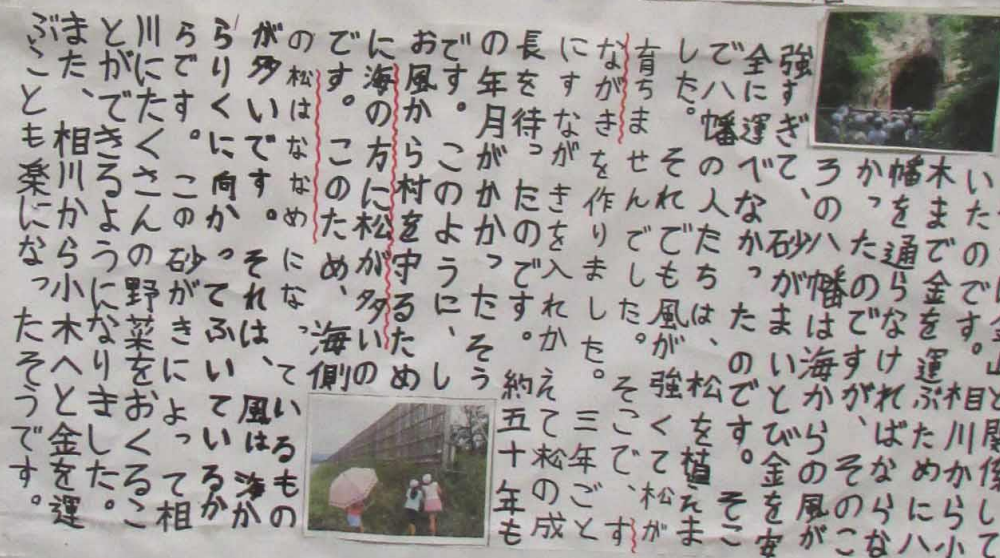
その他にもいろいろな道具が使われていた。仕事がとても楽にできるように道具を工夫して作られていた。それがすごいのと思った。



八幡の島
浪人已太
松は少
太郎石
太島
郎よ
めか

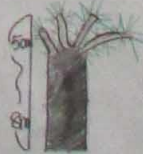
門といふ男がいました。本間太郎右衛門
石は、強い浜風や、浜風によ
植えたその村の人たちも、手伝
ううちに、松を植えてい
また、研究をしたそうです。
お奉行様が買つてい、たそう
郎右衛門は越訴を行いました。
その結果、組税は軽くなりまし
りました。太郎右衛門は死罪とな
刑が執行される日、太郎石
右衛門が打ち首になろうと、
に、白鳥は、今でもハ幡を見
中、

松は三百五十年前に植えられ
ました。それは金堀川に用ゐられ



園にありまな松は、
 前とく院し。松は、
 す。特ちこの松は、
 接当たらないうの
 す。アカマツの
 30mです。

海側の松は、ひくさいます。花が、さいこ
 とです。花が、さいこ
 う葉が、緑色の年々、
 高さは、全部の松を
 合せて8m、50mまで育ちま
 す。松の花粉は、春になると、
 出ます。さわたりすると多く
 出てきます。
 松のしるいは、四し、類あ
 ります。たとえれば、秋から冬にか
 けて、葉が落ちる木です。



松の年は分かるか

八幡小学校のすぐそばに、集落センターという建物があります。その集落センターに、松くい虫のせいであつた、松の切りかたが、たくさんありました。それを「年輪」と言います。年輪を数えろと、松の年が分かります。おこしかけの松の年輪は、半分まで数えたら、百おくぐらいたつたのだと分かりました。



松くい虫ってなに？

松くい虫とは、木の中に入りこんで半年ほどで一本の松をくらしてしまふ虫のことです。小木に島外から木が運びこまれた時、その木とともに、島内についできてしまい、佐渡中に、松くい虫が広がりました。おこしかけの松も松くい虫が入つてしまいかれて、たおれてしまつたのです。松を守るために、私達にできることがないかさがしま

松の本数

みなさんは、八幡の松が何本あるか知っていますか？
実は三万八千九百十二本あります。土地を守るために八幡では、松が多く植えられています。

松の働き

松は強い潮風により吹き上げる砂から八幡を守るために植えられ、松があるところ葉や枝で陸が守られます。



私達にできる事は

松林を守るために私達に何ができることはないか。松林組合の方々にお聞きしました。すると、松食い虫から松を守るためには、松林をきれいにするのを手伝つてほしい。具体的には、左の四です。



そこには松林組合の方々が、早くするとともに風通しをあるていどよくして、松くい虫をよせつけ、伐採するようにするのです。下枝取りを終え、風通しを良くする、松林が明るい、松を守り、心地のよい八幡を大切にしたいです。



[illegible]

「金の道」

～ in 羽茂編～ 羽茂小6年生

佐渡金山について

- ・佐渡金山は、1601年に山師により、開山されたと言われています。
- ・1869年に、西洋人技術者を招いて、機械化され、近代化されました。
- ・1989年 残念ながら資源不足のため400年近くにわたる長い歴史に幕を閉じました。



佐渡金山の特長

佐渡金山の長さは東西3000m、南北600m、深さ800mに広がっていました。とれた金はなんと、78トンで、銀は2330トンです。

世界遺産候補

- ・江戸から明治、そして平成の操業停止にいたるまでの長い歴史。そして豊かな自然の中に溶けこんでいる所に残されています。
- ・広大なしきちにある採掘施設など、そのほとんどが国の重要文化財に指定されています。
- ・2010年には、ユネスコ世界遺産候補暫定リストに指定されています。
- ・現在、本登録に向けて準備が進んでいます。

羽 茂 の 歴 史

小泊白山神社

小泊には白山神社能舞台があります。集落の能舞台として歴史があること、また社殿側を意識した配置と建築的意匠や通成寺、用鉤鐘穴など佐渡の能舞台の痕跡を有していることから、民俗文化財として貴重です。



石白塚

羽茂地区小泊の石工の歴史は古く、真野地区椿尾と共に石工で栄えた村です。

石白は当時の生活必需品であり、交易品の一つでしたが時代の流れと共に使われなくなり、1977年に石白を集め白山神社に奉納され、この塚が作られました。全国でも珍しいです。



ばんどこ(番所)

ばんどことは、警備や見張りなど、役目にあたる番人が詰めた施設です。陸上交通は、五街道など幹線道に幕府が設けた関所の建物が番所とよばれていました。



佐渡奉行所

佐渡奉行所は相川地区にあり、1603年に相川金銀山のふもとに佐渡奉行所が建てられました。奉行所は佐渡金山から出た金を小判にし、江戸(現在の東京)に送っていました。佐渡奉行所跡は、約18500㎡の広さがあります。



一里塚にハッ

い ち り づ か と は ？

今でいう、約3.92
7キロの二と。

佐 郎 の 里 塚

田 集
窪 手 祀 山
東 流 鉄 村
② ④ ⑥ ⑧
山 已 立 泊 木
中 辰 小 小 小
① ③ ⑤ ⑦ ⑨
佐 一 佐 田
い の ー 豊 山 ち



Y.A.
19

Q2 31

7	イ	ス	コ	ナ	一	一
て	い	ま	し	は	を	え
に	も	木	々	が	を	植
ま	し	た	の	を	植	え
植	え	の	い	な	木	々
1	松	て	う	し	を	う
4	か	2	た	よ	う	植
6	が	で	う	め	3	き
	植	7	栗	ち	8	杉

Q. 1

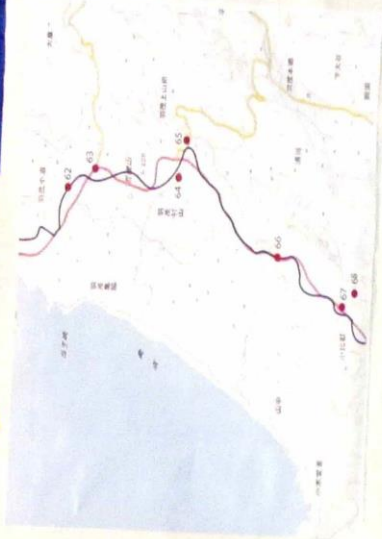
Q. 2

復の次に多く植えられたい木はどれでしょう。

1	松	2	檜	3	榎
4	栗			5	杉



相川街道 in 羽茂
(金の道) ツツア



しとひと | 対た. たが
今は | 基たけに | なる.

とても古いヤウで
佐渡には少ない



反対がわにはふたつ、
という家がある。

佐渡で完全に焼けて
いる最後の一里塚

右に「小比叡山、左に」

わに「小比叡山」主に「蓮華」山と
がわかれた石門にある。

金の道新聞

小木小学校

私達は総合の学習で、佐渡金銀山や金の道について学習しました。この金の道新聞では、金の道のゴールとなっていた

木崎神社の事や、金の道の絵地図、写真、私達が国府小学校で発表した佐渡金銀山の劇そして、小木が天然の良港と呼ばれていたわけをお伝えします!!

この新聞でぜひ金の道の事を知ってください



これは、相川の金の道の絵地図です。

小木の金の道



小木町で、木崎神社は金の保管庫でした。また、金の積み出し港として、小木港が使われるので、金が運ばれました。その道の事を、「金の道」と、言います。

これは金の道を歩いていく様子です。昔は、馬の上で金を運びました。

昔の地図は、このように描かれています。小木小学校には、この地図があります。



5. 支援・助成事業

【文化財保存継承事業】

佐渡鷺流狂言研究会「後継者育成」

- ・狂言講座 通年 毎週月曜日 10 名
- ・真野中学校での指導 年 15 回
- ・公演等 年 11 回

高千中学校「文弥人形保存継承」

- ・文弥人形参加者 22 名
- ・8 月 13 日 たかち芸能祭 高千中学校体育館
- ・10 月 25 日 文化祭 高千小学校体育館
- ・1 月 26 日 文弥人形・館の紹介 高千中学校

【伝統文化等保存支援事業】

羽茂高等学校「郷土芸能部」

- ・生徒 27 名
- ・第 39 回全国高等学校総合文化祭
(7 月 26 日～8 月 1 日)
伝承芸能部門 上位 4 校
郷土芸能部門 優良賞

佐渡の能を識る会「伝統芸能体験学習」

- ・金井中学校 講義「能・世阿弥・佐渡」
- ・体験講座 学生 58 名 一般 36 名
- ・文化国流・佐渡能のレクチャー
島外小学校 2 校参加

文弥人形 真明座「第 30 回国民文化祭出場」

- ・参加者 5 名
- ・第 30 回国民文化祭・ かごしま 2015
文弥節人形浄瑠璃の祭典 (11 月 8 日)

山田やまびこ会「第 30 回国民文化祭出場」

- ・参加者 11 名
- ・第 30 回国民文化祭・ かごしま 2015
全国はんやの祭典 (10 月 31 日)

6. 連携事業

【新潟大学人文学部・

佐渡市教育委員会連携協定事業】

シンポジウム

「遺物・遺跡の語る 佐渡の古墳時代」

日時 平成 27 年 11 月 14 日 (土)

午前 9 時 15 分～12 時 15 分 現地見学会

午後 1 時 15 分～4 時 50 分 基調講演、報告、鼎談

会場 金井コミュニティセンター ほか

入場者数 170 名

内容 (76 頁にチラシを掲載)

- ・現地見学会

解説者 新潟大学人文学部教授 橋本博文氏

行程

金井コミュニティセンター集合→蔵王遺跡
(車中見学)→千種遺跡(車中見学)→佐渡
博物館にて島内古墳副葬品等見学

伝鹿伏山出土石製模造品のレプリカ

蔵王遺跡出土遺物 (内行花文鏡・珠文鏡)

住吉古墳出土遺物

(鉄刀・馬具・耳環・須恵器・土師器)

ケラマキ 5 号古墳出土遺物 (須恵器・刀子等)

橘古墳出土遺物 (鉄刀・鉄製農具・土師器・玉類等)

→豊田浜田遺跡 (車中見学)→真野宮移築古
墳石室 (三貫目沢西古墳)→ケラマキ 3 号墳・
5 号墳→金井コミュニティセンターで解散

- ・シンポジウム

基調講演 古墳時代佐渡の文化交流史

講演者 新潟大学人文学部教授 橋本博文氏
概要

古墳時代を早期 (3 世紀前半 卑弥呼の時代)、
前期 (3 世紀後半から 4 世紀)、中期 (5 世紀頃)、
後期 (6 世紀頃)、終末期 (7 世紀 飛鳥時代) に
区分して考える最近の動向に沿って、各期の様相
を概説。

島内の遺跡から出土した威信財や祭祀関連の遺物、発見された建物跡や古墳について、県内外の遺跡から出た類例・技法の類似性・自然科学分析から推定される搬入経路を示し、文化交流や技術伝播の全国的な動きの中で佐渡の古墳時代遺跡・遺物を解釈する際の見方を解説していただいた。

報 告 土器からみた古墳時代の佐渡

報告者 新潟県教育庁文化行政課副参事 滝沢規朗氏
概 要

弥生時代終末期から古墳時代にかけての遺跡から出土する土器の形態と器種組成などの様相について、越後と佐渡とで時期ごとの資料数に隔たりがあるとしながらも、両地域で時期ごとの比較を試みた。

土器の実測図を多く提示することで、専門家向けの内容になりがちな各論を一般大人向けにできるだけわかりやすく解説していただいた。

現時点では、弥生時代後期から古墳時代を通じて、佐渡の土器様相は越後北部～柏崎平野あたりよりも、頸城平野～能登あたりの様相に近い、一方で、古墳が全国で築造されるようになる古墳時代前期前半は能登・越中的な様相よりも頸城平野～糸魚川市周辺との類似性が強まる、と結論付けた。

報 告 集落遺跡からみた古墳時代の佐渡

報告者 佐渡市世界遺産推進課主任 鹿取渉氏
概 要

佐渡で古墳時代の人々が暮らし、社会を形成した基本単位である集落の遺跡について位置・立地・時期・遺構・遺物・推定される生業など、調査で明らかとなった内容を図・写真を用いて紹介。報告の中で示した集落遺跡は次のとおり。

千種遺跡・二反田遺跡・東沢遺跡・帆柱川遺跡・畑田遺跡（旧金井町）、蔵王遺跡（旧新穂村）、晝場遺跡・出崎遺跡・寺田遺跡・竹田沖条里遺跡（旧畑野町）、浜田遺跡・竹田沖条里遺跡（旧真野町）・

二宮加賀次郎遺跡（旧佐和田町）

鼎談は、橋本博文教授が進行役となり、講演・報告の中で示された視点について、滝沢副参事・鹿取主任との3者で情報を持ち寄る形で和やかに行われた。来場者からの質疑も受け付けて3者で応答した。

文化交流というテーマを設定した関係で、生活史や自然史などに十分に言及できなかったり、時間の制約で、肅慎の来島について触れることができなかったが、市民の皆様に古墳時代の佐渡について理解を深めてもらう機会となった。

なお、今回のシンポジウム（午後の部）は音声を録音した。正式な記録・報告は新潟大学人文学部において作成し、新潟大学大学院現代社会文化研究科・新潟大学人文学部が発行する「佐渡・越後文化交流史研究」等に収録・刊行される予定である。

遺物・遺跡の語る 佐渡の古墳時代

2015年11月14日(土) ● 金井コミュニティセンター

13:15~16:50

佐渡市千種240(旧金井町)

入場
無料

申し込み不要

定員:150名

【基調講演】

橋本 博文(新潟大学人文学部教授)

「古墳時代佐渡の文化交流史」

【報告】

滝沢 規朗(新潟県教育庁文化行政課副参事)

「土器からみた古墳時代の佐渡」

鹿取 渉(佐渡市世界遺産推進課主任)

「集落遺跡からみた古墳時代の佐渡」



真野宮境内移築石室(三貫目沢西古墳)

関連事業:見学会

11月14日(土) 9:15~12:15

参加費 1,000円(佐渡博物館の入館料免除)

定員 40名(抽選)

見学地 千種遺跡－蔵王遺跡－浜田遺跡(3遺跡は車中見学)－佐渡博物館
－真野宮境内移築石室(三貫目沢西古墳)－真野古墳群

集合・解散場所 金井コミュニティセンター

★見学会のお申し込み方法

住所、氏名、電話番号を明記の上、11月7日(土)までにFaxかハガキで下記へお申し込み下さい。参加者が多数の場合は、抽選となります。参加決定の方には、後日詳しいご案内をいたします。

お申し込み・ 佐渡学センター(佐渡博物館内)

問い合わせ先 〒952-1311 佐渡市八幡2041 Tel・Fax 0259-52-2447



蔵王遺跡出土鏡

主催:新潟大学人文学部

共催:佐渡市教育委員会

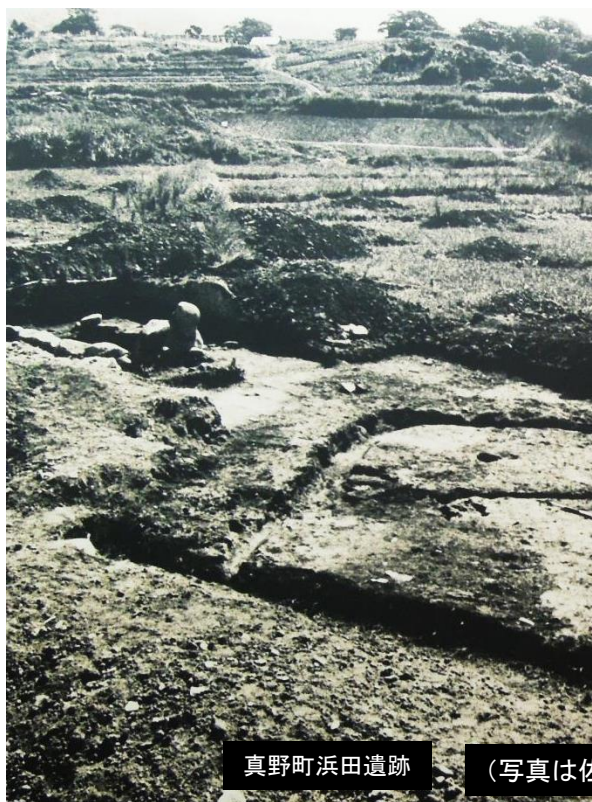
<開催趣旨>

現在の新潟県の県域は、古代には越後国と佐渡国という二つの国域から成っていました。それを遡る古墳時代において、両地域はどのような関係にあったのでしょうか。さらに周辺地域、ひいては中央大和政権と佐渡との関係を文化交流史という視点で、土器・集落・古墳などの遺物・遺跡のルーツから探ってみたいと思います。

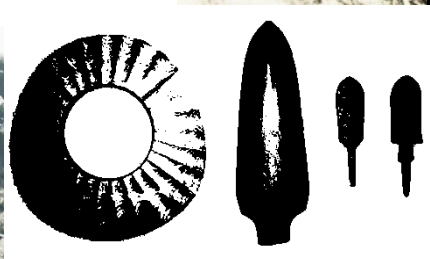
佐渡における考古学調査・研究の歴史は、地元郷土史家による大正・昭和初期の活動に遡ります。その後、昭和30年代の九学会連合による総合調査や佐渡考古歴史学会有志による調査に継承されます。さらに昭和40年代以降の全国的な高度経済成長期に開発行為に先行する「記録保存」というかたちで行政機関の主導のもと分布調査・発掘調査が行われ、遺物などの資料が蓄積されてまいりました。今回は、それら先人の調査・研究を振り返り、学びながら、上記のテーマを検討するものです。



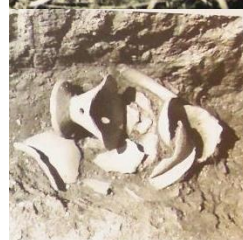
相川町台ヶ鼻古墳



真野町浜田遺跡



相川町鹿伏山出土遺物レプリカ
(原資料宮内庁書陵部所蔵)



(写真は佐渡市教育委員会提供)

<講師紹介>

鹿取 渉(かとり わたる)

1972年、福島県いわき市生まれ。東洋大学文学部史学科卒。(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団嘱託員を経て、1999年より金井町勤務。現在、佐渡市世界遺産推進課文化財室埋蔵文化財係主任。佐渡の古墳時代遺跡として、東沢遺跡(市立金井小学校新設)や二宮加賀次郎遺跡(県道妙照寺佐和田線拡幅)の等の調査に携わる。主な著作に「新穂玉作遺跡群の調査と特質」「今なぜ佐渡の玉作かー離島「佐渡」の玉作文化を探るー」、「佐渡の弥生〜古墳時代遺跡」「平成25年度 越後国域確定1300年記念事業 記録集」、「佐渡金銀山遺跡の調査ー水道事業を中心にー」「新潟県考古学会第26回大会 研究発表会発表要旨」等。

滝沢規朗(たきざわ のりあき)

1966年、新発田市(旧紫雲寺町)生まれ。國學院大学大学院文学研究科を修了した後、1992年から新潟県教育委員会に採用される。県埋蔵文化財調査事業団や旧朝日村教育委員会に派遣され、村上市奥三面遺跡群の元屋敷遺跡、長割遺跡や山元遺跡などの調査を担当する。2011年度からは、これらの経験を活かし、教育庁文化行政課で国や県の関係部局との調整、市町村埋蔵文化財行政への支援や助言など、新潟県内の埋蔵文化財保護に携わっている。現在、文化行政課副参事。専門は古墳出現前後の土器で、土器の編年や地域性、煮炊きの痕跡の検討を通じて、当時の生活をアプローチできるかを主なテーマとしている。主な著作に「阿賀北における古墳時代前期の土器について(上)(下)」「三面川流域の考古学」第9・10号、「続縄文土器と在地土器の併行関係」「古墳と続縄文文化」高志書院、「越後・佐渡における鉄器と青銅器ー伝来の系譜と性格ー」「古代文化」第66巻第4号等。

橋本博文(はしもと ひろふみ)

1953年、群馬県太田市生まれ。早稲田大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得・満期退学。博士(文学)。専攻は日本考古学。早稲田大学校地埋蔵文化財調査室に助手として勤務後、1995年より新潟大学人文学部に採用される。現在、同大学人文学部教授。埴輪や古墳時代の豪族居館を研究テーマとする。なお、近年は佐渡金銀山に導入されたアルキメデス・ポンプの伝播過程や、佐渡金山の描かれた浮世絵などの研究に取り組む。主要著作に、『東国と大和王権』(吉川弘文館、共著)、「古墳時代の社会構造と組織」「現代の考古学」第6巻(朝倉書店)、『佐渡を世界遺産に』(新潟日報事業社、編著)、『佐渡金銀山に関する資料をヨーロッパに訪ねて』(新潟大学旭町学術資料展示館、編著)等。

佐渡学セミナー

第5回「佐渡学セミナー」

日時 平成28年2月20日(土)

午後1時30分～4時45分 講演、報告

会場 トキのむら元気館

入場者数 122名

内容

- ・講演 1964年新潟地震による佐渡両津の津波被害について

講演者 新潟大学人文学部准教授 堀健彦氏

- ・報告 1964年新潟地震の体験と写真資料
ー聞き取り調査からー

報告者 新潟大学人文学部地理学研究室

概要

堀准教授が在籍する新潟大学人文学部地理学研究室では、日本海中部を震源とする地震、あるいはそれに伴う津波を考えて、それに備えるという観点から、1833(天保4)年 庄内沖地震(震源: 庄内沖、マグニチュード7.5クラス)・1964(昭和39)年 新潟地震(震源: 栗島沖)の2つを比較して被害状況を調査している。この2つの地震は、震源域が近い・地震の規模が似ている・日本海側に広範に被害をもたらした・記録が比較的多く残っている(新潟地震は体験者からの聞き取りが可能)といった共通点がある。

石川県の輪島における庄内沖地震時の被害も調査している。輪島は浜堤上に築かれたことから、両津と地形条件が似ている。古文書と絵図面から被害状況を知ることができる。

平成26年度からGPS機器を使った微地形測量と同時に、学生たちによる聞き取り調査・写真等の資料集め(「昭和39年新潟地震の津波到達範囲およびその周辺の微地形測量」)を実施しており、その中間報告を兼ねた発表であった。

その結果、新潟県による記録「新潟地震の記録地震の発生と応急対策」新潟県 1965で公表された被害範囲に比べてより詳細に被害範囲が明らか

になりつつあることが示された。

また、新潟地震時に両津では、津波が浜堤頂部を基本的には超えなかったことが明らかとなったが、被害の有る無しを分けた大きな要因は国土地理院が公表しているデータではとらえきれない微細な地形起伏であり、今後もさらに両津の町内の微地形を明らかにすることで、今後も来るであろう地震・津波被害の正確な予想とそれに応じた適切な行動につなげたいとした。

- ・講演 笑いの科学／科学の笑い

講演者 新潟大学人文学部教授 井山弘幸氏

概要

井山弘幸教授は、新潟大学教員としての授業や研究者としての著述の傍ら、佐渡看護専門学校の講師として30年来佐渡に通い、同専門学校で論理学を教えている。

笑う側の心に何が起きているかについての研究は多いが、笑わせる側の仕掛けについての研究は少ない。

講演題にもあるように、今回のセミナーでは笑いの仕組みについて、著名な哲学者や思想家や小説家たちが示した理論(「何が面白いから笑うのか」)を引合いにだし、お笑い番組のDVDやチャップリンの喜劇映画の1シーンも該当例として上映しながら、それぞれの類型を解説してくださった。

笑いの対象が、自分が今いる現実から心理的にある程度離れた距離にあるとき笑いが起きるということは学問的に判明しているが、まだまだわからないことが多いのが現状であるとした。

地域に関係なく多くの人が日々関心を抱くテーマであり、有意義な時間を過ごすことができた。

今回の佐渡学セミナーは音声を録音した。正式な記録・報告は佐渡学センターにおいて作成し、佐渡市教育委員会社会教育課佐渡学センターが発行する「佐渡学セミナー記録集」等に収録し、刊行される予定である。

表現プロジェクト演習 Q

(佐渡のお祭りに参加しよう！)

日時 平成 27 年 9 月 12 日 (土) ～15 日 (火)

会場 赤泊地区

津波調査

「昭和 39 年新潟地震時の津波」調査

期間 平成 27 年 9 月 7 日～10 日

平成 28 年 2 月 21 日 (日) ～22 日 (月)

調査地区 梅津～春日町～両津夷～両津湊地域の

聞き取り調査及び微地形測量

調査者 新潟大学人文学部地理学研究室職員・学生

7. イベント（共催事業）

- ・宵乃舞（史跡佐渡奉行所跡）
平成 27 年 6 月 6 日 (土) ～7 日 (日)
- ・白山丸まつり（佐渡国小木民俗博物館）
平成 27 年 7 月 25 日 (土) ～26 日 (日)
- ・佐渡國相川ひなまつり
茶会（史跡佐渡奉行所跡）
平成 28 年 3 月 20 日 (日)

8. 刊行物

- ・佐渡学センター 年報第 7 号
- ・第 4 回 佐渡学セミナー記録集
- ・佐渡博物館クイズブック
初級／中級／上級／博士コース
(佐渡市小学校教育研究会社会科部 作成)
(次頁から資料掲載)
- ・相川郷土博物館クイズブック ①／②
(佐渡市小学校教育研究会社会科部 作成)
(82 頁から資料を掲載)



佐渡博物館クイズブック

(初級／中級／上級／博士の4つのコースから選べる！)

問題1 相川の中山トンネルでは、ティラノサウルスの歯が発見されました。○かな、×かな？

こたえ ()

問題5 これは、真野にあった国分寺の瓦です。この瓦は博物館の2階に展示してあります。○かな、×かな？

こたえ ()

問題2 これは、中国のつぼです。○かな、×かな？

こたえ ()

問題6 佐渡の寛永通宝というお金のあなの形はどんな形でしょうか。○かな、□かな？

こたえ ()

問題3 これはシカやイノシシを取るときに使いました。○かな、×かな？

こたえ ()

問題7 鬼のお面はどっちでしょうか？
①かな、②かな？

こたえ ()

問題4 金の環が両津のお墓から出てきました。○かな、×かな？

こたえ ()

クイズ例 1 (初級コースより)

問題1 この館内にある鬼太鼓の鬼のむねあてのマークは、次のどれでしょうか。

①  ②  ③ 

こたえ ()

問題2 赤泊地区で発見された花の名前のような化石の名前を次のの中から選びましょう。

①ウミユリ ②ウミバラ ③ウミギク

こたえ ()

問題3 ナイフ型石器の色は何色でしょうか。

①白 ②きいろ ③あお

こたえ ()

問題4 金井から弥生時代の貝が出てきたよ。それは次のどれでしょうか。

①サザエ ②アワビ ③シジミ

こたえ ()

 **あと半分だよ。ファイト！**

問題5 写真のお金は日本で最も古いお金です。このお金の正しい名前は次のうちどれでしょうか。

①億万長者 ②佐渡万円 ③和同開珎

こたえ ()

問題6 世阿弥は、どこから佐渡に来たでしょうか。

①東京 ②京都 ③北海道

こたえ ()

問題7 青面金剛の手は何本でしょうか。

①4本 ②6本 ③9本

こたえ ()

もうちょっとだよ。がんばれ！ 

クイズ例 2 (中級コースより)

問題16 佐渡の3つの人形芝居のうち、一番古いのは何でしょうか。

こたえ ()

問題17 三途の川で着物をはぎ取ると言われる、十王像の端にいる女の人は、だれでしょうか。

こたえ ()

問題18 佐渡に売られて目が見えなくなった母に地蔵菩薩を当てたら、目が見えるようになったという物語は何でしょうか。

こたえ ()

問題19 南の国から佐渡に流れ着いた、丸くて、こげ茶で、バスケットのような形のカタカナ3文字のものはなんでしょうか。

こたえ ()

ふう。一休み。 

問題5 縄文時代にやりりなどにも利用された黒い石は何とよばれますか。

こたえ ()

問題6 磨製石斧は柄をつけて〇〇として使いました。〇〇にひらがな2文字を入れましょう。

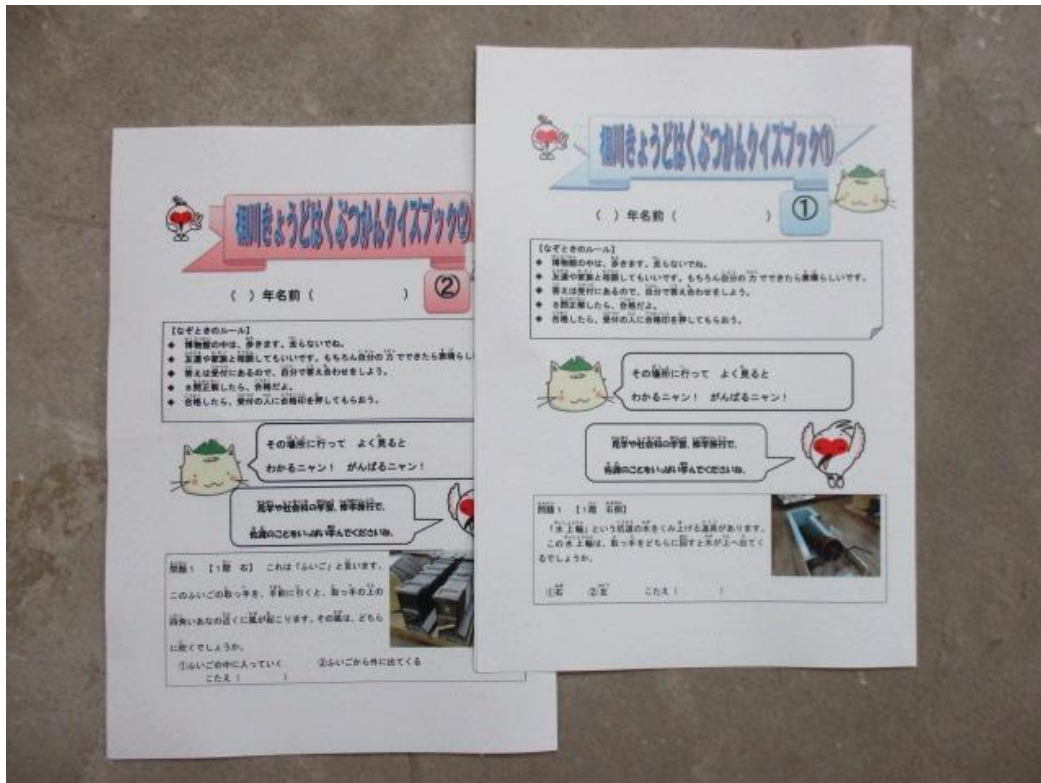
こたえ ()

問題7 弥生時代に使われていたこの調理道具は何でしょうか？

こたえ ()

この鍋子だよ。がんばれ！ 

クイズ例 3 (上級コース)



相川郷土博物館クイズブック ①／②

問題2

明治時代、佐渡金山が皇室の持ち物だった時期がありました。そのときに作られた瓦が展示されています。その瓦は次のうちどれでしょうか？





こたえ ()

問題6

佐渡金銀山は、平成元年（1989年）に金を掘るのをやめました。掘り始めてから掘るのをやめるまで、何年経つでしょうか？

① 265年（江戸時代と同じくらい）
 ② 389年（一番長く続いた平安時代くらい）
 ③ 724年（平安時代の倍くらい）

こたえ ()

問題3

相川の社寺には、絵馬がたくさん残されています。祈願絵馬、盆踊絵馬の他にこの土地ならではの絵馬があります。それは何でしょうか？

① トキが飛んでいる朱鷺絵馬
 ② 遠逝の割戸が金で飾られた金山絵馬
 ③ 山を掘るための道具で飾られた鉱具絵馬

こたえ ()

問題7

写真家は、佐渡金山に派遣された外国人技師のスコットさんです。スコットさんのように佐渡金山に派遣された外国人技師は何人いたでしょうか？

① 7人 ② 70人 ③ 700人

こたえ ()

問題4

金鉱脈がやわらかくなって、鉱石の採掘がしやすくなるように祈るのは「やわらぎ」ですが、やわらぎの親方の衣装に描かれている生き物は、次のうちどれでしょうか？




① 毛虫 ② ムカデ ③ サダガエル

こたえ ()

問題8

「小判ができるまで」の工程を順番に並べましょう。

① 採鉱（鉱石を掘り出す）
 ② 製錬（溶かして金を取り出す）
 ③ 選鉱（金の石と違う石を分ける）
 ④ 精製（小判にする）

こたえ (→ → →)

問題5

江戸時代の遊女が使用していた楽器が二つ展示されています。一つは「しめ太鼓」、もう一つは何でしょうか？

① 笛 ② 琴 ③ 三味線

こたえ ()

もうちょっとだよ。がんばれ!



クイズ例1（クイズブック①より）

問題2

明治時代に作られた建物は、ヨーロッパの国々の建築方法をもとに建てられました。発電所を建てるときに使われたブロックの積み方は次のうち、どこの国の積み方でしょう。

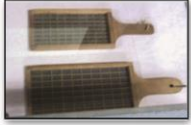



①イギリス
②フランス
③ドイツ

こたえ ()

問題5

一朱金や一分金などの小粒な金額を計るために使われた写真の道具を何と言うでしょうか。



①銭秤 ②銭升 ③銭並べ

こたえ ()

問題3

間切という杭道の長さなどを調べる作業のとき、検査をする役人だけが頭にのせている帽子（今のヘルメットのようなもの）を何と言うでしょうか。



①かしら ②てへん ③しめすへん

こたえ ()

問題6

この人は、佐渡出身で日本の外務大臣になった「有田八郎」さんです。この有田さんが書いた色紙に残されている文字は、次のうちどれでしょうか。



①「何より 平和」
②「何より 家族」
③「何より 日本」

こたえ ()

問題4

佐渡で最初の火力発電所は、100年以上前の明治41年（1908年）にできました。その発電所の名前は次のうちどれでしょうか。



①南沢火力発電所
②花沢火力発電所
③北沢火力発電所

こたえ ()

2階展示室からの出題

問題7

写真にある机は、〇〇〇室に実際に置いてあった机です。〇〇〇の中に当てはまる正しい言葉は次のうちどれでしょうか。



①釜山長
②嶺山長
③相川長

こたえ ()



クイズ例2（クイズブック②より）

V. 関係団体

【佐渡市博物館協議会等】

佐渡市博物館協議会及び佐渡博物館活用検討部会では、「佐渡博物館の活用」について、具体的な基本理念や取り組むべき活用内容を議論した。

第 1 回 佐渡市博物館協議会

平成 27 年 7 月 16 日（木）

協議内容

- ・平成 26 年度博物館・資料館の事業並びに決算報告について
- ・平成 27 年度博物館・資料館の事業中間報告について
- ・佐渡市博物館への寄贈品について
- ・佐渡博物館内、専門部会の設置について

第 1 回 佐渡博物館活用検討部会

平成 27 年 10 月 6 日（火）

検討内容

- ・佐渡博物館の基本理念
- ・3 部会のたたき台案について
- ・資料の収集・保管・調査研究に関する検討について

第 2 回 佐渡博物館活用検討部会

平成 27 年 10 月 30 日（金）

検討内容

- ・佐渡博物館の基本理念について
- ・資料の収集・保管・調査研究に関する検討について
- ・展示・企画について
- ・体験・普及・広報について

第 2 回 佐渡市博物館協議会

平成 27 年 11 月 18 日（水）

協議内容

- ・佐渡博物館の活用計画について
- ・平成 28 年度の事業内容について

VI. 日誌抄

【佐渡博物館】

- 4月17日 日刊工業新聞 取材
- 7月11日 BSN 取材
- 16日 佐渡市博物館協議会
- 21日 佐渡テレビ、新潟日報 取材
- 22日 スタンプラリー開始
- 8月23日 武蔵野美術大学借用資料の返却
- 9月11日 新潟大学剥製借用下見
- 15日 八幡祭り豆まき
- 20日 BSN 取材
- 10月2日 南佐渡中学校 職場体験
- 6日 佐渡博物館 活用検討部会
- 9日 SOHO 撮影
- 30日 佐渡博物館 活用検討部会
- 11月6日 佐渡小判里帰り展 開始
- 12日 佐和田中学校 職場体験
- 14日 新潟大学シンポジウム、現地見学会
- 18日 佐渡市博物館協議会
- 30日 2階展示室展示替え作業開始
社会科教諭クイズブック打ち合わせ
- 12月2日 原田泰治が描く日本の原風景展 開始
- 5日 文化講演会『“ふれあい”と文化創生の
場としての博物館』
- 14日 BSNラジオ出演（滝川学芸員）
- 1月4日 ホール展「小学生が見た金の道」開始
- 13日 サントリー美術館作品返却
- 15日 新潟日報 取材
市報 取材
- 26日 二十八部衆 撮影
- 27日 新潟日報 取材
- 28日 NHK新潟放送局 取材
- 2月5日 2階美術工芸展示室 展示替え
- 17日 「どじょう物語」配布開始
文化の記憶館 麦僊作品貸し出し
- 20日 佐渡学セミナー開催
- 3月8日 NHK 視察
所蔵の刀剣類保管作業
- 11日 BSN 取材
- 12日 八幡「銀杏会」よりチューリップコンテ
ナ18個届く
- 20日 八幡「銀杏会」よりチューリップコンテ
ナ14個追加

【両津郷土博物館】

記録なし

【相川郷土博物館】

- 4月6日 新潟大学 盆踊絵馬 撮影
同志社大学 徳利調査
- 13日 財) 農業環境技術研究所 パレオパラド
キシアの歯調査
- 5月4日 国税庁税務大学校 調査
- 13日 『これからの民俗技術』40冊寄贈
- 20日 ふれあいガイド 資料撮影
- 27日 地役人台帳2冊、町人台帳2冊 佐渡博
へ移動
- 6月6日 宵乃舞（～6月7日）
- 12日 川上家文書閲覧
- 7月18日 「遊女50 特別展」ネガアルバム佐渡博
へ移動
- 8月23日 文書館資料 調査
- 26日 学芸員実習受け入れ（～8月27日）
- 29日 BSN 撮影
- 9月21日 社会科教諭 クイズブック作成作業
- 22日 ゴールデン佐渡 撮影
- 10月12日 社会科教諭 クイズブック作成作業
- 18日 善知鳥神社 相川祭りで使う道具を運び
入れ
- 11月11日 障害者職業体験の受け入れ（～11月18
日）
- 20日 新潟大学 展示カード撮影
- 1月25日 防災訓練（文化財防火デー）
- 2月17日 有田八郎資料3点 にいがた文化の記憶
館へ貸出

【史跡佐渡奉行所跡】

- 4月21日 相川観光循環バスのフリーパス開始
スカイライン開通
- 5月24日 佐渡テレビ 撮影
- 28日 宵の舞打ち合せ
- 6月6日 宵の舞（～6/7）
- 7月29日 お茶会打ち合せ
- 8月6日 文化庁職員 工事視察
- 19日 観光振興課 撮影

9月13日 こいっちゃんまつり
 14日 株式会社トラベリエンス 取材
 10月1日 ドラぶら開始（～11月30日）
 9日 創朋 撮影
 15日 「さどんぼ」の撮影
 27日 観光振興課 撮影
 お茶会打ち合せ
 28日 お茶会打ち合せ
 30日 NEXCO 東日本新潟支店「ドラぶら」
 31日 シンポジウム準備
 お茶会準備
 幕 張り替え
 11月1日 お茶会
 シンポジウム
 24日 スカイライン閉鎖
 12月25日 株式会社グリップ 撮影

【相川技能伝承展示館】

記録なし

【佐渡国小木民俗博物館】

4月5日 新潟大学 展示品の計測
 7日 離島センターより雛人形 返却
 12日 県議会選挙のため「3年教室」使用
 13日 新館収蔵品を確認・検討
 5月2日 佐渡国小木民俗博物館活性化事業 撮影
 8日 友の会草刈り
 13日 愛する会 車椅子借用
 17日 佐渡ロングライド
 6月12日 借出し資料確認
 16日 工学院大学撮影
 18日 白山丸 BS・JAPAN撮影
 20日 ジオパーク市民講座はんぎり茶屋使用
 30日 地域おこし協力隊 チラシ許可申請
 7月10日 観光協会 撮影
 24日 祭用関係の道具等運搬
 25日 白山丸前夜祭
 野辺地町 視察
 26日 白山丸まつり
 野辺地町 視察
 27日 白山丸まつり 片付け
 8月18日 立教大学 調査の為はんぎり茶屋使用
 28日 称光寺の資料を収蔵庫へ
 9月1日 友の会草刈り

17日 収蔵庫 指定品チェック作業開始
 25日 地域おこし協力隊 宿根木プロジェクト撮影
 26日 佐渡国小木民俗博物館活性化事業 博物館調査
 27日 佐渡国小木民俗博物館活性化事業 博物館調査
 10月1日 佐渡南中学校4名 職場体験
 7日 創朋 白山丸撮影
 8日 観光振興課 白山丸撮影
 13日 佐渡さんぽ 千石船展示館撮影
 20日 佐渡国小木民俗博物館活性化事業 博物館調査
 28日 収蔵庫 大工道具の点検
 11月4日 NHK 撮影
 7日 県博物館より資料返却
 28日 宿根木プロジェクトはんぎり茶屋使用
 12月7日 「月曜休館日」開始
 10日 佐渡宿根木プロジェクト（千石船案内）
 11日 白山丸友の会会議
 23日 宿根木もちつき（はんぎり茶屋使用）
 1月7日 資料数十点 錆落としのため佐渡学へ
 14日 佐渡国小木民俗博物館活性化事業 会議
 2月3日 火焰式土器の下見
 8日 佐渡国小木民俗博物館活性化事業 館内案内
 29日 佐渡国小木民俗博物館活性化事業 博物館調査
 3月1日 はんぎり茶屋にて『歴観審議会』
 23日 佐渡国小木民俗博物館活性化事業『ジオツーリズム』講演会
 28日 友の会より『時代に帆をあげて』預かり

【海運資料館】

記録なし

【新穂歴史民俗資料館】

4月2日 銀山特別展 新潟日報 取材
 4日 銀山特別展 離島経済新聞 取材
 5日 裂き織り活動 打ち合わせ会
 7日 銀山特別展 新潟日報 追加取材
 8日 地域おこし協力隊 「下車」取材
 28日 写真展 開始

- 5月13日 NHKプラネット 面の撮影
- 16日 NHK新潟放送局 写真展取材
- 22日 友の会打ち合わせ
- 24日 新穂山車保存会 新穂ふる里講座
写真展 最終日
- 29日 銀山友の会 会議
- 7月14日 新穂山王祭り山車展 開始
「高野喜久雄 故郷への思い」展 開始
- 28日 佐渡市役所新穂サービスセンター長
人形の写真撮影
- 31日 朝日新聞社 特別展の取材
- 8月3日 世界遺産推進課 考古資料撮影のため
持ち出し
- 14日 「新穂ふるさと夏まつり」対応で21
時まで開館
- 23日 特別展 最終日
- 27日 ㈱学研パブリッシング 取材
NHKにいがた放送局 取材下見
- 30日 新潟日報 取材
- 9月2日 朝日新聞 デジタルアート撮影
- 10月10日 さっこりサークル 裂き織り作品展の
飾りつけ
- 24日 裂き織り講演会（講師：柳平則子氏）
- 2月11日 さっこりサークル制作講習会
- 15日 土田杏村 原稿を「にいがた文化の記憶
館」へ貸し出し
- 3月1日 パンフレット更新
- 24日 美術工芸作品 アイポートへ貸し出し

【赤泊郷土資料館】

記録なし

佐渡学センター一年報

第7号（平成27年度版）

編集・発行 佐渡学センター
〒952-1311
新潟県佐渡市八幡 2041 佐渡博物館内
TEL 0259-52-2447

発行年月日 平成28年3月31日
